平成29年９月1日発行　文部科学省認可通信教育補助教材

平成29年度

昼間・土曜スクーリング（後期）の手引

スクーリング受講手続日程

①	受講手続説明会	9／22(金)
②	受講申込開始日 (ポータルサイト)	9／22(金)
③	履修登録締切日	10／ 5(木)
	受講申込締切日	**ポータルサイト【24：00まで】** **窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】** **郵送の場合【必着】**
④	受講資格審査 通知予定日	10／20(金)
		※受講届提出者のみ通知郵送します。
⑤	振込用紙発送予定日	10／20(金)
		発送予定日から５日経過しても通知が届かない場合は会計課に連絡してください。
⑥	受講辞退手続締切日	10／27(金)
		窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 **郵送の場合【必着】**
⑦	受講料納入期限	11／ 6(月)
		銀行窓口にて【厳守】
⑧	結果通知予定	2月中旬
		ポータルサイトに掲載します。

開講日程

昼間開講日程	9／26(火)～1／19(金)
土曜開講日程	【9月】30 【10月】14・28 【11月】11・18・25 【12月】9 【1月】13
補講予定日	12／18(月)，1／15(月)

日本大学通信教育部

開 講 日 程

開講日程

年	月	日		月		火		水		木		金		土	
平成29年	9月											1		2	
		3		4		5		6		7		8		9	
		10		11		12		13		14		15		16	
		17		18	敬老の日	19		20		21		22	受講手続説明会	23	秋分の日
		24		25		26	後期 昼1	27	後期 昼1	28	後期 昼1	29	後期 昼1	30	後期 土曜昼1・2
	10月	1		2		3	後期 昼2	4	後期 昼2	5	後期 昼2	6	後期 昼2	7	
		8		9	体育の日	10	後期 昼3	11	後期 昼3	12	後期 昼3	13	後期 昼3	14	後期 土曜昼3・4
		15		16		17	後期 昼4	18	後期 昼4	19	後期 昼4	20	後期 昼4	21	
		22		23		24	後期 昼5	25	後期 昼5	26	後期 昼5	27	後期 昼5	28	後期 土曜昼5・6
		29		30		31	後期 昼6	1	後期 昼6	2	後期 昼6	3	後期 昼6	4	
	11月	5		6		7	後期 昼7	8	後期 昼7	9	後期 昼7	10	後期 昼7	11	後期 土曜昼7・8
		12		13		14	後期 昼8	15	後期 昼8	16	後期 昼8	17	後期 昼8	18	後期 土曜昼9・10
		19		20		21	後期 昼9	22	後期 昼9	23	後期 昼9	24	後期 昼9	25	後期 土曜昼11・12
		26		27		28	後期 昼10	29	後期 昼10	30	後期 昼10	1	後期 昼10	2	
	12月	3		4		5	後期 昼11	6	後期 昼11	7	後期 昼11	8	後期 昼11	9	後期 土曜昼13・14
		10		11		12	後期 昼12	13	後期 昼12	14	後期 昼12	15	後期 昼12	16	
		17		18	後期 補講日	19	後期 昼13	20	後期 昼13	21	後期 昼13	22	後期 昼13	23	天皇誕生日
		24		25		26		27		28		29		30	
		31		1	元日	2		3		4		5		6	
平成30年	1月	7		8	成人の日	9	後期 昼14	10	後期 昼14	11	後期 昼14	12	後期 昼14	13	後期 土曜昼15・試験
		14		15	後期 補講日	16	後期 昼15	17	後期 昼15	18	後期 昼15	19	後期 昼15	20	
		21		22		23		24		25		26		27	
		28		29		30		31							

□…授業日及び補講日

補講は 12 月 18 日(月)，1 月 15 日(月) の2日間だけでなく，その他の曜日にも実施することがあります。補講が行われる場合，指定された補講日に出席する必要があります。

また，補講を行う時限は他講座の補講日程の関係上，必ずしも通常と同じ時限で開講されるものとは限りません。以上のことを承知した上で申込みをしてください。

はじめに

面接授業（スクーリング）とは，教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は，教材による在宅学修では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い，教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から，スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では，学生が多くの受講機会を得られるよう，多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は，その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には，手続きの前にこの『手引』をよく読み，その指示に従って受講してください。

昼間・土曜スクーリングの特色

昼間・土曜スクーリングが他のスクーリングと異なる点は，通学課程と同形態の授業を行うことにあります。また，前期・後期と連続して受講することで，より学修効果が高まります。

なお，大学では適正規模の授業を実施し，かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが，このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは，２年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け，その指導の強化充実を図り，より優れた卒業論文を期待しています。

【受講の調整について】

スクーリングには，十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が，適正受講者数でない場合，大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては，「受講機会の均等」の観点から，各申込者の受講調整履歴，スクーリング受講状況，単位修得状況，在学年数等を総合的に判断し，対象者を確定しますので，あらかじめご了承ください。

なお，講座の適正人数は，おおよそ下表の人数を目安としますが，講座の特性，スクーリングの形態，スクーリング会場の試験時定員数，パソコン台数及び受講学生の履修要件等により，下表によらない場合もあります。

講　　座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65 名	5 名
演　習　講　座	30 名	5 名
上記以外の講座	100 名	10 名

〔調整方法等〕

1. 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合，同じ曜日に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
2. 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
3. 超過人数の状況により複数の講堂に「サテライト配信」を利用して授業を行う場合があります。（メインとなる授業講堂以外は，映像による配信となります。）
4. 上記1・2・3の方法で対応できない場合，調整対象者は当該講座の受講ができません。
5. 受講申込者数が下限に満たない場合，開講を取りやめることがあります。
6. 受講許可講座以外の講座の受講は，認められません。また，一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

目　　次

Ⅰ 受講申込から受講料納入までの流れ
…… 2

Ⅱ 講座の選定
1　受講講座の選定…… 4
2　「教職に関する科目」における新・旧科目について…… 6
3　「英語」科目のレベル標記について …… 6

Ⅲ 時間割
1　時間割…… 8
2　卒業論文指導時間割…… 10

Ⅳ 開講講座表及び講座内容（シラバス）
1　「開講講座表」の見方 …… 12
2　開講講座表・シラバスと使用教材
【曜日・時限順】…… 13

Ⅴ 受講及び試験
1　講座受講時の注意点…… 92
2　スクーリング結果の確認…… 93

Ⅵ 受講手続
1　履修登録をする…… 94
2　講座を申し込む…… 97
3　受講講座の変更・追加……101

Ⅶ 申込講座の許可と不許可
1　受講許可を確認する……102
2　講座振り分け及び受講不許可について…103
3　許可講座を辞退する……104

Ⅷ 受講料等の納入 ……105

Ⅸ 受講準備
1　使用教材の入手……106
2　通学定期券の購入手続……108

Ⅹ オープン受講 ……110

Ⅺ 各種用紙
履修届……113
昼間・土曜スクーリング（後期）受講届……115
オープン受講届（在学生用）……117
オープン受講届（社会人等（卒業生用））……119
スクーリング受講講座変更届……121
受講申込辞退願……123
教材配本申請書……125
教材購入用紙（丸沼書店用）……127
教材購入願（通信教育教材用）……129
通学定期乗車券発行控……131

Ⅻ 付録 ……133

Ⅰ　受講申込から受講料納入までの流れ

①受講手続説明会 **9月22日（金）**	『昼間・土曜スクーリング（後期）の手引』を読み，受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し，受講講座を選択する。

⇩

②授業開始までの準備	授業期間は15週にわたります。シラバスや時間割をよく読み，受講講座を選択。特に下記の項目を事前に確認すること。 **①開講日程及び時間割　②使用教材（教科書）の有無** **③準備学修　④成績評価基準** 【要確認】授業期間に出席可能なこと。

⇩

③授業開始 **第1週** **9月26日（火）** **～9月30日（土）**	各授業の第1週目は，ガイダンスを行うことが多く，今後の授業の方法，授業計画，準備学修，テキスト及び成績評価基準等についての説明がある。 **※選択した講座を受講するか確認してください。**
	○受講講座決定の学生 履修届・受講届に必要事項を記入し，10月5日（木）までに教務課へ提出。 **●受講講座再度検討の学生** 別の講座を選択し，第2週から受講する。 ※その際，第1週を受講していなかった旨を担当講師に伝えること。 ※受講申込締切日の関係から，以下の曜日の講座を申し込む場合は注意が必要です。 **・金・土曜日…2週目を受講してから申し込むことはできませんので，1週目の授業により，受講を検討してください。**
受講希望者が多い講座や少ない講座は，大学側で受講の調整を行うことがあります（「受講の調整について」参照）。 特に「情報概論」（パソコン台数制限有），外国語科目・演習科目（受講者数上限有）については，受講希望者多数の場合，受講調整を行います。あらかじめ了承の上検討してください。	

⇩

④授業　第2週 **10月3日（火）** **～10月6日（金）**	各授業の第2週目は，本格的な授業に入ります。
	第1週の授業を受講したが，受講講座が未決定の学生はスクーリング第2週目を受講し，10月5日（木）までに履修届・受講届を提出。 ※受講申込締切日の関係から，以下の曜日の講座を申し込む場合は注意が必要です。 **・金・土曜日…2週目を受講してから申し込むことはできませんので，1週目の授業により，受講を検討してください。**

⑤履修登録・受講申込締切	**申込締切：10月5日（木）** **（窓口提出）18時00分（事務取扱時間）まで** **（ポータルサイト）締切日24時00分まで** **提 出 先：（郵送）提出締切日　必着** **（窓口）教務課窓口提出　事務取扱時間内厳守** ※1　受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。 **※2　提出期限を過ぎてからの追加・変更はできません。10月5日（木）までに受講予定の全ての講座を決定した上で提出してください。**

⇩

⑥受講許可の確認	ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認。 ※受講届提出者には，「スクーリング受講資格審査結果通知書」を送付しますので，そちらで確認してください。 **届き次第，必ず以下の記載内容を確認すること。** ※1　申込講座・時間割及び担当講師 ※2　充当科目コード 特に外国語科目，各種演習科目は注意（後掲12ページ参照）。

⇩

⑦受講料の振込用紙発送	受講許可者には，スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。 **発送予定日：10月20日（金）** 発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。

⇩

⇩

許可講座の辞退	受講を許可された講座を受講しない場合（全講座，一部の講座とも），10月27日（金）までに辞退手続をする。 詳細は104ページ参照

⇩

⑧受講料の納入	ポータルサイト（又はスクーリング受講資格審査結果）及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上，受講料を下記の納入期限までに納入してください。 **受講料納入期限：11月6日（月）** **銀行窓口のみ　※当日取扱時間まで** ※受講料（1講座10,000円，情報概論は13,000円）

⇩

⑨昼間・土曜スクーリング（後期）の手続完了	昼間・土曜スクーリング（後期）の手続は完了です。 領収書は，スクーリング受講中は必ず携行してください。

Ⅱ　講座の選定

1　受講講座の選定

①　受講対象者及び受講条件

昼間・土曜スクーリング（後期）の受講者は，以下の受講条件を必ず守り，申込みをしてください。

1 受講申込対象者 （申込時点において右記の条件を満たすこと）	**①年度授業料を納入していること，または所定の締切日までに納入することができること。** **②昼間・土曜スクーリング（後期）受講料を納入期日までに納入することができること。** **③昼間・土曜スクーリング（後期）の授業日程に出席できること。**

2 受講講座数	**【申込講座の上限】　14 講座まで** **火曜日から土曜日までの各時限から１講座ずつ，最多で 14 講座まで申し込むことができます。** ※履修登録がされている科目のみ申し込みできます。

3 受講制限	**上記 1，2の条件を満たしていても，全ての講座を申し込めるわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので，項目を確認し，受講講座を選定してください。**

②　受講制限について

すべての方がすべての講座を申し込めるのではありません。自分の学年・学科（専攻），カリキュラム及びその他の理由により申し込むことができない講座があります。以下，それぞれの受講制限を掲載しますので，必ず確認の上，申込みをしてください。

（1）　配当学年による受講制限

ア　１学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「１年」と記載されている講座のみ受講可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお，講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので，各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

イ　２学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「１年」又は「２年」と記載されている講座の受講が可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお，講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので，各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

ウ　３・４学年生

配当学年による受講の制限はありませんが，講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので，各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

（2） 科目履修生の受講制限

入学時の「履修申請書」で履修登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

（3） シラバスによる受講制限

シラバスに，他のスクーリングと積み重ね不可の記載がある場合，受講できません。また，記載がなくても，以下に該当する場合は，受講できません。

過去に受講し，合格した科目（充当科目）と同一担当講師の科目（充当科目）で授業内容も同一である講座の受講

次のａ～ｃのすべてに該当する講座は申込みできません。

ａ　科目名（充当科目名）が同じである（「講座名」ではなく，「科目名（充当科目名）」です）。

ｂ　担当講師が同一である。

ｃ　講義内容が全く同一である。

※講義内容を参照し，授業計画等が全く同一の場合は申込みできません。

（4） その他の理由による受講制限

以下のいずれかに該当する場合，その講座は受講できません。

ア　既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している科目を充当科目とする講座の受講

イ　履修登録をしていない科目を充当科目とする１講座の受講

ウ　受講の調整による受講制限

一部の講座については，申込希望者が講座の適正人員を超える場合があり，この場合，大学側で受講の調整を行います。

調整により，受講申込講座と異なる講座での受講を許可する場合や，受講不許可となる場合があります。

そのため，**必ずポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて，許可された講座を受講してください**（受講許可講座と異なる講座の受講は，認められません）。

※受講届提出者は，「受講資格審査結果通知」を確認してください。

③ 他のスクーリングとの日程重複や会場移動に伴う講座受講に関する注意点について

昼間･土曜スクーリング（後期）土曜日の授業と東京スクーリング（10 月期）もしくは東京スクーリング（11 月期）の授業を受講する場合，講座の受講に支障がでる場合がありますので，ご自身で確認の上，受講申込を行ってください。

2 「教職に関する科目」における新・旧科目について

平成 23 年度に下表の「教職に関する科目」４科目については，科目名称が変更となり，平成 23 年度１学年入学者から学年進行により順次，新科目名での履修となります。

スクーリングの開講にあたっては，同一講座で新・旧両方の科目を充当科目として開講しますので，下表により適用となる充当科目を確認の上，受講申込みをしてください。

<table>
<tr><th colspan="2">旧科目名</th><th colspan="2">新科目名</th></tr>
<tr><td>T10300</td><td>教育の思想</td><td>T10200</td><td>教育原論</td></tr>
<tr><td>T21400</td><td>道徳教育の研究</td><td>T21300</td><td>道徳教育の理論と方法</td></tr>
<tr><td>T21600</td><td>特別活動の研究</td><td>T21500</td><td>特別活動論</td></tr>
<tr><td>T30700</td><td>教育カウンセリング論</td><td>T30600</td><td>教育相談</td></tr>
<tr><th colspan="2">旧科目名での履修対象者</th><th colspan="2">新科目名での履修対象者</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">右記以外の学生</td><td>入学年度</td><td>入学形態</td></tr>
<tr><td>平成 23 年度</td><td>１学年入学生</td></tr>
<tr><td>平成 24 年度</td><td>１学年入学生
２学年編入・再入学生
科目履修生</td></tr>
<tr><td>平成 25 年度</td><td>１学年入学生
２学年編入・再入学生
３学年編入・再入学生
科目履修生</td></tr>
<tr><td>平成 26 年度以降</td><td>全入学生</td></tr>
</table>

3 「英語」科目のレベル標記について

昼間･土曜スクーリングの「英語」では，受講講座選択の参考として，新たに授業内容のレベル（目安）を★で標記しています。受講講座の参考にしてください。

＜レベル＞★の数が増えるほど，難易度が上がります。

【★☆☆】 ⇔【★½☆】 ⇔ 【★★☆】 ⇔ 【★★★】

基礎　　初級　　中級　　上級

※レベル標記はあくまで「目安」です。レベルの感じ方には，個人差があります。
また同一レベル標記でも講座により，難易度が多少異なる場合もあります。
必ずシラバス全体をよく読んだ上で，各自で判断してください。

※講座受講者の状況により，担当講師の判断で適宜調整を図りますので，あらかじめご了承ください。

MEMO

Ⅲ　時間割

1　時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1時限目 9：00 〜 10：30	政治学	関根　二三夫	経済学	田村　和彦
	心理学　A	白川　真裕	英語　C	青木　克憲
	西洋史入門	高草木　邦人	商法Ⅱ	大久保　拓也
	経営学	山田　敏之	簿記論Ⅰ	山元　俊一
2時限目 10：40 〜 12：10	心理学　B	白川　真裕	英語　D	森　晴代
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島　伸	英語学演習Ⅰ〜Ⅲ	真野　一雄
	国文学基礎講義	野口　恵子	考古学概説	野中　和夫
	日本史入門	鍋本　由徳	東洋史特講Ⅱ	髙綱　博文
	中国経済論	斉　中凌	広告論	雨宮　史卓
	商学総論	雨宮　史卓		
3時限目 13：00 〜 14：30	英語　A	アレックス　ブラウン	文学	木村　一
	イギリス文学史Ⅱ	猪野　恵也	法学　A	武田　茂樹
	史学概論	髙綱　博文	英語　E	北原　安治
	金融論	谷川　孝美	政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	秋山　和宏
	マーケティング	雨宮　史卓	英語音声学	森　晴代
	卒業論文指導	近藤　健史		
4時限目 14：40 〜 16：10	哲学　A	江川　晃	歴史学　A	渡邊　浩史
	TOEIC　A	八木　茂那子	国語学概論	保科　恵
	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤　健史	国文学講義Ⅴ（近代）	永岡　健右
	スピーチコミュニケーションⅠ	アレックス　ブラウン	日本思想史Ⅰ	島田　健太郎
	英米文学演習Ⅰ〜Ⅲ	猪野　恵也	日本史概説／日本史概論	横山　則孝
	日本史特講Ⅱ	八馬　朱代		
	卒業論文指導	髙綱　博文		
	卒業論文指導	雨宮　史卓		
5時限目 16：20 〜 17：50	英語　B	飯野　朝世	歴史学　B	堀井　弘一郎
	中国語Ⅰ・Ⅱ	稲葉　明子	文化史	渡邊　浩史
	国際政治学／国際政治論／国際政治学概論	横田　将志	英語　F	石川　勝
	哲学特殊講義	江川　晃	国文学基礎演習	木村　一
	東洋史演習Ⅰ・Ⅱ	髙綱　博文		

開講日程

後　期	9／26〜1／19	補講予定日	12／18，1／15

※前期と後期の時間割が異なる講座があります。
　申込の際は必ず注意してください。

木曜日		金曜日		土曜日	
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
英語　G	鈴木　ふさ子	英語　J	大庭　香江	総合科目Ⅰ～Ⅵ	通信教育部専任教員
行政学	関根　二三夫	ＴＯＥＩＣ　Ｂ	町田　純子		
東洋史入門	綿貫　哲郎	刑事訴訟法	船山　泰範		
情報概論　A	中村　典裕	東洋思想史Ⅰ	本間　直人		
英語　H	岡田　善明	英語　K	大庭　香江	土曜スクーリング日程	
憲法	名雪　健二	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭　克夫		
国文学演習Ⅰ～Ⅵ	近藤　健史	日本政治史	石川　徳幸	授業時間 ９：００～１２：１０	
英米文学概説	鈴木　ふさ子	哲学演習Ⅰ・Ⅱ	中澤　瞳		
経済学概論	藤本　訓利	西洋史特講Ⅰ	池本　今日子	【後期】	
商業史	横山　則孝	アメリカ経済論	小林　通	９月３０日	
卒業論文指導	根本　晋一			１０月１４日・２８日	
卒業論文指導	関根　二三夫			１１月１１日・１８日・２５日	
卒業論文指導	真野　一雄			１２月　９日	
卒業論文指導	中澤　瞳			１月１３日	
民法Ⅲ	根本　晋一	英語　L	中村　則子		
英語史	真野　一雄	政治学原論	吉野　篤		
東洋史概説／東洋史概論	菊池　敏夫	哲学基礎講読	石井　友人		
日本史演習Ⅰ・Ⅱ	鍋本　由徳	市場調査論	最上　健児		
経済原論／経済学原論	藤本　訓利				
教育の方法・技術論	古賀　徹				
卒業論文指導	小澤　賢司				
法学　B	根本　晋一	社会学	服部　慶亘		
英語基礎　A	小澤　賢司	英語基礎　B	中村　則子		
西洋思想史Ⅱ	中澤　瞳	国文学概論	山﨑　泉		
日本経済史	飯島　正義	宗教学概論	合田　秀行		
生徒指導・進路指導論	古賀　徹				
卒業論文指導	猪野　恵也				
卒業論文指導	陸　亦群				
卒業論文指導	鍋本　由徳				
哲学　B	中澤　瞳	情報概論　B	一島　力男		
民法Ⅰ	根本　晋一				
西洋史演習Ⅰ・Ⅱ	藤井　信行				
国際経済論	陸　亦群				
商業政策	新島　裕基				
社会科・公民科教育法Ⅰ	古賀　徹				

2　卒業論文指導時間割

① 昼間・土曜スクーリング（後期）開講期間中，下表の時間帯で開講されます。
　なお，補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
② 実施場所等は，通信教育部１号館１階掲示板にてお知らせします。
③ 事前予約等は不要です。指導開始時間になりましたら，実施場所にて待機してください。
　※開始時間に希望学生がいない場合には，指導を取止める場合がありますので，ご了承ください。
④ 以下の担当教員の「個別」，「専門」指導は，当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 時限目 9：00 〜 10：30					
2 時限目 10：40 〜 12：10			講師 根本　晋一〔法律学科〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別・専門：民法 講師 関根　二三夫〔政治経済学科〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別・専門：政治学 行政学 講師 真野　一雄〔文学専攻（英文学）〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別・専門：英語学 講師 中澤　瞳〔哲学専攻〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別・専門：哲学		
3 時限目 13：00 〜 14：30	講師 近藤　健史〔文学専攻（国文学）〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別：日本古典文学 指導区分 専門：上代文学		講師 小澤　賢司〔文学専攻（英文学）〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別・専門：英語学 英語教育		
4 時限目 14：40 〜 16：10	講師 髙綱　博文〔史学専攻〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別：外国史 指導区分 専門：アジア近現代史 講師 雨宮　史卓〔商業学科〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別：マーケティング戦略，広告戦略，消費者行動など 指導区分 専門：ブランド戦略，広告コミュニケーションなど		講師 鍋本　由徳〔史学専攻〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別：日本史 日本考古 指導区分 専門：指導担当学生のみ 講師 猪野　恵也〔文学専攻（英文学）〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別・専門：イギリス文学 講師 陸　亦群〔経済学科〕 指導区分 一般：卒論作成に関する一般事項 指導区分 個別・専門：国際経済論 経済開発論		
5 時限目 16：20 〜 17：50					

MEMO

Ⅳ　開講講座表及び講座内容（シラバス）

1　「開講講座表」の見方

「開講講座表」の見方

1	講座コード	スクーリング開講講座を識別するために講座ごとに付された固有のコード番号です。 「受講届」の「講座コード」欄（４桁）には，この講座コードを記入してください。	
2	開講講座名	講座の名称です。原則，科目名と同一ですが，「英語」等のように複数開講される講座については，講座名の後ろにアルファベット等の記号を付して各講座を識別します。	
3	担当講師名	当該講座を担当する教員の氏名です。	
4	開講単位数	受講講座の合格により修得できる単位数です。	
5	充当科目（科目コード，科目名）	受講講座の合格により成績評価の対象となる科目コードと科目名です。 スクーリングの開講単位は「講座」であり，その「講座」に対してどの「科目（科目コード)」で受講するか（充当させるのか）を申告します。 多くの講座の充当科目は１講座につき１科目ですが，「英語」や「演習科目」のように受講者の単位修得状況により充当科目の選択が必要な講座もあるので，充当科目の選定は慎重に行ってください。 「受講届」の「充当科目コード」欄（６桁）には，この科目コードを記入してください。	
6	併用	昼間・土曜スクーリングは「スクーリング併用試験方式」による受講ができないため，全て「×印」が記載されています。	
7	制限・注意	配当学年	ここに記載されている学年に達していない場合は受講できません。 学部・学科（専攻）により受講可能な学年が異なる場合は，「受講条件」欄に記載されています。
		受講条件	その他の受講制限及び諸注意等がある場合に記載されています。
8	オープン受講	オープン受講ができない講座には「×印」が記載されています。 記載がない講座はオープン受講申込可です。	

2　開講講座表・シラバスと使用教材【曜日・時限順】

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目 科目コード	充当科目 科目名	制限・注意 併用	制限・注意 配当学年	制限・注意 受講条件	オープン講
1時限	AH11	政治学	関根　二三夫	2		B11700	政治学	×	1年		
	AH12	心理学A	白川　真裕	2		B12100	心理学	×	1年		
	AH13	西洋史入門	高草木　邦人	2		Q20300	西洋史入門	×	条件参照	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AH14	経営学	山田　敏之	2		S20200	経営学	×	条件参照	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
2時限	AH21	心理学B	白川　真裕	2		B12100	心理学	×	1年		
	AH22	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島　伸	1		D10100	ドイツ語Ⅰ	×	1年	・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						D10200	ドイツ語Ⅱ				
	AH23	国文学基礎講義	野口　恵子	2		M20100	国文学基礎講義	×	条件参照	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AH24	日本史入門	鍋本　由徳	2		Q20100	日本史入門	×	条件参照	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AH25	中国経済論	斉　中凌	2		R313S0	中国経済論	×	2年		
	AH26	商学総論	雨宮　史卓	2		S20100	商学総論	×	条件参照	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
3時限	AH31	英語A	アレックス ブラウン	1		C10100	英語Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英語Ⅱ				
						C10300	英語Ⅲ		2年		
						C10400	英語Ⅳ				
	AH32	イギリス文学史Ⅱ	猪野　恵也	2		N30100	イギリス文学史Ⅱ	×	2年		
	AH33	史学概論	髙綱　博文	2		Q30100	史学概論	×	2年		
	AH34	金融論	谷川　孝美	2		R31800	金融論	×	2年		
	AH35	マーケティング	雨宮　史卓	2		S30500	マーケティング	×	2年		

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目		制限・注意			オープン講
						科目コード	科目名	併用	配当学年	受講条件	
4時限	AH41	哲　学　A	江川　晃	2		B10700	哲　学	×	1年		
	AH42	TOEIC　A	八木　茂那子	1		C108S0	TOEIC	×	1年		
	AH43	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤　健史	2		M311S0	国文学特殊講義Ⅰ	×	2年	・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						M312S0	国文学特殊講義Ⅱ				
	AH44	スピーチコミュニケーションⅠ	アレックス ブラウン	1		N30900	スピーチコミュニケーションⅠ	×	2年		
	AH45	英米文学演習Ⅰ～Ⅲ	猪野　恵也	1		N404S0	英米文学演習Ⅰ	×	3年	・英文学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	×
						N405S0	英米文学演習Ⅱ				
						N406S0	英米文学演習Ⅲ				
	AH46	日本史特講Ⅱ	八馬　朱代	2		Q30900	日本史特講Ⅱ	×	2年		
5時限	AH51	英　語　B	飯野　朝世	1		C10100	英　語　Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英　語　Ⅱ				
						C10300	英　語　Ⅲ		2年		
						C10400	英　語　Ⅳ				
	AH52	中国語Ⅰ・Ⅱ	稲葉　明子	1		F10100	中国語Ⅰ	×	1年	・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						F10200	中国語Ⅱ				
	AH53	国際政治学／国際政治論／国際政治学概論	横田　将志	2		L30200	国際政治学	×	2年	・法･文理学部のみ申込可。	
						R32700	国際政治論	×	2年	・経済学部のみ申込可。	
						S33200	国際政治学概論	×	2年	・商学部のみ申込可。	
	AH54	哲学特殊講義	江川　晃	2		P31000	哲学特殊講義	×	2年		
	AH55	東洋史演習Ⅰ・Ⅱ	髙綱　博文	1		Q403S0	東洋史演習Ⅰ	×	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						Q404S0	東洋史演習Ⅱ				

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

講座内容（シラバス）

◆政治過程を基礎から学びましょう。　〔政治学〕

火曜日 1 時限　　**担当者：関根　二三夫**

◆学修到達目標　基礎教育としての講義を行います。前期の講義を踏まえて，選挙や政党，圧力団体など，政策の立案や政策の決定に影響を及ぼす要因を基礎から学んでみたいと思います。この講義においては，政治が我々の生活に影響を及ぼすと同時に，我々にとって身近な現象であることを学びます。

◆授業方法　講義形式で行います。講義においては，政治に関する受講生の問題意識を高め，それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか，それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては，予習や復習が必要になります。

◆準備学修　政治学は社会科学のカテゴリーに入り，人間社会を対象にする学問です。社会における問題点を把握し，あるべき社会を考える必要があります。学修の準備として，メディアの情報に関心を持ち，テキストを熟読するなど，それぞれの単元について2時間程度の予習をし，また同様に2時間程度の復習が必要になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目　選挙制度　※原則や選挙権について説明します。	9回目　わが国の圧力団体　※特徴を中心に説明します。
2回目　選挙区　※画定や選挙区制について説明します。	10回目　コミュニケーション　※機能，類型について説明します。
3回目　代表選出の形態 ※少数，多数，比例代表などを説明します。	11回目　コミュニケーション　※方向について説明します。
4回目　政党　※概念，特徴，発展過程を説明します。	12回目　リーダーシップ　※リーダーの役割について説明します。
5回目　政党　※形態，機能を説明します。	13回目　地方自治　※わが国における沿革を中心に説明します。
6回目　政党　※問題点を説明します。	14回目　政治と行政　※二分論，連続論，関連論を説明します。
7回目　圧力団体　※概念，特徴を説明します。	15回目　講義内容の総括
8回目　圧力団体　※活動，問題点を説明します。	

◆教科書　通材『政治学　B11700』 通信教育教材（教材コード 000279）1,850 円（送料込）
※議会，内閣，裁判所の統治機構に関する解説，選挙，政党，圧力団体などの政治過程に関する解説に重点が置かれています。

◆参考書　丸沼『教養政治学』 岩井奉信・黒川貢三郎・関根二三夫他　南窓社　3,132 円（税込）（送料 350 円）
※政治学の変遷，政治の概念，統治機構，政治過程などの解説に重点が置かれています。

◆成績評価基準　試験 70%，平常点 30%
※試験同様，質問や理解度テストへの解答等平常点も重視しますので，受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆行動を科学する　〔心理学　A〕

火曜日１時限　**担当者：白川　真裕**

◆学修到達目標　心理学は行動の科学とも呼ばれる。その「行動」をキーワードとして，心理学が行動に関する問題にいかに取り組み，どのようなことを見出してきたかを研究例を取り上げて学ぶ。そして，心の働きや行動を科学的にとらえるという思考力の育成を目指す。

◆授業方法　授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また，授業中に教員から質問をしたり，意見を求めることもある。ただ漫然と授業を聴くのではなく，考えながら聴講し，意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお，出席は毎回確認する。

◆準備学修　心理学が扱う問題は全て関連している。そうした「話の流れ」というものを重視して授業を行うので，前回授業の内容（ノート）を読み返してから毎回の授業に臨んで欲しい。

◆履修条件　平成 29 年度昼間・土曜スクーリング（後期）火曜２限「心理学　B」との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　発達とは何か	９回目　個人差２　性格とは何か
２回目　発達の規定因に関する諸研究	10 回目　社会的認知
３回目　学習とは何か	11 回目　社会的影響
４回目　学習の連合説・認知説・社会的学習	12 回目　環境の認知と評価
５回目　情動・感情とは何か	13 回目　環境デザイン
６回目　欲求と欲求不満，葛藤	14 回目　環境と犯罪
７回目　動機づけとは何か	15 回目　後期授業まとめ（理解度の確認）
８回目　個人差１　知能とは何か	

◆教科書　**通材**『心理学　B12100』 通信教育教材（教材コード 000483）2,900 円（送料込）
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一他著（福村出版）と同一です〉

◆参考書　なし

◆成績評価基準　成績は試験結果を重視し，これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて総合的に評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆「西洋の歴史学」を集めて，読んでみよう！　〔西洋史入門〕

火曜日 1 時限　**担当者：高草木　邦人**

◆学修到達目標　本講義は，西洋史を学ぶ上で必要とされる知識と技術の基礎を学習します。本講義の学習により，受講生は自立的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。後期においては，文献の集め方，専門書・研究論文の読み方，外国語文献の収集・読解などについて学習します。なお，前期と後期は内容が異なりますので，半期のみの受講も可能ですが，学習効果をあげるためには，前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法　本講義は，基本的に講義形式をとりますが，演習的な要素も盛り込んでいきます。具体的なこととしては，研究文献や史料の講読，学習した知識・技術に関する報告などを予定しています。また，講義で学習したことを自分自身で実践するために，４回のレポートを課する予定です。なお，受講者の人数とその理解度に応じて，下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆準備学修　準備学習として，指定したテキストの授業に関連した箇所を熟読しておいてください。熟読すべき箇所については，授業中に適時指示します。なお，本講義の受講前までに高等学校の教科書を必ず読んでおいてください。本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので，高等学校の世界史Ａの教科書などを事前に読んで，歴史の知識を蓄えながら，世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス，西洋史とは何か	９回目　註から論文を読む【概要編】
２回目　研究文献を集める【概要編】	10 回目　註から論文を読む【実践編①】
３回目　研究文献を集める【実践編】	11 回目　註から論文を読む【実践編②】
４回目　研究文献を集める【報告編】	12 回目　註から論文を読む【報告編】
５回目　専門書を読む【概要編】	13 回目　外国語文献に触れる【概要編】
６回目　専門書を読む【実践編①】	14 回目　外国語文献に触れる【文献収集編】
７回目　専門書を読む【実践編②】	15 回目　外国語文献に触れる【読解編】
８回目　専門書を読む【報告編】	

◆教科書　丸沼『私もできる西洋史研究―仮想大学に学ぶ』　井上浩一　和泉出版　2012 年　1,944 円（税込）（送料 300 円）
※本テキストは準備学習用のテキストです。講義では，プリントを配付します。

◆参考書　丸沼『人文学への接近法―西洋史を学ぶ』　服部良久ほか編　京都大学学術出版会　2010 年　2,160 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『歴史研究と地域研究のはざまで―フィリピン史で論文を書くとき』　早瀬晋三　法政大学出版会　2004 年　1,836 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　成績の評価基準は，レポート（60%），平常点（40%）です。レポートを４回ほど課する予定です。平常点は，授業中に配付するリアクション・ペーパー，学習内容に関する報告，そして授業態度などを参考に評価します。なお，毎回出席していることを前提として評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆経営学の基本を理論と事例で学ぶ　〔経営学〕

火曜日１時限　**担当者：山田　敏之**

◆学修到達目標　本講義では，現代企業の本質及び直面する問題を明らかにしつつ，経営学の基礎的な考え方について理解を深めることを目標とします。現実の企業行動を，経営学の理論によって説明できることが到達点となります。後期は経営組織，モチベーション，リーダーシップ，経営財務，企業の社会的責任といった問題を扱います。前期のみの受講，後期のみの受講も可能だが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法　概ね指定したテキストに従い，黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な企業経営のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配付資料，パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで，より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお，講義の終了前に，その日の講義の内容あるいは企業経営に関する時事的な問題に関する小テストを毎回実施します。

◆準備学修　毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営学の諸概念について，分からない言葉や用語等があれば事前に経営学辞典，経済学辞典あるいは参考書を用いて調べてください。経営学はきわめて現実性の高い学問領域ですので，日本経済新聞，日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス，東洋経済，エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　イントロダクション	９回目　リーダーシップの基礎的概念と資質理論
２回目　組織の定義と伝統的な組織原則	10 回目　リーダーシップの行動理論
３回目　組織構造Ⅰ：職能別組織と事業部制組織	11 回目　リーダーシップのコンティンジェンシー理論
４回目　組織構造Ⅱ：プロジェクト組織とマトリックス組織	12 回目　経営財務Ⅰ：財務諸表の見方と分析
５回目　組織構造Ⅲ：カンパニー制と持株会社	13 回目　経営財務Ⅱ：損益分岐点分析
６回目　モチベーションの定義と理論の概要	14 回目　企業の社会的責任と社会性戦略
７回目　モチベーションのコンテント理論	15 回目　まとめ
８回目　モチベーションのプロセス理論：期待理論	

◆教科書　丸沼『経営学イノベーション１　経営学入門　第２版』　十川廣國　中央経済社　2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　丸沼『マネジメント力の養成』　コーポレート・マネジメント研究会　財経詳報社　1,620 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『人と組織を活かす経営管理論』　青木幹喜編著　八千代出版　3,024 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『経営学イノベーション３　経営組織論　第２版』　十川廣國編著　中央経済社　2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　平常点（毎回の小テスト）（20%），試験（80%）。毎回出席することを前提として評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆行動を科学する　〔心理学　B〕

火曜日２時限　**担当者：白川　真裕**

◆学修到達目標　心理学は行動の科学とも呼ばれる。その「行動」をキーワードとして，心理学が行動に関する問題にいかに取り組み，どのようなことを見出してきたかを研究例を取り上げて学ぶ。そして，心の働きや行動を科学的にとらえるという思考力の育成を目指す。

◆授業方法　授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また，授業中に教員から質問をしたり，意見を求めることもある。ただ漫然と授業を聴くのではなく，考えながら聴講し，意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお，出席は毎回確認する。

◆準備学修　心理学が扱う問題は全て関連している。そうした「話の流れ」というものを重視して授業を行うので，前回授業の内容（ノート）を読み返してから毎回の授業に臨んで欲しい。

◆履修条件　平成 29 年度昼間・土曜スクーリング（後期）火曜１限「心理学　A」との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　発達とは何か	９回目　個人差２　性格とは何か
２回目　発達の規定因に関する諸研究	10 回目　社会的認知
３回目　学習とは何か	11 回目　社会的影響
４回目　学習の連合説・認知説・社会的学習	12 回目　環境の認知と評価
５回目　情動・感情とは何か	13 回目　環境デザイン
６回目　欲求と欲求不満，葛藤	14 回目　環境と犯罪
７回目　動機づけとは何か	15 回目　後期授業まとめ（理解度の確認）
８回目　個人差１　知能とは何か	

◆教科書　**通材**『心理学　B12100』 通信教育教材（教材コード 000483）2,900 円（送料込）
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一他著（福村出版）と同一です〉

◆参考書　なし

◆成績評価基準　成績は試験結果を重視し，これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて総合的に評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆中級レベルのドイツ語を学びましょう　〔ドイツ語Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日２時限　**担当者：中島　伸**

◆学修到達目標　前期に学んだ知識を基にした中級レベルのドイツ語文法の習得はもちろんのこと，１・２行程度の文章を読みこなせる読解力，そして独作文が書けるようになる文章表現の習得を目標とします。前期のみの受講，後期のみの受講も可能だが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法　前期と同様に，以下の授業計画で挙げられている文法事項の説明後，練習問題（文法・和訳・独作文）で定着させていきます。更に，スクーリング時に２回小テストを行い，間違った箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却します。

◆準備学修　回を追うごとに説明する文法事項は既に習った文法事項（前期に学んだ文法事項も含む）の知識が無いと理解できませんので，既習の文法事項の復習をするようにして下さい。特に，動詞の現在人称変化と名詞の性，そして冠詞の格変化はほぼ全ての文法事項で必要な知識となります。冠詞の格変化を紙に書いて覚える等の自己学習を日頃から行うようにして下さい。反復練習こそが言語習得への近道です。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　過去形	９回目　関係代名詞（１）
２回目　未来形・命令文	10 回目　関係代名詞（２）
３回目　完了形	11 回目　受動態
４回目　複合動詞（１）	12 回目　分詞の用法
５回目　複合動詞（２）	13 回目　接続法（１）
６回目　zu 不定詞	14 回目　接続法（２）
７回目　不定代名詞と疑問代名詞	15 回目　まとめ・試験
８回目　指示代名詞	

◆教科書　丸沼『岡田・岩崎　ドイツ文法』　岡田朝雄・岩崎英二郎　朝日出版社　2,376 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　独和辞典が必要となります。

◆成績評価基準　平常点（20%）・小テスト（30%）・試験（50%）。毎回出席することを前提として評価します。なお，独和辞典は必ず持参のこと（独和辞典の忘れは欠席扱いとします）。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆大学での古典の学び方　〔国文学基礎講義〕

火曜日２時限　**担当者：野口　恵子**

◆学修到達目標　大学で学ぶ古典は，高等学校で学んだ古典とは全く異なる。まずはその違いを知ることを目標とし，大学では何を学ぶべきかを考えてもらいたい。そこで授業内では，『万葉集』の作品を取り上げながら，いかに両者が違っているのかを具体的に示す。同時に，大学の学修で必要とされる文献の調査方法や読み方，レポートの書き方についても修得してもらう。

◆授業方法　講義形式で行う。板書はメモ程度しかしないので，自分にとって必要な情報はノートに書き，「“自分”のノート」を作成すること。なお学生自らの思考を促すために，不定期で「復習テスト」を実施する。

◆準備学修　毎時間の授業終了後，「“自分”のノート」を整理しながら，復習しておくこと。なお，授業中は作品の内容については言及するが口語訳はしないので，必要に応じて参考書で確認しておくこと。

◆履修条件　なし。（学修効果を向上させるためには，前期後期連続受講が望ましい。）

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	ガイダンス	9回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ⑦第一学習社国総 325 を取り上げる。
2回目	『万葉集』とはどのような歌集か	10回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ⑧第一学習社国総 326 を取り上げる。
3回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ①数研出版国総 316 を取り上げる。	11回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ⑨第一学習社国総 327 を取り上げる。
4回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ②数研出版国総 317 を取り上げる。	12回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ⑩桐原書店国総 330 を取り上げる。
5回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ③明治書院国総 318 を取り上げる。	13回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ⑪原書店国総 331 を取り上げる。
6回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ④明治書院国総 320 を取り上げる。	14回目	教材化された万葉歌のあり方を考える。
7回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ⑤筑摩書房国総 322 を取り上げる。	15回目	まとめ
8回目	教材化された万葉歌の問題点を探る ⑥筑摩書房国総 323 を取り上げる。		

◆教科書　丸沼『訳文　万葉集』　森淳司編　笠間書院　1,944 円（税込）（送料 350 円）
当日資料配付

◆参考書　丸沼『おかしいぞ！国語教科書』　梶川信行編　笠間書院　2,700 円（税込）（送料 300 円）
『〈新編日本古典文学全集〉萬葉集①～④』　小島憲之他校注・訳者　小学館
〈上記の本は品切れのため，図書館等を利用してください。〉

◆成績評価基準　出席状況（20%）・復習テスト（10%）・レポート試験（70%）　※遅刻は認めない。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本近世・近代の歴史を知るために　〔日本史入門〕

火曜日２時限　**担当者：鍋本　由徳**

◆学修到達目標　本科目は，主に入学（編入）直後の学生を対象にした基礎科目です。「入門」とは「平易」を意味しません。講義では，日本史，特に織豊～近代初期を学修するために必要な史料叢書類などの知識，調べ方などの技能，研究するにあたっての態度の獲得，今後の卒論準備に活かすことのできる能力の向上を目指します。

◆授業方法　原則として講義形式です。教科書は使いませんので，講義用プリントを中心に，スクリーンを併用しながら要点を説明します。

◆準備学修　事前学修のシートを用いて，講義内容の前提を把握しておくことが前提です。簡単な「調べ」作業ですので，自分のレベルに合わせて書いてきてください（提出不要）。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	時代区分（近世・近代とは），日本史の基礎知識（時代区分・概観）	9回目	近世史の基礎史料集（2）
2回目	日本史の基礎知識（時制・単位・国）	10 回目	東大史料編纂所の近世・近代史料
3回目	日本史の基礎知識（政治制度）	11 回目	歴史学の研究に随筆を使ってみる
4回目	近世・近現代の概説書の紹介	12 回目	近現代基礎史料集の紹介とデジタル
5回目	基本的な論文集の紹介	13 回目	法令の条文から歴史をみる
6回目	歴史資料の多様性とその特徴	14 回目	外国人がみた日本の様子
7回目	織豊～維新までの流れを知る	15 回目	日本近世・近代史の学修にむけて
8回目	近世史の基礎史料集（1）		

◆教科書　授業終了時，翌週の事前学修プリントを配付します。

◆参考書　授業の時に適宜紹介します。

◆成績評価基準　授業内提出レポート（70%），授業内小テスト（30%）の総合評価　※全回出席を前提とした評価です。

◆中国経済制度の変遷を学びましょう　〔中国経済論〕

火曜日２時限　**担当者：斉　中凌**

◆学修到達目標　日本と中国の経済関係はこの 30 年間で大きく拡大したが，一方で近年は政治的な緊張関係も強まっている。我々は，中国という国の仕組みや経済建設の経緯が日本と大きく異なることを認識した上で，現在起きている事象の本質を理解し，直面する事態と向き合っていかなければならない。この講義では，中国経済制度の変遷について基礎となる知識を習得し，中国経済に対する理解を深めることを目指す。

◆授業方法　講義は，配付資料とパワーポイントに沿って進める。授業時間内に，出欠を兼ねて，筆記課題やクイズへの回答を提出してもらうこともある。中国を身近に感じられるように，可能な限り写真や映像なども取り入れて講義を進めたいと考えている。また，足下の中国の経済・社会動向や世界経済・国際金融情勢との関係など時事問題についても，講義の中で解説を加える。

◆準備学修　テキストの第１部と第４部を予習していただきたい。なお，中国は変化のペースが非常に速いため，参考資料などは授業中に適宜紹介する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	講義内容の概観	9回目	市場経済への本格的移行（2）
2回目	中国経済の新しい動向	10 回目	WTO 加盟とその意義
3回目	新中国の経済史（1）1950 年代	11 回目	2000 年代の経済高度成長
4回目	新中国の経済史（2）1960 年代	12 回目	中国大陸と香港の経済関係
5回目	新中国の経済史（3）1970 年代	13 回目	中国大陸とマカオの経済関係
6回目	1980 年代の改革開放政策（1）	14 回目	中国大陸と台湾の経済関係
7回目	1980 年代の改革開放政策（2）	15 回目	後期のまとめ
8回目	市場経済への本格的移行（1）		

◆教科書　丸沼『現代中国経済論』　加藤弘之・上原一慶　ミネルヴァ書房　（2011 年4月）　3,456 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書　特になし

◆成績評価基準　授業中の質疑応答，出席，期末テストの成績を総合して評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆企業及び消費者の視点から商業学を理解する。　〔商学総論〕

火曜日２時限　　**担当者：雨宮　史卓**

◆学修到達目標　本講義は，商業の各機能を論ずるだけでなく，商業の考え方を主体に述べる。最初に「商業とは何か」を学び，流通やマーケティングにどのような意味を持つかを理解する。歴史的に商業は「生産者の代理」として機能してきた。しかし，近年では消費者視点の発想が重要視されている。そのため，商業者が生活者の視点に立つ事を念頭に置き，身近な事例や仮設例を用いて理論や政策を具体的に解説する。

◆授業方法　ターム前半はテキストに沿いながら，日本における商業・流通の歴史と発展，変化を中心に解説する。ターム後半はマーケティングを中心とした幅広い知識習得を目指す。必要に応じて資料を配付する。また，その日の授業の後半で，主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修　ノートを必ず持参すること。

◆履修条件　前期昼間・土曜スクーリングとの継続履修が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　授業の進め方　商業とは何か	９回目　価格設定と消費者視点の価値
２回目　商業機能の深化と拡大	10 回目　ブランド概念とその役割
３回目　商品における製品とサービスの比較	11 回目　フード・ビジネスの変遷
４回目　商業とマーケティング	12 回目　商業と公共マーケティング
５回目　小売業の形態と役割	13 回目　IT，グローバル化と流通の変化
６回目　小売業のチェーン系列化	14 回目　授業の総復習
７回目　卸売業の役割と展開	15 回目　テストと解説
８回目　物流・ロジスティックスの変遷	

◆教科書　通材『商学総論　S20100』 通信教育教材（教材コード 000356）3,300 円（送料込）
当日資料配付 必要に応じて資料を配付する

◆参考書　なし

◆成績評価基準　テスト（40%），小論文（40%），平常点（20%）　授業の取り組み，小論文，テストにより総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ English Communication Skills　★★☆〔英語　A〕

火曜日３時限　**担当者：アレックス　ブラウン**

◆学修到達目標　We will use the movie, "About a Boy", starring Hugh Grant, for listening comprehension, and for speaking practice.

◆授業方法　We will use the scenes from the movie for listening comprehension, vocabulary usage and expansion with further practice of idioms and expressions used in the dialogue of the movie.

◆準備学修　Prepare to discuss comprehension questions provided by the teacher in a group format.

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	Introduction, Movie viewing Scene 1 vocabulary study	9回目	7& 8 Continued
2回目	Scenes 1& 2 comprehension questions and role play	10回目	Scenes 9&10 vocab,comprehension questions and role play
3回目	Scene 3& 4 vocabulary study	11回目	9&10 Continued
4回目	Scenes 3& 4 comprehension questions and role play	12回目	9&10 Continued
5回目	Movie viewing Scenes 5& 6 vocabulary study	13回目	Vocabulary quiz # 2
6回目	Comprehension questions and role play	14回目	Review for Final
7回目	Vocabulary quiz	15回目	Final Test
8回目	Scenes 7& 8 vocab,comprehension questions and role play		

◆教科書　No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆参考書　None.

◆成績評価基準　Grades will be based on attendance, a final exam and a speaking test.
Students will be graded on their efforts given during their time in the course.

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ヴィクトリア朝から James Joyce まで　〔イギリス文学史Ⅱ〕

火曜日３時限　**担当者：猪野　恵也**

◆学修到達目標　英文学にある様々な作品を知り，それらをきっかけに各作品を実際に読み，鑑賞できるようにする。

◆授業方法　プリントを用い，それらを基にすすめていく。

◆準備学修　英文学史を授業計画を基にして読んでおくとよい。

◆履修条件　前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目　E.M.Forster *Howards End*	9回目　20 世紀の作家　4
2回目　Lawrence *Lady Chatterley' s Lover*	10 回目　20 世紀の作家　5
3回目　George Orwell *1984*	11 回目　20 世紀の作家　6
4回目　Virginia Woolf *Mrs Dalloway*	12 回目　20 世紀の作家　7
5回目　James Joyce *Ulysses* など	13 回目　20 世紀の作家　8
6回目　20 世紀の作家　1	14 回目　20 世紀の作家　9
7回目　20 世紀の作家　2	15 回目　試験
8回目　20 世紀の作家　3	

◆教科書　当日資料配付

◆参考書　授業中指示する

◆成績評価基準　試験（70%）　平常点（30%）皆出席を前提にして評価する。

◆歴史学の論文を書くために　〔史学概論〕

火曜日３時限　**担当者：髙綱　博文**

◆学修到達目標　歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし，また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び，「新しい歴史学」のあり方について考える。

◆授業方法　歴史学の史資料論及び技法と作法について論述し，授業中に配付した資料を解説しながら行う。後期には受講生全員に卒業論文のテーマの概要と研究計画について報告してもらいます。

◆準備学修　なし。

◆履修条件　通年で履修することが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目　ガイダンス	9回目　歴史学論文の技法と作法（1）
2回目　時代区分論	10 回目　歴史学論文の技法と作法（2）
3回目　地域区分論	11 回目　歴史学論文の技法と作法（3）
4回目　歴史学の史資料論（1）	12 回目　歴史学論文の技法と作法（4）
5回目　歴史学の史資料論（2）	13 回目　歴史学論文の技法と作法（5）
6回目　歴史学の史資料論（3）	14 回目　卒論構想報告（1）
7回目　歴史学の史資料論（4）	15 回目　卒論構想報告（2）
8回目　歴史学の史資料論（5）	

◆教科書　当日資料配付　配付資料を使用し教科書は指定しない。

◆参考書　なし。

◆成績評価基準　リポート（50%）及び卒論構想報告（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆金融政策の基礎を学ぶ　〔金融論〕

火曜日３時限　**担当者：谷川　孝美**

◆学修到達目標　最近では，「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」など，非伝統的金融政策が話題になっています。この講義では，わが国の中央銀行である日本銀行の機能や役割，金融政策の基礎，さらには，現在実施されている非伝統的金融政策などについて，その基礎的知識や理論を学び，理解することを通じて，現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆授業方法　授業計画にしたがって，パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では基礎的な事柄を中心に，平易な解説をする予定です。講義の進行状況によっては授業計画が前後することもあります。なお，貨幣の定義や金利，金融制度などの詳細については取り扱いません。

◆準備学修　金融政策を理解するためには，経済学の基礎が重要になります。受講前準備として，マクロ経済学の基礎を確認すること。また，貨幣の定義や金利，金融制度など，前期で取り扱う事柄も確認すること。なお，理解を深めるためにも，授業計画にあるトピックス，専門用語などを参考書等で事前に調べておくこと。

◆履修条件　前期のみの受講，後期のみの受講も可能だが，学修効果を高めるため，前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　伝統的な金融政策
２回目　貨幣の定義，金利の基礎	10 回目　現在の金融政策と金融調節
３回目　銀行の機能と役割	11 回目　非伝統的金融政策
４回目　信用創造とは何か	12 回目　長短金利操作付き量的・質的金融緩和
５回目　中央銀行とは何か	13 回目　金融政策の理論，貨幣数量説
６回目　日本銀行の機能と業務―発券銀行	14 回目　金融政策の理論，ＩＳ－ＬＭ分析
７回目　日本銀行の機能と業務―銀行の銀行	15 回目　まとめ　試験
８回目　日本銀行の機能と業務―政府の銀行	

◆教科書　指定しない。
当日資料配付　当日プリント配付。

◆参考書　通材『金融論　R31800』 通信教育教材（教材コード 000540）1,700 円（送料込）
丸沼『ベーシックプラス　金融論』 家森信善　中央経済社　2,376 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『日本銀行の機能と業務』 日本銀行金融研究所編　有斐閣　2,592 円（税込）（送料 350 円）
（日本銀行ホームページ http://www.imes.boj.or.jp/japanese/pf.html に同じものがあります）

◆成績評価基準　毎回出席することを前提として，最終試験を中心に，レポートや課題の提出，平常点などにより総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆マーケティング戦略の理論と実際　〔マーケティング〕

火曜日３時限　　**担当者：雨宮　史卓**

◆学修到達目標　本講義は，企業が製品・サービスを売るための手段としてマーケティングを捉えるだけでなく，より広い視点でマーケティングを捉える事を心掛ける。そのため，社会情勢，経済状況の変化とともに消費者の嗜好がどのように変化し，市場に影響を及ぼしてきたかを詳しく解説する。実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき，各個人が分析し問題を解決する手法を学ぶ。

◆授業方法　ターム前半は前期を振り返りながら基礎事項を確認する。ターム後半はマーケティングの事例を中心として幅広い理論の習得を目指す。必要に応じて資料を配付する。また，その日の授業の後半で，主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修　ノートを必ず持参すること。

◆履修条件　前期昼間・土曜スクーリングとの継続履修が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　授業の進め方　マーケティングの基本理念	９回目　IT と流通の変化
２回目　市場創造とマーケティング	10 回目　ブランド概念とコミュニケーション
３回目　マーチャンダイジングと市場細分化	11 回目　ブランド・マネジメント
４回目　製品開発と管理	12 回目　マーケティングとサービス文化
５回目　消費者視点の価値と価格	13 回目　環境とマーケティング
６回目　プロモーションの種類と役割	14 回目　授業の総復習
７回目　広告媒体と広告計画	15 回目　テストと解説
８回目　取引と流通	

◆教科書　通材『マーケティング　S30500』 通信教育教材（教材コード 000182）2,250 円（送料込）
当日資料配付 必要に応じて資料を配付する

◆参考書　なし

◆成績評価基準　テスト（40%），小論文（40%），平常点（20%）
授業の取り組み，小論文，テストにより総合的に評価します。

◆現代哲学入門　〔哲学　A〕

火曜日４時限　　**担当者：江川　晃**

◆学修到達目標　情報科学，生命科学，そして脳科学が目覚ましく発展し，その様子がマスコミ等で紹介されています。私たちがこのような現代を自律的に生きていくには，これらの科学技術から生じる問題に振り回されずに，深く考えていく力，哲学力を鍛える必要があります。

◆授業方法　講義形式で，教科書と配付プリントを中心に，パワーポイント，DVD や板書にて行う。授業終りに感想，質問等を書いていただき，次回はコメントし，対話・討論しましょう。

◆準備学修　教科書等に書いてあることを覚えるのではなく，考えたことを書く習慣を意識しよう

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　現代哲学とは（語源・歴史）	９回目　ウィトゲンシュタインの哲学
２回目　キルケゴールの実存主義	10 回目　論理実証主義
３回目　実存の三段階	11 回目　言語行為論
４回目　パースの探究の理論	12 回目　心の哲学
５回目　信念を固める方法	13 回目　心脳同一説
６回目　パースの記号論	14 回目　ロボットの心
７回目　ＴＶ記号論	15 回目　まとめ・試験
８回目　ヴァーチャル・リアリティーの哲学	

◆教科書　通材『哲学　B10700』 通信教育教材（教材コード 000404）3,350 円（送料込）※学修指導書付き
当日資料配付 プリント配付

◆参考書　なし

◆成績評価基準　課題（20%），試験（80%），毎回出席を前提として総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ TOEIC　Listening & Reading test で 500 点突破を目指す　〔TOEIC　A〕

火曜日４時限　　**担当者：八木　茂那子**

◆学修到達目標　本講座では前期に学修した内容を踏まえ引き続き TOEIC®　Listening & Reading（R&L）test 500 点突破を目標とします。初めてあるいは test を受けながらステップアップを目指そうとする人を対象に必要な基本的トレーニング方法を体得し，継続，習慣化することを目指します。

◆授業方法　授業では Listening section と Reading section の問題演習を中心とします。弱点強化のために self – training, pair work，group Activity など色々取り込みながら，楽しくトレーニングをしていく予定です。（クラスはレベル分けされていませんので受講者の理解度 , 進度などにより，授業内容を変更することがあります。）

◆準備学修　授業前の準備学習としては指定された unit を自宅にて２度解いて来て下さい。：１回目は時間を計り，参照物無しで答えをノートに書く。２回目１回目と答えが違う場合はペンの色を変え，参照物（辞書，文法書，その他参考書等）を参照しながら，解いて来て下さい。授業中に３回目を解くことになります。（このように同じ問題を繰り返し解くことで学習内容の定着が図られます。）

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	Guidance　Sample 問題　他	9回目	Unit 7 Technology ＜ Self-study　Quizzes ＞
2回目	Unit 1　Daily Life ＜ Self-study　Quizzes ＞	10回目	Unit 8 Personnel ＜ Self-study　Quizzes ＞
3回目	Unit 2　Places ＜ Self-study　Quizzes ＞	11回目	Unit 9 Management ＜ Self-study　Quizzes ＞
4回目	Unit 3 People ＜ Self-study　Quizzes ＞	12回目	Unit 10 Purchasing ＜ Self-study　Quizzes ＞
5回目	Unit 4 Travel ＜ Self-study　Quizzes ＞	13回目	Unit 11 Finances ＜ Self-study　Quizzes ＞
6回目	Unit 5 Business ＜ Self-study　Quizzes ＞	14回目	Unit 12 Media ＜ Self-study　Quizzes ＞
7回目	Unit 6 Office ＜ Self-study　Quizzes ＞	15回目	Mini-test（2）　解答・解説
8回目	Mini-test（1）解答・解説		

◆教科書　丸沼『Successful Keys to the TOEIC® Listening and Reading test goal → 500:』
Mark D. Stafford 著　桐原書店　1,944 円（税込）（送料 300 円）
当日資料配付　他プリント

◆参考書　丸沼『公式 TOEIC® Listening& Reading 問題集　1』 国際ビジネスコミュニケーション協会
3,024 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準　小テスト（各 Unit の self-study quizzes）50%+Mini test（2回） 50% による総合評価
（クラスのレベルにより一定の基準になるよう調整を加えることがあります。）

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆万葉集における古代的思考を学ぶ　〔国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日４時限　　**担当者：近藤　健史**

◆学修到達目標　万葉集における古代的思考について学ぶ。文学作品が作られる発想の源やメカニズム，古代的思考を理解する力を養うことを到達目標とする。

◆授業方法　講義形式だが，各時間毎にテーマを決め講義した後，受講生相互で討論するという方法をとる。

◆準備学修　『万葉集』について学んでおいて欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　授業計画の説明	９回目　境界領域と発想（１）
２回目　万葉集入門	10 回目　討論（２）
３回目　「字」の諸相（１）	11 回目　樹下の発想（１）
４回目　討論（２）	12 回目　討論（２）
５回目　「七」のシンボリズム（１）	13 回目　「類」の思考
６回目　討論（２）	14 回目　討論（２）
７回目　「青」のシンボリズム（１）	15 回目　まとめ　リポート提出
８回目　討論（２）	

◆教科書　『万葉集』（全歌が収められたもの）

◆参考書　丸沼『万葉事始』　坂本信幸他編　泉書院　2012 年　756 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『万葉集ハンドブック』　多田一臣編　三省堂　1999 年　2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　リポート試験 70%，討論における発表 30%

◆ Speech Communication Ⅰ　〔スピーチコミュニケーションⅠ〕

火曜日４時限　　**担当者：アレックス　ブラウン**

◆学修到達目標　This course is aimed at improving communication skills with a focus on speaking and listening. Efforts will be directed at using English in a natural context and to develop fluency. Grades will be based on attendance and written and speaking tests for each term.

◆授業方法　This course will be based on a topic-based syllabus where students will learn vocabulary. language structures and functions commonly used related to the topics. Students will then perform activities which incorporate the language covered in the section such as group tasks or role plays. This course is open to all students; however, the language and activities are set for pre-intermediate to intermediate level language ability.

◆準備学修　Students are expected to bring a notebook. dictionary and a folder for notes.

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　Course Introduction, Ice-breakers.	９回目　Topic ３ : continued.
２回目　Topic １ : Obligations	10 回目　group activities : tasks and role-plays.
３回目　Topic １ : continued. group activities : tasks and role-plays.	11 回目　Topic ４ : The Future.
４回目　Topic ２ : Suggestions	12 回目　group activities : relevant vocabulary
５回目　Topic ２ : continued. relevant vocabulary : language structures	13 回目　Topic ４ : language structures
６回目　Activity 2 and introduction to presentations.	14 回目　Preparation for Oral test and Exam
７回目　Presentations-s-Group format	15 回目　Speaking test and Written Exam
８回目　Topic ３ : Conditionals	

◆教科書　No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆参考書　None.

◆成績評価基準　Grades will be based on attendance, a final exam and a speaking test.
Students will be graded on their efforts given during their time in the course.

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Through the Looking-Glass に挑戦　〔英米文学演習Ⅰ～Ⅲ〕

火曜日４時限　**オープン受講：不可**　**担当者：猪野　恵也**

◆学修到達目標　この作品は児童文学だと思われがちだが，注意して読むと言葉遊び，ナンセンスなどかなり難しい作品である。様々なレファレンスを参考にして何とか読み進めていく。

◆授業方法　学生による和訳発表。言葉遊びなどに着目して読む。

◆準備学修　発表箇所だけを予習するのではなく，毎回予習された上で授業に臨んで欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　Introduction　担当割り当て決め	９回目　It' s My Own Invention
２回目　Looking-Glass House	１０回目　Queen Alice
３回目　The Garden of Live Flowers	１１回目　Shaking
４回目　Looking Glass Insecsts	１２回目　waking
５回目　Tweedledum and Tweedledee	１３回目　Which Deamed it?
６回目　Wool and Water	１４回目　まとめ
７回目　Humpty and Dumpty	１５回目　試験
８回目　The Lion and the Unicxorn	

◆教科書　当日資料配付　プリントを配付する

◆参考書　授業中指示する。

◆成績評価基準　試験（60%）発表（30%）平常点（10%）皆出席を前提とする

◆奈良・平安時代の日本と東アジアの関係　〔日本史特講Ⅱ〕

火曜日４時限　**担当者：八馬　朱代**

◆学修到達目標　日本古代において中国や朝鮮半島の国々から多くの情報・モノ・人がもたらされ，わが国に大きな影響をあたえてきました。また，唐帝国の崩壊の影響は新羅を滅亡させ，わが国の国内政治を不安定にしたように，東アジア情勢が周辺に及ぼす影響は大きいと考えられます。本講義では，外交上の事件を取り上げ，わが国の外交政策について説明していく。奈良・平安時代の東アジア情勢と日本の関係について説明できることを目標とします。

◆授業方法　配付したプリントを使用して講義を行います。適宜，授業内で史料を読むので，史料の読み方を学んでもらいたい。また，授業で参考文献や史料を紹介するので，各自，図書館で手にとってみるように心がけてください。

◆準備学修　『日本の歴史』や『日本の時代史』など概説書を事前に読んで，奈良・平安時代の国際情勢や政治状況について理解を深めておくようにしてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　６～７世紀の東アジア情勢	９回目　入唐求法巡礼行記にみる新羅人の活動
２回目　遣隋使について	１０回目　刀伊の入寇事件について
３回目　奈良時代の日本と新羅との関係	１１回目　高麗国の医師派遣要請について
４回目　渤海と日本の関係	１２回目　日宋貿易のシステムについて
５回目　日本の新羅人への対応	１３回目　日宋貿易と平氏政権
６回目　貞観年間の対外意識について	１４回目　唐物について
７回目　神功皇后伝承について	１５回目　まとめ
８回目　遣唐使の停止	

◆教科書　当日資料配付　当日，プリントを配付します。

◆参考書　授業中，適宜紹介します。

◆成績評価基準　最終試験 70%　平常点・小テスト 30%　※毎回出席することを前提として，総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ムービージャーナルを書いてみる！？　★½☆〔英語　B〕

火曜日５時限　　**担当者：飯野　朝世**

◆学修到達目標　①映画について語ることができる。②映画への反応を表現できる。③既習のストーリーを要約でき，その続きを予想して表現できる。④映画評を書くことができる。

◆授業方法　①映画をセクションごとに見て行き，要約したり，場面や人物を説明したり英語で映画についての表現を練習する。②次のセクションを予想して物語の続きを表現する。③最終的には映画評を書く。

◆準備学修　①授業で扱う映画の背景について Web 上で英語で情報を集め，クラスでの発表に備えてください。②その時代や社会に興味をもってください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス：授業の進め方，成績評価法	９回目　Your Reaction to the Movie（2）
２回目　Talking about Movies	10 回目　Making a prediction（2）
３回目　Talking about the Characters	11 回目　Movie Messages and Ratings
４回目　Talking about the Background	12 回目　Writing a Movie Review
５回目　Summarizing the Story	13 回目　Writing a Movie Review
６回目　Your Reaction to the Movie	14 回目　Review
７回目　Making a prediction	15 回目　Final Exam
８回目　Summarizing the Story（2）	

◆教科書　なし。

◆参考書　Web 上で英語で情報を集めてみましょう。

◆成績評価基準　①　期末テスト：50%，②授業内の発表度，提出物：30%，③平常点：（積極的授業参加度，その他に遅刻，早退，私語，居眠りなどは減点します）：20%，全回出席を前提に①～③により総合的に評価します。

②　【注】授業数の2/ 3以上出席した場合に単位を認定します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆漢字に頼らないリスニング力　〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日５時限　**担当者：稲葉　明子**

◆学修到達目標　漢字の意味がわかることは大きな強みでもありますが，初期の関門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を発揮して中国語の発音を完全に理解し，漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。語順・時量・アスペクト等，中国語特有の独特な世界観を，実際の場面から把握し，文法的理解へ繋げていきます。

◆授業方法　前期までに学習習慣が確立した人は，授業をペースメーカーにして毎週一定量の単語と言い回しを覚えていきましょう。あと一歩というひとも，毎回発音記号から始めますので挽回する時間は十分にあります。できれば本文を暗誦するくらいに読み込みます。

◆準備学修　授業で初見の場面を自力で把握する訓練をしますので，予習ではなく，復習と翌週の小テスト対策が毎回の家庭学習となります。教科書のさまざまな例文やドリルも，日本語に訳すのではなく，場面を想像しながら音が口をついてでてくるところまで練習してください。

◆履修条件　前期昼間スクーリング相当の基礎力が必要です

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目　第5課：アスペクト・連動文	9回目　第 12 課：程度補語 / 可能補語
2回目　第6課：助動詞「会・能」	10回目　まとめ
3回目　第7課：助動詞「要」比較	11回目　第 13 課：処置文 / 使役文
4回目　第8課：結果補語	12回目　第 14 課：経験相 / 主述述語文
5回目　まとめ	13回目　第 15 課：動量補語 / 時量補語
6回目　第9課：方向補語	14回目　第 16 課：二重目的語 / 受け身文
7回目　第 10 課：兼語文 / 方向補語派生義	15回目　教場試験
8回目　第 11 課：存現文 / 進行相 / 持続相	

◆教科書　丸沼『どうちがう？似たもの中国語』　相原茂・蘇紅　朝日出版　2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　WEB 上に様々なトレーニング用コンテンツを UP します。音声を用いた復習が必要になります。

◆成績評価基準　授業への取り組み，小テストなどにより総合的に評価します。試験は，リスニングが中心となります。受講前に予想できる内容ではなく，柔軟な発想が必要ですが，指示通りに取り組めば，難しいものではありません

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆国際政治の理論を学び，課題と向き合う　〔国際政治学／国際政治論／国際政治学概論〕

火曜日５時限　　**担当者：横田　将志**

◆学修到達目標　①現実の国際政治の理解と説明に必要な理論を知り，活用できるようになること。
②国際協力や地域統合といった国際政治の現象を知り，説明できるようになること。
③国際社会に存在する諸課題について理解し，その解決策を考案できるようになること。

◆授業方法　基本的に，講義形式で行う。理解の促進を図るために，資料を活用したり，ディスカッションを行ったりする場合もある。

◆準備学修　教科書の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。また，日頃から，国際情勢に関する新聞記事を読んだりニュース番組を観たりすることを勧める。

◆履修条件　前期・後期の連続受講が望ましい（後期のみの受講も可能）。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス，国際政治学とは何か	９回目　南北問題をどう解決するのか（２）
２回目　国際関係理論とは何か（１）	10 回目　地球環境問題をどう解決するのか（１）
３回目　国際関係理論とは何か（２）	11 回目　地球環境問題をどう解決するのか（２）
４回目　国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論（１）	12 回目　非国家アクターの台頭をどう見るのか
５回目　国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論（２）	13 回目　市民社会は世界を動かすことができるのか
６回目　リージョナリズムと欧州統合（１）	14 回目　国際紛争・国内紛争をどう解決するのか
７回目　リージョナリズムと欧州統合（２）	15 回目　後期のまとめ
８回目　南北問題をどう解決するのか（１）	

◆教科書　通材『国際政治学　L30200 ／国際政治論　R32700 ／国際政治学概論　S33200』
通信教育教材（教材コード 000501）2,900 円（送料込）
〈この教材は市販の『Next 教科書シリーズ　国際関係論（第２版）』佐渡友哲・信夫隆司共著（弘文堂）と同一です〉

◆参考書　授業のなかで適宜，紹介する。

◆成績評価基準　授業への取り組み方（授業内レポートや発言）とテストの結果を総合的に判断します。

◆プラグマティズムと科学哲学　〔哲学特殊講義〕

火曜日５時限　　**担当者：江川　晃**

◆学修到達目標　プラグマティズムの哲学は，20 世紀の様々な思想の中でもっとも長く生き延びて，21 世紀の現代にあっても，世界の多くの哲学の思潮の中心に据えられている。パースに始まる古典的プラグマティズムは，20 世紀広範囲復活し，クワイン，ローティーなどのネオ･プラグマティズムが科学哲学の脈絡において展開される。以上を通して，プラグマティズムと科学哲学の深い，柔軟な関係を知ることができる。

◆授業方法　教科書を中心に講義し，討論する。時に，その内容をレポートしていただきます。

◆準備学修　授業内容を事前によく読んでおいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　これからのプラグマティズム
２回目　ネオ・プラグマティズムとは何か	10 回目　ブランダム
３回目　クワイン１	11 回目　マクベス
４回目　クワイン２	12 回目　ティエルスラン
５回目　ローティ１	13 回目　ハークとミサク
６回目　ローティ２	14 回目　マクダウェルとブライス
７回目　パトナム１	15 回目　試験
８回目　パトナム２	

◆教科書　丸沼『プラグマティズム入門』　伊藤邦武　ちくま新書　筑摩書房　2016 年　950 円（税込）
（送料 215 円）

◆参考書　なし

◆成績評価基準　課題レポート（50%），試験（50%）

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆新聞に読む日本占領下の上海　〔東洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日５時限　**担当者：髙綱　博文**

◆学修到達目標　日本占領下の上海で刊行された日本語新聞『大陸新報』は，日中戦争下の中国の政治，経済，戦況，時事，さらには文化・社会事情を知るための貴重な史料である。同新聞を講読しながら史料批判などの歴史研究のための基礎力を養成します。

◆授業方法　テキスト『大陸新報』を講読しながら，受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆準備学修　『大陸新報』を読み，研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

◆履修条件　通年で履修することが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　テキスト講読・報告・討論（７）
２回目　卒論中間報告	10 回目　テキスト講読・報告・討論（８）
３回目　テキスト講読・報告・討論（１）	11 回目　テキスト講読・報告・討論（９）
４回目　テキスト講読・報告・討論（２）	12 回目　テキスト講読・報告・討論（10）
５回目　テキスト講読・報告・討論（３）	13 回目　テキスト講読・報告・討論（11）
６回目　テキスト講読・報告・討論（４）	14 回目　テキスト講読・報告・討論（12）
７回目　テキスト講読・報告・討論（５）	15 回目　まとめ
８回目　テキスト講読・報告・討論（６）	

◆教科書　テキスト『大陸新報』は日本上海史研究会 HP 上で閲覧可能。

◆参考書　授業中に適時指示する。

◆成績評価基準　講読･発表（60%），平常点（20%），リポート（20%）。毎回出席することを前提として評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

MEMO

【水曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目 科目コード	充当科目 科目名	制限・注意 併用	制限・注意 配当学年	制限・注意 受講条件	オープン講
1時限	AJ11	経　済　学	田村　和彦	2		B11800	経　済　学	×	1年		×
	AJ12	英　語　C	青木　克憲	1		C10100	英　語　Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	×
						C10200	英　語　Ⅱ				
						C10300	英　語　Ⅲ		2年		
						C10400	英　語　Ⅳ				
	AJ13	商　法　Ⅱ	大久保　拓也	2		K30600	商　法　Ⅱ	×	2年		
	AJ14	簿　記　論　Ⅰ	山元　俊一	2		S20300	簿　記　論　Ⅰ	×	条件参照	・商学部は1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
2時限	AJ21	英　語　D	森　晴代	1		C10100	英　語　Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英　語　Ⅱ				
						C10300	英　語　Ⅲ		2年		
						C10400	英　語　Ⅳ				
	AJ22	英語学演習Ⅰ～Ⅲ	真野　一雄	1		N401S0	英語学演習Ⅰ	×	3年	・英文学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						N402S0	英語学演習Ⅱ				
						N403S0	英語学演習Ⅲ				
	AJ23	考古学概説	野中　和夫	2		Q30500	考古学概説	×	2年		
	AJ24	東洋史特講Ⅱ	髙綱　博文	2		Q31100	東洋史特講Ⅱ	×	2年		
	AJ25	広　告　論	雨宮　史卓	2		S30900	広　告　論	×	2年		
3時限	AJ31	文　学	木村　一	2		B11300	文　学	×	1年		
	AJ32	法　学　A	武田　茂樹	2		B11500	法　学 (日本国憲法2単位を含む)	×	1年		
	AJ33	英　語　E	北原　安治	1		C10100	英　語　Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英　語　Ⅱ				
						C10300	英　語　Ⅲ		2年		
						C10400	英　語　Ⅳ				
	AJ34	政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	秋山　和宏	2		L311S0	政治学特殊講義Ⅰ	×	2年	・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						L312S0	政治学特殊講義Ⅱ				
	AJ35	英語音声学	森　晴代	2		N30600	英語音声学	×	2年		

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

【水曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目		制限・注意			オープン講
						科目コード	科目名	併用	配当学年	受講条件	
4時限	AJ41	歴史学A	渡邊　浩史	2		B11100	歴史学	×	1年		
	AJ42	国語学概論	保科　恵	2		M20300	国語学概論	×	条件参照	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AJ43	国文学講義Ⅴ(近代)	永岡　健右	2		M30900	国文学講義Ⅴ(近代)	×	2年		
	AJ44	日本思想史Ⅰ	島田　健太郎	2		P30800	日本思想史Ⅰ	×	2年		
	AJ45	日本史概説／日本史概論	横山　則孝	2		Q30200	日本史概説	×	2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。	
						K32200	日本史概論			・法学部のみ申込可。	
5時限	AJ51	歴史学B	堀井　弘一郎	2		B11100	歴史学	×	1年		
	AJ52	文化史	渡邊　浩史	2		B11200	文化史	×	1年		
	AJ53	英語F	石川　勝	1		C10100	英語Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英語Ⅱ				
						C10300	英語Ⅲ		2年		
						C10400	英語Ⅳ				
	AJ54	国文学基礎演習	木村　一	1		M317S0	国文学基礎演習	×	2年	・国文学専攻のみ申込可。	×

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

講座内容（シラバス）

◆少子高齢化時代の経済活動　〔経済学〕

水曜日１時限　**オープン受講：不可**　**担当者：田村　和彦**

◆学修到達目標　経済問題についての理解力と思考力を向上させるため。

◆授業方法　講義方式。

◆準備学修　教科書を読んで十分に予習をすること。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　経済学の定義	９回目　無差別曲線
２回目　希少性の法則と経済行為	１０回目　消費性向・貯蓄性向・可処分所得
３回目　経済学の研究手続き	１１回目　生産の３要素　生産函数
４回目　資本主義経済　大きな政府，小さな政府	１２回目　生産費　平均費用と限界費用
５回目　社会主義経済	１３回目　生産要素の最適結合
６回目　現代資本主義，経済のあり方について	１４回目　企業の最大利潤の追求と個別供給曲線
７回目　消費者の経済行動　財の効用	１５回目　まとめ
８回目　限界効用と総効用　限界効用逓減の法則	

◆教科書　**通材**『経済学　B11800』 通信教育教材（教材コード 000450）1,950 円（送料込）
丸沼『経済学』 瀬川浩・田村和彦編著　桜門書房　3,024 円（税込）（送料 300 円）
テキストは，上記２冊を必ず持参のこと。

◆参考書　なし。

◆成績評価基準　最終筆記試験。

◆主人公ブラッドのストーリーを追いかけよう　★★☆〔英語　C〕

水曜日１時限　**オープン受講：不可**　**担当者：青木　克憲**

◆学修到達目標　主人公ブラッドのストーリーが 180 語程度の英文で書かれています。内容を理解しながら文法力，英作文力を練習問題を通して身につけます。

◆授業方法　受講生に発表してもらう形で授業を行なう。本文の英文は１行（短い場合は２行）ずつ和訳してもらいその後で説明，補足などを加えて内容を検討する。練習問題は解答を答えてもらう。

◆準備学修　シラバスを参照して，次回に行なう箇所を辞書を引き，内容をまとめておくこと。問題は自分の解答を用意しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　unit 13　At Work	９回目　unit 20　It was a great date
２回目　unit 14　Ordering Kitchen Products.	１０回目　今までのまとめ（u,17 ～ u,20）
３回目　unit 15　Customer Complaints	１１回目　unit 21　Lost Property
４回目　unit 16　Thanking People	１２回目　unit 22　A Birthday Present
５回目　今までのまとめ（u,13 ～ u,16）	１３回目　unit 23　Bad Luck
６回目　unit 17　Arranging a Date	１４回目　unit 24　Happy Ending
７回目　unit 18　When and Where	１５回目　授業全体のまとめ
８回目　unit 19　Directions	

◆教科書　丸沼『Hello, I'm Bradley（ブラッドリーのハッピーライフ）』 南雲堂　2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　授業中に必要に応じて紹介します。

◆成績評価基準　授業への取り組み（予習状況，練習問題）（30%）試験（70%）で評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆会社法の基礎から学ぶ　〔商法Ⅱ〕

水曜日１時限　　**担当者：大久保　拓也**

◆学修到達目標　この講義では，現代社会で重要な役割を果たしている会社，特に株式会社に関する法知識の習得を目的とします。会社法は，平成 26 年に重要な改正がなされました（平成 27 年５月１日施行）。実社会に与える影響も大きいため，会社に関する法規制を基本から理解を目的とした講義を行います。株式会社の機関構造（後半），株式会社の設立，組織再編等を扱います。

◆授業方法　講義形式で行います。講義は，会社法制度の全体構造を理解し，会社法上の基本問題について，法的に解答できる論理的思考力の習得を目的とします。会社法は複雑な規律が多いので，それを理解できるように継続的に講義に出席することが求められます。また，漫然と授業に出席するだけでは知識が身につかないので，講義時に何度か小テストを行い理解度をチェックすることも予定します。そのため，予習・復習も必須となります。

◆準備学修　指摘の教科書を熟読し，予習を欠かさないことが必要です。会社法は，経済活動に密接に結びついた法分野ですから，常に新しい経済の仕組みを理解していなければなりません。そのための最適の方法は，日刊新聞（日経新聞等）を読むことです。最近ではどのような経済問題があるのか，どのような新しい企業組織形態が誕生したのか，等について問題意識をもって毎日欠かさず読むことが必要です。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目	ガイダンス　株式会社の機関構造４：役員の選任・解任手続	９回目	株式会社の機関構造 11：取締役の対第三者責任
２回目	ガイダンス　株式会社の機関構造４：役員の選任・解任手続	10 回目	株式会社の機関構造 12：監査役，監査役会，会計監査人，会計参与
３回目	株式会社の機関構造５：競業取引と利益相反取引株式会社の機関構造	11 回目	資本制度と会社の計算
４回目	株式会社の機関構造６：善管注意義務と忠実義務～経営判断と内部統制	12 回目	株式会社の設立１，株式会社の設立２
５回目	株式会社の機関構造７：取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割	13 回目	持分会社の法規制
６回目	株式会社の機関構造８：報酬規制	14 回目	組織再編１，組織再編２
７回目	株式会社の機関構造９：指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造，検査役	15 回目	講義のまとめ
８回目	株式会社の機関構造 10：取締役の対会社責任と株主代表訴訟		講義進度に応じ以上の内容には変更する場合があります。

◆教科書　丸沼『会社法講義 30 講』　松嶋隆弘編著　中央経済社　2015 年４月　3,780 円（税込）（送料 350 円）
六法を持参すること（2014（平成 26）年以降に限り，最新版（2017（平成 29）年版）が望ましい）

◆参考書　丸沼『会社法判例百選（第３版）』　岩原紳作ほか編　有斐閣　2016 年　2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　①平常点（授業中に行う「小テスト」も含みます）（20%），
②授業中にふれた重要な事項から出題する「試験」（80%）。毎回出席することを前提として評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆初学者のための簿記入門コース　〔簿記論Ⅰ〕

水曜日１時限　**担当者：山元　俊一**

◆学修到達目標　初めて簿記を勉強する方を対象に，簿記一巡の流れを理解してもらい，最終的には，貸借対照表・損益計算書を作成できるようになることが目標です。そのためには，簿記の仕組みや帳簿記入・決算などの内容を理解することが重要です。前期のみの受講あるいは後期のみの受講も可能です。ただし，簿記検定３級程度の内容を網羅的に理解されたい方は通年の受講が望ましいと思われます。

◆授業方法　テキストの内容に沿って，内容を解説していきたいと思います。簿記は「習うより慣れろ」と言われています。そこで，講義ばかりでなく，実際に問題を解いてもらい，実践力を身につけてもらいたいと思います。

◆準備学修　簿記の場合は「ローマは１日にしてならず」という言葉がピッタリとあてはまります。継続的に練習を積み重ねていくことによって，身についていくものです。ですので，毎回の復習は欠かさずに行ってください。電卓は必ず持参してください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　前期の復習　①	９回目　伝票　①
２回目　前期の復習　②	10 回目　伝票　②
３回目　受取手形と支払手形	11 回目　財務諸表　①
４回目　有価証券	12 回目　財務諸表　②
５回目　固定資産	13 回目　財務諸表　③
６回目　貸倒損失と貸倒引当金	14 回目　財務諸表　④
７回目　資本金と引出金	15 回目　後期のまとめ
８回目　収益と費用	

◆教科書　丸沼『検定簿記講義　３級商業簿記』　渡部裕亘・片山覚・北村敬子　中央経済社　756 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『検定簿記ワークブック　３級商業簿記』　渡部裕亘・片山覚・北村敬子　中央経済社　756 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　なし

◆成績評価基準　原則として，授業の出席と試験の結果により総合評価を行います。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆理解言語「読む，聞く」をしっかり勉強しよう　★★☆〔英語　D〕

水曜日２時限　　**担当者：森　晴代**

◆学修到達目標　英語の４技能のうち，理解言語である「読む，聞く」を繰り返し練習することにより，英語そのものに慣れ，直聴直解を目指します。表現言語である「話せる，書ける」は，理解言語を相当有していることが前提となります。具体的にはネイティヴスピーカーが日常使用する 5000 語を身につける，１分間に 150 語の音読及び内容把握を目標とします。また，前期のみの受講，後期のみの受講も可能ですが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法　２回の授業で１unit 進めます。本文のリスニング，和訳，内容のディスカッション，質疑応答，音読（オーバーラッピング，シャドーイング）をグループワークを取り入れて行います。グループはクラスの人数により変更しますが４～６名で１グループを予定しています。辞典は必ず毎回持参してください。小テストは各 unit 終了時にその unit の書き取り，もしくはパッセージの要約のいずれかを行います。

◆準備学修　必ず予習してきてください。専用のノートをご準備ください。自分がどの部分でつまづいているのかを把握してから授業に臨むと理解しやすくなります。１日に少しの時間でよいので音読練習，リスニング練習を行ってください。難しいスペルの単語は練習しておきましょう。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目	リスニングと音読の関係性の説明 Unit ８：Air Pollution in Asian Cities 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	９回目	Unit 11 の補足　小テスト Unit12：River Surfing 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
２回目	Unit ８：Air Pollution in Asian Cities リスニング及び要約　質疑応答 オーバーラッピング　シャドーイング	10 回目	Unit12：River Surfing リスニング及び要約　質疑応答 オーバーラッピング　シャドーイング
３回目	Unit ８の補足　小テスト Unit ９：Meet the Millennials 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	11 回目	Unit 12 の補足　小テスト Unit 13：Hip Hop Therapy 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
４回目	Unit ９：Meet the Millennials リスニング及び要約　質疑応答 オーバーラッピング　シャドーイング	12 回目	Unit 13：Hip Hop Therapy リスニング及び要約　質疑応答 オーバーラッピング　シャドーイング
５回目	Unit ９の補足　小テスト Unit 10：The Price of Oil 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	13 回目	Unit 13 の補足　小テスト Unit 14：Venture Capital 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
６回目	Unit 10：The Price of Oil リスニング及び要約　質疑応答 オーバーラッピング　シャドーイング	14 回目	Unit 14：Venture Capital リスニング及び要約　質疑応答 オーバーラッピング　シャドーイング
７回目	Unit 10 の補足　小テスト Unit 11：Police in Schools 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	15 回目	Unit 14 の補足　小テスト 後期授業のまとめ
８回目	Unit 11：Police in Schools リスニング及び要約　質疑応答 オーバーラッピング　シャドーイング		

◆教科書　丸沼『CNN Student News（５）』　関戸冬彦他４名著　朝日出版社　2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　授業中に紹介します。

◆成績評価基準　平常点（20%）　小テスト（20%）　音読発表（10%）　試験（50%）　毎回出席することを前提として評価します

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語学を基礎から学びましょう　〔英語学演習Ⅰ～Ⅲ〕

水曜日２時限　**担当者：真野　一雄**

◆学修到達目標　英語という言語がどういう仕組みになっているのか，音，語，文それぞれのレベルで，英文学専攻の学生として必要な知識を修得し，説明できるようになることを目的とします。

◆授業方法　テキストの解説，補足説明を行い，用例を正しく認識し，理解を深めていきます。必要に応じて担当講師が用意する練習問題を行います。

◆準備学修　重要語，用例については特に注意して，テキストを読み，理解できるところ，できないところを自覚しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	第４章　統語論　機能的構文論 １．２．文の情報構造（１）	9回目	同　５．動詞の意味
2回目	同　２．文の情報構造（２）	10回目	第６章　認知意味論 １．認知言語学　２．カテゴリー化とプロトタイプ
3回目	同　３．視点（１）	11回目	同　３．メトニミー　４．語の意味
4回目	同　３．視点（２）	12回目	同　５．抽象概念とメタファー ～ ７．概念融合
5回目	第５章　語彙意味論 １．語の意味	13回目	第７章　語用論 １．語用論という領域 ～ ５．概念的情報を持つ表現
6回目	同　２．意味関係	14回目	同　６．手続き的情報を持つ表現 ～ ８．日英比較
7回目	同　３．多義	15回目	試験＋その解説
8回目	同　４．名詞の意味：可算と不可算		

◆教科書　丸沼『日英対照　英語学の基礎』　くろしお出版　1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　通材『英語学概説　N30700』 通信教育教材（教材コード 000400）3,100 円（送料込）
〈この教材は市販の『英語学入門』安藤貞雄・澤田治美編（開拓社）と同一です〉
他の英語学入門書，概説書など

◆成績評価基準　受講状況（10%），試験（90%）で評価の予定。６回以上の欠席者は受験資格を失います。（試験は途中退出なしです）

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆古墳時代・古代の社会を学びましょう　〔考古学概説〕

水曜日２時限　**担当者：野中　和夫**

◆学修到達目標　佐賀県吉野ヶ里遺跡や奈良県纒向遺跡の発掘によって，邪馬台国論争が再燃している。「魏志倭人伝」には何が記されているのか，発掘された資料との照合によって事実を知ることができる。さらに，古墳時代から古代にかけての主要な遺跡を取上げ，そこから発掘された遺物・遺構がどのように評価されているのか理解することを目標とする。

◆授業方法　講義形式，考古資料はもとより，史料も活用することによって，考古学と文献史学の接点についても触れる予定。

◆準備学修　ノート，プリント，参考書等々を利用して復習すること。講義内で遺跡・博物館見学等々をすることができないので，遺跡の見方や注目される展示会を紹介するので，見学し，感想及び調べたことをレポートにし，提出すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　遺跡の理解	９回目　武蔵国分寺の造営と国府
２回目　「魏志倭人伝」と考古学（1）	10 回目　瓦の生産と供給
３回目　「魏志倭人伝」と考古学（2）	11 回目　影向寺跡と橘郡街
４回目　古墳時代の概要と代表的な古墳	12 回目　「无射志国荏原評」銘の古瓦
５回目　埼玉古墳群と稲荷山古墳	13 回目　藤原京の発掘
６回目　金象嵌鉄剣の銘文と文字史料	14 回目　平城京の造営
７回目　豪族の居館と家形埴輪	15 回目　古墳時代と古代の社会・まとめ
８回目　古墳時代のイエとムラ	

◆教科書　当日資料配付　当日プリント配付。

◆参考書　『古墳時代の考古学』①～⑧巻　同成社　〈図書館等を利用してください〉
丸沼『平城京の時代』　坂上康俊　岩波書店　885 円（税込）（送料 215 円）

◆成績評価基準　平常点 15%　レポート 20%　試験 65%

◆孫文と「大アジア主義」を考える　〔東洋史特講Ⅱ〕

水曜日２時限　**担当者：髙綱　博文**

◆学修到達目標　中国革命の父・孫文の「大アジア主義」については様々な解釈がなされてきたが，その歴史的背景を検証しながら，近代中国が直面していた国内外の政治情勢を理解する。

◆授業方法　テキストの講読を基本にしながら，孫文に関する映像も視聴しながら理解を深めます。

◆準備学修　予めテキスト及び参考文献を学習しておくことが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　孫文の帝国主義観の再検討（3）
２回目　孫文に関する映像視聴	10 回目　孫文に関する映像視聴
３回目　孫文の「大アジア主義」講演（1）	11 回目　日中関係と孫文の「大アジア主義」（1）
４回目　孫文の「大アジア主義」講演（2）	12 回目　日中関係と孫文の「大アジア主義」（2）
５回目　孫文の対外戦略論（1）	13 回目　日中関係と孫文の「大アジア主義」（3）
６回目　孫文の対外戦略論（2）	14 回目　日中関係と孫文の「大アジア主義」（4）
７回目　孫文の帝国主義観の再検討（1）	15 回目　まとめ
８回目　孫文の帝国主義観の再検討（2）	

◆教科書　通材『東洋史特講Ⅱ　Q31100』　通信教育教材（教材コード 000508）1,900 円（送料込）

◆参考書　丸沼『孫文－近代化の岐路』　深町英夫　岩波新書　907 円（税込）（送料 215 円）

◆成績評価基準　試験（50%），リポート（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆広告の意義とプロモーション戦略を学ぶ　〔広告論〕

水曜日２時限　**担当者：雨宮　史卓**

◆学修到達目標　TV を見ない日はあっても広告を見ない日はないと言っても過言でないくらい，広告は我々の生活に深く浸透している。この事を踏まえ，企業の広告戦略を概観しながら，人々の欲求を創造するコミュニケーション活動である広告を生活全体や文化といった広い視点での理解を目指す。

◆授業方法　前期の広告論での授業における広告の基本的機能を元に，企業の広告戦略の実態を解説する。授業の後半では，その日の主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修　前もってテキスト及び配付資料を読んでおくこと。ノートは必ず持参すること。

◆履修条件　前期の広告論と継続履修が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　授業の進め方　広告の種類	９回目　ブランド・イメージと広告
２回目　広告の機能と役割	10 回目　広告と認知的不協和
３回目　プロモーション戦略と広告戦略	11 回目　コモディティ製品の広告戦略
４回目　市場と広告	12 回目　経験価値と広告の概念
５回目　ブランドの意義と役割	13 回目　サービス産業の広告戦略
６回目　ブランドを軸とした広告戦略の展開	14 回目　授業の総復習
７回目　ブランド・ライフサイクルと広告	15 回目　テストと解説
８回目　広告コミュニケーションの考え方	

◆教科書　通材『広告論　S30900』 通信教育教材（教材コード 000538）2,150 円（送料込）※学修指導書付き
〔当日資料配付〕必要に応じて資料を配付する

◆参考書　なし

◆成績評価基準　テスト（40%），小論文（40%），平常点（20%）　授業の取り組み，小論文，テストにより総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典文学作品から文学を学ぶ 〔文学〕

水曜日３時限 **担当者：木村　一**

◆学修到達目標　本講義は基本的に「文学」（前期）の流れの中にあり，前期からの継続において後期に継承されるものである。後期においては，『源氏物語』を読む。対象とする巻は，「桐壺」と「葵」である。物語世界の時代背景，当時の生活様式が当然認識されていることが理想的であり，その理解のもとにおいて物語を読み進めていく。物語ということの捉え方，『源氏物語』についての基本的な捉え方ができるようになる。

◆授業方法　講義形式で授業を行います。指定テキストの解説とあわせて，実際に文学作品を読んでいきます。ただし，ただ文学作品の内容を捉えることが目的なのではありません。受講生職人に積極的に思考・考察してもらうために，授業時間内に複数回にわたって小課題を課すことにします。それは，各セクションにおける各自の理解度・把握度を計る目安となるものです。その課題に対応すべく，各自積極的にノートをとること。

◆準備学修　指定されたテキストの内容と流れとを事前に把握しておくこと。授業範囲の専門用語を事前に把握しておくこと。毎回の授業後，各自の講義ノートと指定テキストを基とし，整理復習をしっかりとこなし，次の講義につなげる努力をすること。次回の予告を聞き逃さず，次回の展開に即した指定テキスト（あるいは資料）の内容の把握と作品内容の読み込みを行うこと。

◆履修条件　前期のみの受講，後期のみの受講も可能だが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　導入，どうすすめるか，諸注意	９回目　光源氏誕生
２回目　『源氏物語』入門	10 回目　光源氏の結婚
３回目　『源氏物語』とはなにか	11 回目　桐壺巻以降葵巻まで
４回目　桐壺巻　読み始め	12 回目　葵と六条御息所
５回目　一夫多妻制と後宮	13 回目　斎院御禊の日と車の所争い
６回目　第二皇子誕生	14 回目　苦悩と物の怪
７回目　「更衣」の死とタブー	15 回目　試験
８回目　第二皇子の臣籍降下	

◆教科書　通材『国文学基礎講義　M20100』 通信教育教材（教材コード 000519）3,050 円（送料込）
※学修指導書付き
当日資料配付 当日プリント配付

◆参考書　電子辞書があると便利（電子端末不可）

◆成績評価基準　毎回出席することを前提とし，講義への取り組み・小課題の成果により総合的に評価する。
受講状況（10%）・小課題（10%）・試験（80%）

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆憲法・民法・刑法の現代的課題を考えよう　〔法学　A〕

水曜日３時限　**担当者：武田　茂樹**

◆学修到達目標　現代世界は，急激なグローバル化の進展の中で，世界的に大きな構造変化の過程にあります。今日の科学技術の驚異的な発展は，従来の社会構造だけでなく，人類の文化認識そのものを大きく変えようとしています。このような地球環境全体に及ぶ変動の中で，法システムはどのような影響を受け，いかなる現代的課題を抱えているのかを憲法・民法・刑法という主要な法を中心に，総合的に考えて行きたいと思います。その主要な論点は，次の３点です。
①憲法と現代世界について
②民法と知的財産法について
③刑法と現代型犯罪について

◆授業方法　前期に学んだ歴史的な法的理解を前提としながら，現代世界で生じている世界的な法的構造変化について考察します。構造変化は，法システム全体に及ぶと考えられますが，講義では，憲法・民法・刑法の主要三法を中心に考えて行きたいと思います。講義の進行は講義形式を中心として行いますが，学生諸君の問題意識をなるべく尊重できるように積極的な質疑応答を行いたいと思います。学生諸君からの積極的な質問を期待しています。

◆準備学修　今回の講義の課題及び内容は，人類の文化全体に関わる広範囲かつ不確定性を有するものなので，決まった準備方法を想定していません。学生諸君が自己の問題意識を大切に講義に参加し，楽しんでいただければ幸いです。これからの人類全体の課題なので，学生諸君と一緒にあせらずじっくりと考えて行きたいと思っています。準備学習は各自の考え方に任せます。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目	現代世界の構造変化を考える。	９回目	現代社会の発展は刑法にどのような影響を与えるか。
２回目	現代世界の構造変化は，人類の文化にどのような影響を与えつつあるのか。	１０回目	現代型犯罪とそれに対する刑法的対応をどう考えるべきか。
３回目	現代の法システムは，どのような課題を抱えているのか。	１１回目	現代世界の法システムをどのように形成されるべきか。
４回目	現代のグローバル化の進展は，法システムにいかなる影響を与えるか。	１２回目	地球環境の持続可能性を法的にどのように保障すべきか。
５回目	国際社会と法の関係をどのように捉えるべきか。	１３回目	宇宙環境における法的平和をどのように実現すべきか。
６回目	日本国憲法の平和主義は，国際社会においていかなる意義を有するか。	１４回目	人類や生命体に予想される今後の存在構造の変化に法はどう向かい合うべきか。
７回目	世界的なグローバル市場の形成は，民法にどのような影響を与えるか。	１５回目	学生諸君との対話
８回目	知的財産法の発展と民法の関係性。		

◆教科書　なし。

◆参考書　授業中に提示する。

◆成績評価基準　毎回出席することを前提として，試験（80%），平常点（20%）で評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆英文の基本構造を理解する　★★☆〔英語　E〕

水曜日３時限　　**担当者：北原　安治**

◆学修到達目標　五文型に基づき，英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになることを目標とする。前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法　予習段階で英文を８行ほどの間隔でノートに写す。その英文の下にＳ（主語），Ｖ（動詞）などを書いてもらい，訳を付ける。細かく板書するので訳が書き取れないということはない。予習の段階で必ず本文をノートに写してくること。各色のマーカーなど持ってくると良い。受講者の速度に合わせるので，かならずしも授業計画どおりにはならない。本文のみやり練習問題はやらない。ノート検査は抜き打ちで行うのでかならずノートは書いておく。ノートはルーズリーフでもよいが，必ず書いた分は全てのページを毎回持って来ておくこと。ノート無きものは単位を与えない。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。第２章から始める。

◆準備学修　予習段階で英文を８行ほどの間隔でノートに写す。板書のときは英文の下に訳を書くが，ノートの見開きの左のページに英文を写し，右のページに訳をつけても良い。単語を調べてくること。毎回和訳小テストをするので辞書を持ってくること。教科書を毎回持ってくること。教科書を持って来ているか調べる。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	９回目　第２章（独２）の英文構造と和訳
２回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	10 回目　第２章（独２）の英文構造と和訳
３回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	11 回目　第２章（独２）の英文構造と和訳
４回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	12 回目　第２章（独２）の英文構造と和訳
５回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	13 回目　第２章（独２）の英文構造と和訳
６回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	14 回目　第２章（独２）の英文構造と和訳
７回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	15 回目　まとめと試験
８回目　第２章（独２）の英文構造と和訳	

◆教科書　丸沼『Major Countries in the World ～世界の主要国～』　小泉和弘編　鳳書房　1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　丸沼『ロイヤル英文法』　旺文社　1,890 円（税込）（送料 450 円）
この本は講義では使わない。辞書は毎回持ってくること。辞書を持って来ているか検査をする。

◆成績評価基準　試験，実力テストなどの総合評価。皆出席を望む。欠席１回で何点か引く。出席点とノート点は加点しない。出席してノートを取るのは当然のことだからである。抜き打ちの実力テストも行う。板書事項を全部書いているかを調べる。ノート検査をして不備の者は不合格。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本政治の今，これから(2)　〔政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

水曜日３時限　**担当者：秋山　和宏**

◆学修到達目標　激動する世界に直面してわが国わが国民も対応を迫られている。こうした問題意識を明らかにするため日本政治の歴史・実態・問題点を理解し，あるべき姿を考えるようになること。本講においては日本政治の「しくみ」と「過程」について学ぶ。

◆授業方法　主に講義形式で進めるが，質疑応答を交えたものにしたい。

◆準備学修　・高等学校の「日本史」「世界史」の教科書で近現代史の流れ，基本事項を学ぶ
・メディアの提供する近現代史情報をチェックする

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	日本政治の諸アクター	(1)概観	9回目	日本政治過程	(1)選挙過程
2回目	〃	(2)有権者＜1＞	10回目	〃	(2)立法過程
3回目	〃	(2)有権者＜2＞	11回目	〃	(3)予算編成過程
4回目	〃	(3)政治家と官僚＜1＞	12回目	〃	(4)中央・地方関係
5回目	〃	(3)政治家と官僚＜2＞	13回目	わが国の政治の問題点と課題	(1)問題の所在
6回目	〃	(4)政党	14回目	〃	(2)課題についての考察
7回目	〃	(5)圧力団体	15回目	〃	(3)展望・まとめ
8回目	〃	(6)マスメディア			

◆教科書　丸沼『現代政治過程』　秋山和宏編著　三和書籍　2,700 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書　適宜紹介する

◆成績評価基準　試験（70%）とレポート（30%）で評価

◆英語の音声現象の基礎理解　〔英語音声学〕

水曜日３時限　**担当者：森　晴代**

◆学修到達目標　1．日本語との違いを意識し，英語の発音の特徴及び発音記号を理解する。
2．英語のプロソディの学びを通して，英語らしい発音を追及する。

◆授業方法　英語音声学の観点から後期は子音，音声変化，イントネーションの説明を行います。毎週小テストを課して習得状況を確認します。必要に応じてプリントを配付し補足説明します。8名から 10 名のグループを作り，発音練習への取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。

◆準備学修　テクストには専門用語が数多くでてきますので，前もって読んでおきましょう。発声器官の名称は，子音の勉強につながります。理解しておきましょう。また，辞典を引く際発音記号を意識する習慣がついていると良いと思います。授業には必ず辞典を持参してください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	子音の分類説明	9回目	音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習
2回目	閉鎖音の説明及び発音練習	10回目	音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習
3回目	摩擦音の説明及び発音練習	11回目	音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習
4回目	破擦音の説明及び発音練習	12回目	イントネーションの説明及び文の発音練習（長文）
5回目	鼻音の説明及び発音練習	13回目	文（長文）の発音練習及び練習問題1
6回目	流音，半母音の説明及び発音練習	14回目	文（長文）の発音練習及び練習問題2
7回目	子音連続の発音練習	15回目	発音テスト
8回目	子音の演習問題配付及び解答		

◆教科書　『A Way to Better English Pronunciation – 英語の発音，リスニング，スピーキングへの近道』
池田紅玉・森晴代著　英潮社フェニックス　2009 年
〈上記の本は品切れのため，図書館等を利用してください。〉

◆参考書　丸沼『英語の音声を科学する』新装版 CD 付　川越いつえ著　大修館書店　2,592 円（税込）（送料 300 円）
＊授業では使用しません。

◆成績評価基準　平常点（20%），小テスト（20%），発音テスト（10%），試験（50%）

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ジブリアニメの歴史学　〔歴史学　A〕

水曜日４時限　**担当者：渡邊　浩史**

◆学修到達目標　『平成狸合戦ぽんぽこ』・『となりのトトロ』・『崖の上のポニョ』といった，何篇かのスタジオジブリのアニメ作品を通して歴史学や周辺諸分野の最新の成果を学び，歴史学という学問は何かを理解できるようになる。

◆授業方法　講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し，受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり，最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修　授業で扱うスタジオジブリのアニメ作品は事前に見ていることが望ましい。扱う題材は平易に見えるが，内容はかなり難しいと思って受講してほしい。かなり広範な知識を必要とする内容だと覚悟して受講してもらいたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　はじめに	９回目　『となりのトトロ』
２回目　『平成狸合戦ぽんぽこ』	10 回目　『となりのトトロ』
３回目　『平成狸合戦ぽんぽこ』	11 回目　『崖の上のポニョ』
４回目　『平成狸合戦ぽんぽこ』	12 回目　『崖の上のポニョ』
５回目　『平成狸合戦ぽんぽこ』	13 回目　『崖の上のポニョ』
６回目　『平成狸合戦ぽんぽこ』	14 回目　『崖の上のポニョ』
７回目　『となりのトトロ』	15 回目　おわりに
８回目　『となりのトトロ』	

◆教科書　使用しない。
当日資料配付　適宜授業中に資料プリントを配付する。

◆参考書　授業中に指示する。

◆成績評価基準　平常点 20%，試験 80%

◆国語学がどういう学問かを知る　〔国語学概論〕

水曜日４時限　**担当者：保科　恵**

◆学修到達目標　ひと口に「国語学」と言っても，様々な対象・方法があります。　国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって，国語学に対する知識を身につけることを目標とします。

◆授業方法　講義を中心として授業を進めますが，適宜指名してテキストを読んでもらったり，各項目についての小テストを行なったりします。

◆準備学修　特別なことは必要ありませんが，いろいろな国語の現象に対する興味を持っていることが前提です。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　全体的な説明，国語学とは何か	９回目　語彙（その３）
２回目　文法（その１）	10 回目　語彙（その４）
３回目　文法（その２）	11 回目　文体（その１）
４回目　文法（その３）	12 回目　文体（その２）
５回目　文法（その４）	13 回目　言語生活
６回目　文法（その５）	14 回目　方言・系統
７回目　語彙（その１）	15 回目　まとめ
８回目　語彙（その２）	

◆教科書　丸沼『国語学要論』　福島邦道　笠間書院　1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　なし。

◆成績評価基準　試験 70%，平常点 30%

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本近代文学が獲得したもの　〔国文学講義Ⅴ（近代）〕

水曜日４時限　**担当者：永岡　健右**

◆学修到達目標　明治 20 年代から大正期までの文芸思潮に沿って作家と作品を具体的に把握しながら学習します。

◆授業方法　講義方式で指定テキストを読み進めます。後期ではテキストの第４章以降が中心になります。

◆準備学修　具体的な作品を各自文庫本等で読み込むことが望まれます。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　後期授業の進め方と明治文学史の概略	９回目　森鷗外の文学
２回目　正岡子規の文学	10 回目　荷風の文学
３回目　浪漫主義文学（晶子）	11 回目　谷崎潤一郎の文学
４回目　フランス自然主義について	12 回目　白樺派の文学
５回目　島崎藤村の文学	13 回目　芥川文学の特性
６回目　日本自然主義の文学	14 回目　プロレタリア文学
７回目　無理想無解決の文学	15 回目　まとめ
８回目　夏目漱石の文学	

◆教科書　**通材**『国文学講義Ⅴ（近代）　M30900』　通信教育教材（教材コード 000094）2,750 円（送料込）
※学修指導書付き

◆参考書　なし

◆成績評価基準　試験（80%）　レポート，小テスト（20%）

◆中世の神道論（２）　〔日本思想史Ⅰ〕

水曜日４時限　**担当者：島田　健太郎**

◆学修到達目標　鎌倉時代から室町時代にかけて，仏教的な神道論に対して，神道家の側から独自の神道論が展開されます。この代表が伊勢神道と吉田神道です。これらの神道説を見ていくことで，中世の人々の「神」観念について理解を深め，さらには近代以降の日本の「神道」について考える１つの視点を獲得することを目標とします。

◆授業方法　プリントとして配付する原典や史料を中心に，講義形式で行います。授業中の質問は大歓迎です。また適宜質問票を配り，そこで出された皆さんの質問・疑問を授業に反映していこうと考えています。

◆準備学修　授業で扱うであろう神や神社，仏教や神道の専門用語の意味を事前に調べておくと授業がききやすくなります。また授業時には自分が参照できるもの（簡単な辞典や辞書など）を持参しておくと便利です。さらに授業後，授業内容を復習しながら，用語のチェックや問題点・疑問点をまとめておくとよいと思います。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　概説	９回目　吉田神道（１）
２回目　伊勢神道（１）	10 回目　吉田神道（２）
３回目　伊勢神道（２）	11 回目　吉田神道（３）
４回目　伊勢神道（３）	12 回目　吉田神道（４）
５回目　伊勢神道（４）	13 回目　山王一実神道（１）
６回目　慈遍の神道説（１）	14 回目　山王一実神道（１）
７回目　慈遍の神道説（２）	15 回目　まとめ
８回目　慈遍の神道説（３）	

◆教科書　教科書は使用しません。
当日資料配付　当日プリントを配付します。

◆参考書　授業中，適宜指示します。

◆成績評価基準　試験の成績を基準に，授業への取り組みなどを勘案して総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本史（近世～近代）に関する基礎的事実の確認をしてみよう　〔日本史概説／日本史概論〕

水曜日４時限　　**担当者：横山　則孝**

◆学修到達目標　我が国の歴史的展開を世界的視野からとらえ，日本史（近世～近代）を政治・経済・文化など，歴史を構成する諸要素を統合して幅広い見方で大きく把握することができるようにする。

◆授業方法　講義形式である。教科書の内容を重視していくが，時間に限りがあるので，時には要点をのべるにとどまる場合もある。またプリントを配付して教科書の記述を補って解説する時もある。

◆準備学修　毎回講義の終了時に次回の内容について簡単にのべることにするので，そのテーマに関する部分について，教科書と高等学校の教科書の記述がどうなっているのか予習しておくとよい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　日本史の時代区分と達観，近世・近代・現代の範囲	９回目　幕府政治の展開
２回目　織豊政権の成立	10 回目　三大改革
３回目　太閤検地と刀狩（兵農分離）	11 回目　近代のはじまり
４回目　江戸幕府の成立	12 回目　幕末の政争から維新政府の成立
５回目　大名統制	13 回目　近世の文化
６回目　旗本と御家人	14 回目　自由民権運動の展開と帝国憲法
７回目　近世の朝廷	15 回目　まとめ（テスト）
８回目　宗教統制	

◆教科書　通材『日本史概論　K32200/ 日本史概説　Q30200』 通信教育教材（教材コード 000382）
2,550 円（送料込）
＜この教材は市販の『概論　日本歴史』佐々木潤之介著（吉川弘文館）と同一です＞

◆参考書　『日本史Ｂ』高等学校教科書　出版社は問わない

◆成績評価基準　平常点（小テスト・レポート）20%　試験 80%

◆近現代日中関係史を学ぶ　〔歴史学　Ｂ〕

水曜日５時限　　**担当者：堀井　弘一郎**

◆学修到達目標　幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し，時に友好を深めつつ，複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と，同時代を共に生きた日中両国民の足跡をたどりながら，確かな歴史的教養をもって日中関係を考え語れるようになることを目標とする（後期は満州事変～現代）。

◆授業方法　毎回レジュメや資料プリントを用意し，それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際，受講者からの質疑や希望者による研究発表等を取り入れていく。また，視聴覚教材を活用したり，史資料にも多く触れたりすることで，歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法，卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修　「歴史とは現代と過去との対話である」（Ｅ・Ｈ・カー）。戦後 70 年を経た今日だが，日中関係は必ずしも良好な関係とはいえない状態にある。そんな今日こそ，日頃から日本・中国の近現代史，日中関係史に関する書物に親しんだり，時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　満州事変から日中戦争へ	９回目　中国の国連代表権獲得と日本
２回目　汪兆銘「対日協力政権」と日本	10 回目　日中国交回復
３回目　アジア太平洋戦争と中国	11 回目　改革開放路線と日本
４回目　戦争・メディア・プロパガンダ	12 回目　香港の盛衰
５回目　終戦前後の東アジア	13 回目　受講生（希望者）による研究発表
６回目　国共内戦下の中国と日本	14 回目　領土問題・歴史認識・戦後補償
７回目　中国革命の衝撃	15 回目　まとめ
８回目　文化大革命と日本	

◆教科書　指定しない。

◆参考書　丸沼『シリーズ中国近現代史④　社会主義への挑戦』 久保亨　岩波新書　885 円（税込）（送料 215 円）
丸沼『シリーズ中国近現代史⑤　開発主義の時代へ』 高原明生・前田宏子　岩波新書　842 円（税込）（送料 215 円）
丸沼『日中関係―戦後から新時代へ―』 毛利和子　岩波新書　864 円（税込）（送料 215 円）

◆成績評価基準　前期・後期ごとに，平常点 20%，試験 80%で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆マンガもアニメも日本の伝統文化だ！　〔文化史〕

水曜日５時限　**担当者：渡邊　浩史**

◆学修到達目標　現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが，実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって，それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして，一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が，いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。

◆授業方法　講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し，受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり，最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修　授業を受ける前に，最低限高校日本史教科書レヴェルの知識はつけておいてほしい。扱う題材は平易に見えるが，内容はかなり難しいと思って受講してほしい。かなり広範な知識を必要とする内容だと覚悟して受講してもらいたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　はじめに	９回目　能・狂言
２回目　中世の文化	10 回目　聖地巡礼（中世）
３回目　絵巻物	11 回目　聖地巡礼（中世）
４回目　絵巻物	12 回目　近世の文化
５回目　絵巻物	13 回目　聖地巡礼（近世）
６回目　能・狂言	14 回目　聖地巡礼（近世）
７回目　能・狂言	15 回目　おわりに
８回目　能・狂言	

◆教科書　使用しない。
〔当日資料配付〕適宜授業中に資料プリントを配付する。

◆参考書　授業中に指示する。

◆成績評価基準　平常点 20%，試験 80%

◆基本的な英語力の底上げ　★½☆〔英語　F〕

水曜日５時限　**担当者：石川　勝**

◆学修到達目標　基本的な文法を理解した上で，易しい英文を読み進めていく。テキストは大学生がヨーロッパで経験した話なので，身近に感じられると思う。

◆授業方法　初めに基本的な文法の説明をした後で，テキストを訳していく。アトランダムに指名して訳してもらうので，事前に指示された個所を全訳しておくこと。２回予習していない場合単位を認めない。

◆準備学修　前の週に指示されたところを全訳しておく。

◆履修条件　なし

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　Unit 10
２回目　Unit 7	10 回目　続き
３回目　続き	11 回目　Unit 11
４回目　Unit 8	12 回目　続き
５回目　続き	13 回目　Unit 12
６回目　Unit 9	14 回目　小テスト
７回目　続き	15 回目　まとめ
８回目　小テスト	

◆教科書　丸沼『ジローのヨーロッパ旅行』　金星堂　1,944 円（税込）（送料 215 円）

◆参考書　授業中に指示する

◆成績評価基準　２回行う小テストの結果で決める。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典文学の解釈と継承の礎のために　〔国文学基礎演習〕

水曜日５時限　　**オープン受講：不可**　　**担当者：木村　一**

◆学修到達目標　本講座では広く古典文学というくくりで作品を捉えていく。そのジャンルは多岐に渡り，受講者がいかにその作品を捉え，読み込んでいるのかということが問われる。その作品に貫通する時代の感覚を体感すること，文学作品に描かれていることをとおして，その時代に生きた人々のものの見方捉え方を知ることを本講座の主眼とする。本講座は「演習」である。次の「〈本〉演習」へのステップとすべく，読み方・調査・方法・捉え方ができるようになることを目標とする。

◆授業方法　本講座は「演習」である，受講生諸君が主体となり，調査･研究を経て実際に口頭発表を行う。具体的には，講義指定テキストを分割し担当を決めて，読み込んだ上で，どうしてそのような展開・結論になるのか，という理論展開をたどることを主眼とする。担当者の口頭発表と聴衆からの質疑，それに発表者が答えるという討論形式での展開となる。「国文学基礎講義」を受講し終えていることが望ましい。

◆準備学修　受講生各自，口頭発表をするという自覚を持つこと。講義指定テキストに対して，自身の担当箇所をしっかりと読み込み，その内容をしっかりと把握しておく必要がある。さらに，執筆者の言いたいことは何か，問題点はどのようなことか，ということを洗い出しておくこと。口頭発表であるから，レジュメを用意すること。聴衆となる受講生諸君も発表該当箇所のテキストを読み込んで，質問事項を用意しておくこと。

◆履修条件　平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（後期）「国文学基礎演習」との積み重ね不可
前期のみの受講・後期のみの受講も可能だが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	後期導入，どう進めてきたかの確認 担当者割り当て	9回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑧
2回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト①	10回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑨
3回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト②	11回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑩
4回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト③	12回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑪
5回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト④	13回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑫
6回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑤	14回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑬
7回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑥	15回目	後期まとめ・総評
8回目	受講生による口頭発表 同テキスト／別テキスト⑦		

◆教科書　通材『国文学基礎講義　M20100』 通信教育教材（教材コード 000519）3,050 円（送料込）
※学修指導書付き
当日資料配付 発表レジュメは当日配付

◆参考書　電子辞書があると便利

◆成績評価基準　毎回出席することを前提とし，発表内容 70%・質疑応答 10%・レポート 20%で総合的に評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

【木曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目		制限・注意			オープン講受
						科目コード	科目名	併用	配当学年	受講条件	
1時限	AK11	英語 G	鈴木 ふさ子	1	1	C10100	英語 Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英語 Ⅱ				
						C10300	英語 Ⅲ		2年		
						C10400	英語 Ⅳ				
	AK12	行政学	関根 二三夫	2	1	L30100	行政学	×	2年		
	AK13	東洋史入門	綿貫 哲郎	2	1	Q202S0	東洋史入門	×	2年		
	AK14	情報概論 A	中村 典裕	2	1	R32300	情報概論	×	2年		
2時限	AK21	英語 H	岡田 善明	1	1	C10100	英語 Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英語 Ⅱ				
						C10300	英語 Ⅲ		2年		
						C10400	英語 Ⅳ				
	AK22	憲法	名雪 健二	2	1	K20100	憲法	×	条件参照	・法学部のみ１学年以上申込可。 ・上記以外は２学年以上申込可。	×
	AK23	国文学演習Ⅰ～Ⅵ	近藤 健史	1	1	M404S0	国文学演習 Ⅰ	×	3年	・国文学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅵのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						M405S0	国文学演習 Ⅱ				
						M406S0	国文学演習 Ⅲ				
						M407S0	国文学演習 Ⅳ				
						M408S0	国文学演習 Ⅴ				
						M409S0	国文学演習 Ⅵ				
	AK24	英米文学概説	鈴木 ふさ子	2	1	N20300	英米文学概説	×	条件参照	・英文学専攻のみ１学年以上申込可。 ・上記以外は２学年以上申込可。	
	AK25	経済学概論	藤本 訓利	2	1	R20300	経済学概論	×	条件参照	・経済学部のみ１学年以上申込可。 ・上記以外は２学年以上申込可。	×
	AK26	商業史	横山 則孝	2	1	S32100	商業史	×	2年		

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

【木曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目 科目コード	充当科目 科目名	制限・注意 併用	制限・注意 配当学年	制限・注意 受講条件	オープン講
3時限	AK31	民法Ⅲ	根本 晋一	2		K30200	民法Ⅲ	×	2年		×
	AK32	英語史	真野 一雄	2		N30300	英語史	×	2年		
	AK33	東洋史概説／東洋史概論	菊池 敏夫	2		Q30300	東洋史概説	×	2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。	
						K32300	東洋史概論			・法学部のみ申込可。	
	AK34	日本史演習Ⅰ・Ⅱ	鍋本 由徳	1		Q401S0	日本史演習Ⅰ	×	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						Q402S0	日本史演習Ⅱ				
	AK35	経済原論／経済学原論	藤本 訓利	2		R20100	経済原論	×	条件参照	・経済学部は1学年以上申込可。 ・文理・商学部は2学年以上申込可。	
						L20200	経済学原論	×	条件参照	・政治経済学科は1学年以上申込可。 ・法律学科は2学年以上申込可。	
	AK36	教育の方法・技術論	古賀 徹	2		T21700	教育の方法・技術論	×	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
4時限	AK41	法学B	根本 晋一	2		B11500	法学（日本国憲法2単位を含む）	×	1年		×
	AK42	英語基礎A	小澤 賢司	1		C10600	英語基礎	×	1年	・英文学専攻は申込不可。	
	AK43	西洋思想史Ⅱ	中澤 瞳	2		P30600	西洋思想史Ⅱ	×	2年		
	AK44	日本経済史	飯島 正義	2		R30500	日本経済史	×	2年		
	AK45	生徒指導・進路指導論	古賀 徹	2		T30500	生徒指導・進路指導論	×	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
5時限	AK51	哲学B	中澤 瞳	2		B10700	哲学	×	1年		
	AK52	民法Ⅰ	根本 晋一	2		K20200	民法Ⅰ	×	条件参照	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	×
	AK53	西洋史演習Ⅰ・Ⅱ	藤井 信行	1		Q405S0	西洋史演習Ⅰ	×	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						Q406S0	西洋史演習Ⅱ				
	AK54	国際経済論	陸 亦群	2		R31100	国際経済論	×	2年		
	AK55	商業政策	新島 裕基	2		S31000	商業政策	×	2年		
	AK56	社会科・公民科教育法Ⅰ	古賀 徹	2		T20700	社会科・公民科教育法Ⅰ	×	2年	・法学部・哲学専攻・史学専攻・経済学部・商学部のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

◆童話で学ぶ英語—Oscar Wilde の *House of Pomegranates* を中心に　★★☆〔英語　G〕

木曜日 1 時限　　**担当者：鈴木　ふさ子**

◆学修到達目標　英文の正確な把握力を高めることを目標とします。作品の文化や時代背景について理解し，作者の意図を汲むことで作品を深く，多面的に解釈できるようになること，童話にふさわしい表現を翻訳する技法とセンスを身につけることを目標とします。

◆授業方法　イギリス 19 世紀末の童話を主なテキストとし，音読と翻訳を通して英語の文章を正確に読み取っていきます。単語ひとつの解釈をめぐってディスカッションすることもあります。毎回進んだ範囲から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。

◆準備学修　毎回次に進む範囲を，音読し，ひとつひとつの単語を丁寧に調べて，情景をイメージしながら自分なりの翻訳を作ってきて下さい。また，自分なりに作品の解釈をしてまとめた上で授業に臨んで下さい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目　ガイダンス（授業の内容・進め方など）	9回目　“The Birthday of the Infanta”精読・確認テスト
2回目　“The Fisherman and His Soul”精読・確認テスト	10 回目　“The Birthday of the Infanta”精読・確認テスト
3回目　“The Fisherman and His Soul”精読・確認テスト	11 回目　“The Birthday of the Infanta”精読・確認テスト
4回目　“The Fisherman and His Soul”精読・確認テスト	12 回目　“The Birthday of the Infanta”精読・確認テスト
5回目　“The Fisherman and His Soul”精読・確認テスト	13 回目　“The Birthday of the Infanta”精読・確認テスト
6回目　“The Fisherman and His Soul”精読・確認テスト	14 回目　“The Birthday of the Infanta”精読・確認テスト
7回目　“The Fisherman and His Soul”精読・確認テスト	15 回目　試験およびまとめ
8回目　“The Fisherman and His Soul”精読・確認テスト	

◆教科書　『*The Complete Short Stories*』　Oscar Wilde　Oxford World’s Classic
〈図書館等を利用してください。〉

◆参考書　丸沼『オスカー・ワイルドの曖昧性』　鈴木ふさ子著　開文社　2,484 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準　毎回出席することを前提として，平常点（授業への参加・貢献，予習）30%，確認テスト 30%，最終（期末）試験 40%で評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆行政管理や行政統制を中心に学びましょう。　〔行政学〕

木曜日１時限　　**担当者：関根　二三夫**

◆学修到達目標　行政の実施過程に於いて，行政の目標を明確に定め，公務に従事する職員の努力を通して，その目標を統一的に実現するためにはどのような事が必要なのか，また，その実施過程において行政全体を外部から，また内部においてどのように統制すべきなのかを学びます。

◆授業方法　講義形式で行います。講義においては，行政に関する受講生の問題意識を高め，それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか，それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に学ばなければなりません。受講に際しては，予習や復習が必要になります。

◆準備学修　政策立案や政策決定がどのように行われるかを，メディアの情報を通して考え，各単元，テキストを参考に２時間程度の予習と２時間程度の復習が必要になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目	行政管理 ※原則を説明します。	９回目	情報公開 ※意義や沿革を説明します。
２回目	行政管理 ※機能を説明します。	10 回目	情報公開 ※プライバシーの保護について説明します。
３回目	行政管理 ※コミュニケーションの機能を中心に説明します。	11 回目	オンブズマン制度 ※意義や沿革を説明します。
４回目	行政管理 ※コミュニケーションの方向を中心に説明します。	12 回目	わが国の行政相談 ※意義や内容を説明します。
５回目	行政管理 ※リーダーシップと指導者の役割を中心に説明します。	13 回目	地方自治 ※沿革を中心に説明します。
６回目	行政管理 ※稟議制について説明します。	14 回目	戦前の官吏制から戦後の公務員制への変遷と行政との関係
７回目	行政統制 ※外在的統制を中心に説明します。	15 回目	講義全体の総括
８回目	行政統制 ※内在的統制を中心に説明します。		

◆教科書　**通材**『行政学　L30100』 通信教育教材（教材コード 000084）2,750 円（送料込）
※行政学の沿革，現代国家と行政，行政組織，官僚制と公務員制，行政管理，稟議制度，情報公開や行政相談など行政全般に関して広範に解説しています。

◆参考書　なし。

◆成績評価基準　試験 70%，平常点 30%　※試験同様，質問や理解度テストへの解答等も重視しますので，受講に際しては欠席しないように注意して下さい。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆清朝史研究の現在－「先行研究」理解のために－　〔東洋史入門〕

木曜日１時限　**担当者：綿貫　哲郎**

◆学修到達目標　卒業論文執筆や教材研究の重要な行程に「先行研究」の取得・理解があります。本講座では題材こそ清朝史ですが，史料とは何か・史料と研究・「先行研究」取得の作法，また高校世界史教科書の記述との連携などについて学修することで，受講生が自身のテーマの「先行研究」をみずから取得したり理解したりできるようになります。なお，後期のみの受講も可能ですが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法　以下の授業計画（学生の理解度により変更あり）に沿って，講義及び実習形式でおこないます。講義の理解を深めるため，視覚教材を適宜併用します。授業時間内外でレポートを課する予定です。

◆準備学修　高校世界史での理解は必須です。また概説書に目を通しておくと理解しやすいです。予習も必要ですが，復習に重点をおいてください。翌週の授業は前週の内容理解なしには達成が難しいからです。

◆履修条件　平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（後期）「東洋史入門」との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス，導入（東洋史（清朝史）という視座）	９回目　戦後の清朝史研究
２回目　清朝史研究の「編纂史料」と「檔案史料」	１０回目　清朝史研究の現在
３回目　清朝史研究と「第一次史料」の問題	１１回目　清朝史を様々な角度から見る
４回目　『満文老檔』について	１２回目　清朝史を取り巻く研究（１）
５回目　「満文原檔」（『旧満洲檔』）について	１３回目　清朝史を取り巻く研究（２）
６回目　「奏摺」と満洲語の檔案史料	１４回目　清朝史を取り巻く研究（３）
７回目　歴史史料を読んで比較してみる	１５回目　まとめ，試験
８回目　清朝史研究の始まりと興隆	

◆教科書　〔当日資料配付〕当日プリントを配付します。

◆参考書　授業中，適宜指示します。

◆成績評価基準　試験（60%）・平常点（40%）。毎回出席することを前提として総合的に評価します。

◆情報機器を用いた数的情報処理　〔情報概論　A〕

木曜日１時限　**担当者：中村　典裕**

◆学修到達目標　情報機器を用いた知的活動を行うに当たって，数字や数的データの取り扱いは極めて重要である。本来，コンピュータは「電子計算機」であり，そうした数的データの取り扱いのために進化した機器である。この講義では Excel を用いて，単に集計を行うだけでは無く，データの内容に応じて様々な処理を行う手法について習得する。また，講義の中で Excel のマクロ機能やプログラミングについても取り扱う。

◆授業方法　本講義の中では，講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造，歴史，情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら，必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆準備学修　現在の学生はコンピュータやインターネットには日常的に接している事と思われる。しかし，その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては，テレビや新聞などの情報関連報道に関心を持つと同時に，所有している機器のマニュアルを一読するなどの学習が望まれる。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス・ICT と 21 世紀の社会	９回目　Excel 演習６　フィルタ / データベース
２回目　HTML の基礎	１０回目　Excel 演習７　ピボットテーブル
３回目　表計算ソフトとは，Excel 入門	１１回目　Excel 演習８　グループ化・3D 集計
４回目　Excel 演習１　平均・四則演算	１２回目　Excel 演習９　マクロとは何か
５回目　Excel 演習２　グラフの活用	１３回目　Excel 演習 10　VB とプログラミング
６回目　Excel 演習３　書式，条件付書式	１４回目　総合演習
７回目　Excel 演習４　関数入門	１５回目　最終課題
８回目　Excel 演習５　if 関数・表参照関数	

◆教科書　〔当日資料配付〕原則として，当日に配付。また，授業用ウェブページからダウンロード可能

◆参考書　授業時に指示する。

◆成績評価基準　平常点（30%），平常課題（30%），最終課題レポート（40%）。毎回出席する事を前提として評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語パラグラフの習得　★★☆〔英語　H〕

木曜日２時限　**担当者：岡田　善明**

◆学修到達目標　パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングの学習により，英語の客観的な読解力と表現能力を育成し，即席のパラグラフ・スピーキングの能力をも習得する。

◆授業方法　『英語教育の精神と実践』第５章「生きた英語能力の育成」をテキストにして，パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングを基本に学び，英語読解演習と表現演習を行う。

◆準備学修　『英語教育の精神と実践』第５章「生きた英語能力の育成」のパラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングを読み，予習プリントの問題を必ず事前に学習する。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　パラグラフの構成と展開	９回目　Controlling idea & Concluding sentences １　演習
２回目　Topic sentence １　演習	10 回目　Controlling idea & Concluding sentences ２　演習
３回目　Topic sentence ２　演習	11 回目　Controlling idea & Concluding sentences ３　演習
４回目　Controlling idea １　演習	12 回目　Controlling idea & Concluding sentences ４　演習
５回目　Controlling idea ２　演習	13 回目　総合演習
６回目　Controlling idea & supporting sentences １　演習	14 回目　パラグラフの構成と展開復習
７回目　Controlling idea & supporting sentences ２　演習	15 回目　試験およびまとめ
８回目　Controlling idea & supporting sentences ３　演習	

◆教科書　丸沼『英語教育の精神と実践』　岡田善明　春風社　1,944 円（税込）（送料 300 円）
当日資料配付　パラグラフリーディンとライティンの演習プリント

◆参考書　スクーリングで紹介

◆成績評価基準　試験を基本に，スクーリングの問題演習等も加味して評価する。

◆憲法を考える　〔憲法〕

木曜日２時限　**オープン受講：不可**　**担当者：名雪　健二**

◆学修到達目標　憲法は，国家の在り方を規定した基本法である。したがって，憲法を知ることは，われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。
憲法を学ぶことで，憲法とは何かを知ることができ，また，憲法の規範論理的構造を理解することで，現代の複雑な憲法現象を統一的に，かつ，原理的にとらえることができる。

◆授業方法　憲法の解釈論が中心となる。また，生きた憲法を理解するために，判例を取り上げる。そのための資料として，授業に関連する判例を配付する。

◆準備学修　授業計画が１回から 15 回まで記載されているので，授業を理解する前提として，教科書をよく読んでおくこと。授業の範囲内における専門用語については，法学（法律学）辞典を引き，その意味を正確に理解しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　国会の性格，国会の組織	９回目　内閣の総辞職・内閣の権能
２回目　国会議員の特典，国会の活動	10 回目　内閣の責任，裁判所の性格
３回目　国会の活動，国会の権能	11 回目　最高裁判所
４回目　国会の権能	12 回目　最高裁判所
５回目　議院の権能	13 回目　下級裁判所，司法権の独立
６回目　議院の権能	14 回目　財政，地方自治
７回目　内閣の性格・組織	15 回目　後期の総括
８回目　内閣総理大臣の地位・権能	

◆教科書　丸沼『日本国憲法』　名雪健二　有信堂　3,780 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書　『三訂　日本国憲法要論』　廣田健次　南窓社
〈上記の本は品切れのため，図書館等を利用してください。〉
丸沼『憲法　第６版』　芦部信喜・高橋和之補訂　岩波書店　3,348 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準　授業態度・小テスト（２回）・スクーリングの最終試験により総合的に判断する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆サブカルチャーにおける宮沢賢治　〔国文学演習Ⅰ～Ⅵ〕

木曜日２時限　**担当者：近藤　健史**

◆学修到達目標　現代社会におけるコミック，アニメ，ゲーム，お笑い，ネット，音楽などの世界での受容と展開を学ぶ。主流になりつつあるサブカルチャーと文学との関わりを考えることを到達目標とする。

◆授業方法　受講生をいくつかのグループに分け，テーマを決め，調査･研究したことを口頭発表させる形式。全体討論，質疑応答することで理解を深めるという方法をとる。

◆準備学修　宮沢賢治について学んでおいて欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　授業計画の説明	９回目　調査（３）
２回目　宮沢賢治入門	10 回目　学生による発表と討議
３回目　映像による賢治	11 回目　学生による発表と討議
４回目　テーマ設定の準備	12 回目　学生による発表と討議
５回目　テーマ確定，調査・研究方法	13 回目　学生による発表と討議
６回目　サブカルチャーにおける受容と展開	14 回目　学生による発表と討議
７回目　調査（１）	15 回目　まとめ，リポート提出
８回目　調査（２）	

◆教科書　当日資料配付

◆参考書　『宮沢賢治イーハトヴ学事典』　弘文堂　2010 年　15,120 円（税込）

◆成績評価基準　発表 70%，リポート 20%，質疑応答 10%

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆イギリス文学に親しむ－児童文学からモダニズムまで　〔英米文学概説〕

木曜日２時限　　**担当者：鈴木　ふさ子**

◆学修到達目標　まず，扱う作家とその作品の概要の知識を身につけることを目標とします。さらに，たとえばゴシック小説，後期ロマン派，児童文学，世紀末のデカダンス，モダニズムなどの傾向を把握します。最終的にはそれぞれの作家や作品の特徴を把握し，多面的に作品を解釈できる視点を持てるようになることを目標とします。

◆授業方法　二回目以降のクラスでそれぞれのテーマを代表する作家と文学作品の概要を学び，作品の一部を原文で読む。作品によっては全体を映像などで鑑賞する。具体的にはテキストに沿って作家と作品についての基本情報を学び，プリントで作品の重要部分を味わい，映像を用いて全体像を把握する。作品鑑賞後はリアクションペーパーを書いていただくこともあります。

◆準備学修　テーマ別に作家，作品を扱う予定なので，テキストの該当部分を読み，その作家や作品や文学用語について不明な点は自分なりに『英米文学事典』などにあたり，調べておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	ガイダンス（授業の内容・進め方など） 導入：英米文学の時代区分・作品区分等，英米文学とは何か	9回目	8．唯美主義 Walter Pater
2回目	ヴィクトリア時代について 1．性格造型の力で読ませる Charles Dickens	10回目	9．モリス商会とラファエル前派 William Morris
3回目	2．女流作家たち Charlotte Bronte Emily Bronte. George Eliot	11回目	10．世紀末とデカダンス Oscar Wilde
4回目	3．推理小説 Willkie Collins, Arthur Conan Doyle	12回目	11．運命と人間 Thomas Hardy
5回目	4．児童文学 Lewis Carroll	13回目	12．アフリカでの経験 Joseph Conrad
6回目	5．冒険物語 Rudyard Kipling Robert Lewis Stevenson	14回目	後期の総まとめ
7回目	6．ドッペルゲンガーの物語 Robert Lewis Stevenson	15回目	期末試験
8回目	7．ヴィクトリア時代の桂冠詩人 Alfred Tennyson		

◆教科書　丸沼『たのしく読めるイギリス文学―作品ガイド 150』　ミネルヴァ書房　3,024 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書　丸沼『英語文学事典』　ミネルヴァ書房　4,860 円（税込）（送料 560 円）

◆成績評価基準　授業への取り組み，積極性（20%），リアクションペーパー（20%），筆記試験（60%）で評価します。
※無欠席者のみを成績評価の対象とします。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆マクロ学の基礎理論を学びましょう　〔経済学概論〕

木曜日２時限　**オープン受講：不可**　**担当者：藤本　訓利**

◆学修到達目標　マクロ経済学の基礎理論を修得することによって，今日の経済の動きや経済政策について考察する力を身につけることができるようになります。

◆授業方法　必要に応じてパワーポイントを使用しながら，テキストに沿って講義を進めます。また，テーマごとに練習問題（小テスト）を行い，理解度を深めます。（テキストの第２章，第４章～第６章の範囲を説明します。）

◆準備学修　必ず予習をし，分からない経済用語については事前に調べておきましょう。

◆履修条件　この講義では，「経済学」や「経済学概論」等でマクロ経済学の基礎理論をすでに学習したことのある学生を対象に講義を進めます。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　経済学とは何か，マクロ経済学とはどのような学問か	９回目　貨幣の機能とマネーサプライ②
２回目　国民経済計算：ＧＤＰの概念	10 回目　通貨乗数と金融政策
３回目　マクロ経済循環と三面等価の原則	11 回目　貨幣の需要と利子率の決定
４回目　物価指数	12 回目　IS － LM 分析と財政金融政策①
５回目　国民所得はどのように決まるか①	13 回目　IS － LM 分析と財政金融政策②
６回目　国民所得はどのように決まるか②	14 回目　まとめ
７回目　財政政策の効果：乗数理論	15 回目　筆記試験
８回目　貨幣の機能とマネーサプライ①	

◆教科書　丸沼『入門マクロ経済学』　中谷巌　日本評論社　第５版　3,024 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書　なし

◆成績評価基準　平常点（練習問題等 35%）と筆記試験（65%）で総合的に評価します。毎回出席することを前提として評価します。詳細は，最初の講義時間に説明します。

◆歴史の中に商業を見る　〔商業史〕

木曜日２時限　**担当者：横山　則孝**

◆学修到達目標　商業に関連する学問を学ぶにあたって，ひととおり商業の歴史にも通じておくことは必要であろう。そこで商業の歴史的展開についての概要の理解を深める。

◆授業方法　講義形式で進めていくが，必要に応じて「史料」の読みもおこないたいと思っているのでその際には受講生の皆さんに読んでもらうことも考えている。

◆準備学修　高等学校の教科書「日本史Ｂ」の中に登場する商業関連の用語をひろって理解しておいてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　近世封建社会と商業	９回目　近世武家の金融機関札差
２回目　近世初期特権商人から新興商人へ	10 回目　近世前期の商業政策
３回目　三井高利	11 回目　株仲間
４回目　江島池家	12 回目　近世中・後期の商業
５回目　住友家	13 回目　専売制の展開
６回目　近江商人中井源左衛門	14 回目　近世高家奉公人（丁推制度）
７回目　三井家の家訓	15 回目　まとめ（テスト）
８回目　三井家の歴史	

◆教科書　通材『商業史　S32100』　通信教育教材（教材コード 000197）3,950 円（送料込）
＜この教材は市販の『日本商業史』藤田真一郎著（有斐閣）と同一です＞

◆参考書　なし

◆成績評価基準　平常点 20%，試験 80%

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆債権総論（後半）　〔民法Ⅲ〕

木曜日３時限　　**オープン受講：不可**　　**担当者：根本　晋一**

◆学修到達目標　民法学における債権法と債権総論の位置づけ，債権総論の意義と体系，主要な論点を理解することを目標とする。

◆授業方法　１　受講者数が多いので，担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。
２　法改正や新判例の追加等により，シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあり得る。

◆準備学修　前回講義時における板書事項を，しっかりと読み直してくること。なお，本講義は板書事項が多いことを，ご承知おきいただきたい。

◆履修条件　根本担当「民法Ⅲ」後期開講との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　（前期の続き）債権の効力③	９回目　多数当事者の債権債務関係①
２回目　債権の効力④	10 回目　多数当事者の債権債務関係②
３回目　債権の効力⑤	11 回目　多数当事者の債権債務関係③
４回目　債権の効力⑥	12 回目　債権の消滅①
５回目　債権譲渡①	13 回目　債権の消滅②
６回目　債権譲渡②	14 回目　債権の消滅③
７回目　債権譲渡③	15 回目　総まとめ
８回目　債権譲渡④	

◆教科書　指定しない

◆参考書　授業中，適宜紹介します。

◆成績評価基準　全回出席を原則として，筆記試験または本講義終了後に提出するレポートの評価点 80%，授業態度 20%

◆英語の過去・現在そして未来は？　〔英語史〕

木曜日３時限　　**担当者：真野　一雄**

◆学修到達目標　英文の読解力を高めるとともに，英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか，歴史的な流れの基礎的な知識を修得する。過去の歴史を振り返り，英語の未来の姿を想像してみましょう。

◆授業方法　テキストⅡ章「音韻論」・Ⅳ章「語形論」を，『学修指導書』を併用しながら，読む予定です。テキストは私達にとって必要な箇所を重点的に読みます。なお，試験は途中退出なしで実施します。

◆準備学修　毎回，テキスト（英文）を読み，『学習指導書』の問の解答を用意しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　Ⅱ章・母音交替	９回目　Ⅳ章・代名詞（１）
２回目　Ⅱ章・グリムの法則（１）	10 回目　Ⅳ章・代名詞（２）
３回目　Ⅱ章・グリムの法則（２）	11 回目　Ⅳ章・動詞（１）
４回目　Ⅱ章・母音変異	12 回目　Ⅳ章・動詞（２）
５回目　Ⅱ章・大母音推移（１）	13 回目　Ⅳ章・動詞（３）
６回目　Ⅱ章・大母音推移（２）	14 回目　Ⅳ章・動詞（４）
７回目　Ⅳ章・名詞（１）	15 回目　試験＋その解説
８回目　Ⅳ章・名詞（２）	

◆教科書　通材『英語史　N30300』 通信教育教材（教材コード 000117）2,650 円（送料込）※学修指導書付き

◆参考書　丸沼『英語の歴史―過去から未来への物語』 寺澤盾著　中公新書 1971　842 円（税込）（送料 215 円）
丸沼『英語の歴史』 中尾俊夫著　講談社現代新書　958　799 円（税込）（送料 215 円）
（※自学用で，授業中に参照することはありません。）

◆成績評価基準　受講状況（10%），試験（90%）で評価の予定。６回以上の欠席者は受験資格を失います。（試験は途中退出なしです）

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆〈日・中・韓〉“つながり”の近現代史を学ぶ〔東洋史概説／東洋史概論〕

木曜日３時限　　**担当者：菊池　敏夫**

◆学修到達目標　日本，韓国に続いて中国が大規模な経済成長を遂げ，東アジアは今や世界の政治・経済にきわめて大きな影響を及ぼすに至っている一方で，民族，文化の多様性に基づくズレや対立によって相互理解や協力がきわめて困難となっている現実を，一国史の視点ではなく，グローバル化が進んだ時代の東アジア多国間関係史という視点から理解できるようにします。

◆授業方法　教科書のなかの重要事項に沿い，講義の形で進めます。必要に応じて討議の形をとります。具体的なイメージづくりができるようフォト，動画，図像など「非文字資料」を用い，全体の理解が深まるような工夫をします。

◆準備学修　シラバスの内容に即して教科書の当該範囲を事前に熟読しておくことが大切です。さらに，キーワードなどの下調べをしたり，教科書の不明瞭な箇所，疑問・質問点などを事前に確認したりしておくと理解をより深めることができます。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　なぜ日・中・韓の歴史を学ぶのか（東洋史の概観）	９回目　戦後体制＝冷戦構造の再編成
２回目　東アジアと近代（１）	10 回目　戦後秩序の再編成と東アジア（１）
３回目　東アジアと近代（２）	11 回目　戦後秩序の再編成と東アジア（２）
４回目　第一次世界大戦期と東アジア	12 回目　世紀転換期東アジア史の展開
５回目　第二次世界大戦と東アジア（１）	13 回目　世紀転換期中国経済社会の史的展開
６回目　第二次世界大戦と東アジア（２）	14 回目　21 世紀東アジアの史的展開
７回目　戦後冷戦体制と「独立と革命」（１）	15 回目　まとめと試験
８回目　戦後冷戦体制と「独立と革命」（２）	

◆教科書　丸沼『東アジア近現代史〔新版〕』　上原一慶・桐山昇・高橋孝助・林哲著　有斐閣　2,808 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　授業の中で紹介します。

◆成績評価基準　授業への取り組み（2000 字程度の課題リポート１回あり）と試験とにより総合的に評価します。毎回出席することを前提に評価します。

◆卒論を書くための基礎技術（論述編）　〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕

木曜日３時限　　**担当者：鍋本　由徳**

◆学修到達目標　史学専攻生に必要な技能に史料読解と論文作成があります。論文は「テーマ設定→実証→結論」の流れが必要です。何をテーマに設定し，批判するか（批判は反論とは限りません）。その基礎技術を修得するため，「概説書」を用いて，口頭発表・論文形式の文章作成を実践します。　※後期のみの受講も可能です。

◆授業方法　個人作業とグループワークの併用です。個人で文章を作成するとともに，グループとしての活動成果を第14 回にて報告（レジュメ作成と口頭報告）してもらいます。なお，課題の候補については初日に配付します。

◆準備学修　授業時間だけでは絶対的に学修時間が不足します。事前学修を前提に作業を進めていきますので，必ず学修シートを記入し，準備を整えた上で授業に参加してください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　日本史演習の計画と到達目標	９回目　実証作業を進めよう
２回目　文献の扱い方　収集方法を知ろう	10 回目　実証作業を進めて注釈箇所を考えよう
３回目　文献の使い方　要旨をまとめよう	11 回目　論述のアウトラインを考えてみよう
４回目　文献の使い方　論点を出してみよう	12 回目　論述内容の検討と修正をしてみよう
５回目　グループテーマを決めよう	13 回目　発表用の文章を作ってみよう
６回目　史料典拠や所在を確認しよう	14 回目　発表用の文章を最終調整しよう
７回目　集めた史料をカード化しよう	15 回目　課題発表会（各班）／課題提出（個人）
８回目　史料カードを整理・選択してみよう	

◆教科書　当日資料配付　初日に課題テキスト・参考文献を配付（随時，参考プリントを追加します）

◆参考書　※レポート・論文の書き方に関する本であれば，特に指定しない。

◆成績評価基準　授業内グループワーク参加度（80%），最終報告参加度（20%）の総合評価
※全回出席を前提とします。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆マクロ理論を修得し，経済の動きを理解しましょう　〔経済原論／経済学原論〕

木曜日３時限　　**担当者：藤本　訓利**

◆学修到達目標　マクロ経済学の理論を学習し，いわゆる「経済を見る目」を養い，今日の経済の動きや経済政策について自分なりの考えを述べることができるようになります。

◆授業方法　必要に応じてパワーポイントを使用しながら，テキストに沿って講義を進めます。また，テーマごとに練習問題（小テスト）を行い，理解度を深めます。（テキストの第６章と第９章を中心に講義しますが，そこでの理論を理解できるようにするために，第４章と第５章の必要な箇所について，まず説明をします。）

◆準備学修　この講義では，テキストの第４章から説明をしますので，第１章～第３章までは各自，必ず復習をしておきましょう。

◆履修条件　この講義では，「経済学」や「経済学概論」等でマクロ経済学の基礎理論をすでに学習したことのある学生を対象に講義を進めます。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　経済学とは何か，マクロ経済学とはどのような学問か	９回目　IS － LM 分析と財政金融政策（１）
２回目　国民所得の決定理論（１）	10 回目　IS － LM 分析と財政金融政策（２）
３回目　国民所得の決定理論（２）	11 回目　物価水準の決定（１）
４回目　財政政策と乗数理論（２）	12 回目　物価水準の決定（２）
５回目　投資量の決定	13 回目　アベノミクスを考えてみる
６回目　貨幣の需給と利子率（１）	14 回目　まとめ
７回目　貨幣の需給と利子率（２）	15 回目　筆記試験
８回目　貨幣の需給と利子率（３）	

◆教科書　丸沼『入門マクロ経済学』　中谷巌　日本評論社　第５版　3,024 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書　なし

◆成績評価基準　平常点（練習問題等 35%）と筆記試験（65%）で総合的に評価します。毎回出席することを前提として評価します。詳細は，最初の講義時間に説明します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆授業デザイン力をつける　〔教育の方法・技術論〕

木曜日３時限　**担当者：古賀　徹**

◆学修到達目標　この授業は，「教員としての授業実践力」を修得することを目的としています。そのために次のような順序で学びます。①「授業が成り立つ条件」を理解する。②様々な授業形態を歴史的に，あるいは諸外国と比較することでより深く理解する。③カリキュラム構成方法を修得することで，学習指導計画を組みたてられるようにする。④実際に作業することで教育方法のコツを修得する。①〜④によって，授業づくりと実践力とをつけ（増し）ていきましょう。

◆授業方法　講義形式に加えて，ワークショップ形式，グループワーク，ロールプレイなどアクティブラーニング型の方式をとりいれる。

◆準備学修　方法論の理論やその種類・系統を理解するだけではなく，さらにその理解したことを実際に活用すること，生徒の理解を前提とする授業を構成することができるようになることが大事です。
他の各教科の指導法（教科教育法）の授業やテキストの記述からも（実施する）「授業」に関するイメージを具体的にあらわせるように学んでおくことをおすすめします。毎回，前回までの授業と必ず関連した内容になっていますので，復習をしっかりとしておくこと。それが最終回までの授業でつながっていきます。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目 「教える」ことと「学ぶ」こと	９回目 カリキュラム構成の方法
２回目 教育方法学の歴史（西洋教育方法史）	10 回目 カリキュラムづくりの実習
３回目 教育方法学の歴史（日本の教育内容の変遷）	11 回目 学習指導案の種類とその構成
４回目 「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論）	12 回目 学習実践のロールプレイ
５回目 授業形態の多様化（バズ学習，T.T 等）	13 回目 ICT 機器を活用した新しい学習法
６回目 問題解決学習と系統学習	14 回目 教材研究・教育評価の方法
７回目 「はなす」ことと「きく」こと	15 回目 教育デザイン力をつける
８回目 「はなす・きく・かく・まとめる」	

◆教科書　〔当日資料配付〕資料・レジュメを配付する。

◆参考書　授業中に指示する。
学習指導要領（文部科学省）その他
〔当日資料配付〕適宜に資料・レジュメを配付する。

◆成績評価基準　この授業の評価は，授業への参加（グループ学習含む），提出物・課題，試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの，課題未提出の場合は評価を行なわない。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆法学（後半）　〔法学　B〕

木曜日４時限　**オープン受講：不可**　**担当者：根本　晋一**

◆学修到達目標　大学に学び，学士の称号を取得する者に相応しい法的教養の涵養をめざす。

◆授業方法　1　受講者数が多いので，担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。
2　法改正や新判例の追加等により，シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあり得る。

◆準備学修　前回講義時における板書事項を，しっかりと読み直してくること。なお，本講義は板書事項が多いことを，ご承知おきいただきたい。

◆履修条件　根本担当「法学」後期開講との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	国家と法（公法・最高法規としての“憲法”）①	9回目	財産関係と法（私法·財産法としての“民法”と“商法”），家族関係と法（私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”）⑥
2回目	国家と法（公法・最高法規としての“憲法”）②	10回目	犯罪と法（公法・犯罪と刑罰に関する法としての“刑法”）①
3回目	国家と法（公法・最高法規としての“憲法”）③	11回目	犯罪と法（公法・犯罪と刑罰に関する法としての“刑法”）②
4回目	財産関係と法（私法·財産法としての“民法”と“商法”），家族関係と法（私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”）①	12回目	犯罪と法（公法・犯罪と刑罰に関する法としての“刑法”）③
5回目	財産関係と法（私法·財産法としての“民法”と“商法”），家族関係と法（私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”）②	13回目	裁判と法（公法·裁判のプロセスを規律する“訴訟法”）①
6回目	財産関係と法（私法·財産法としての“民法”と“商法”），家族関係と法（私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”）③	14回目	裁判と法（公法·裁判のプロセスを規律する“訴訟法”）②
7回目	財産関係と法（私法·財産法としての“民法”と“商法”），家族関係と法（私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”）④	15回目	総まとめ
8回目	財産関係と法（私法·財産法としての“民法”と“商法”），家族関係と法（私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”）⑤		

◆教科書　指定しない

◆参考書　授業中，適宜紹介します。

◆成績評価基準　全回出席を原則として，筆記試験または本講義終了後に提出するレポートの評価点 80%，授業態度 20%

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の基礎を徹底的に学ぶ　文法編　★☆☆〔英語基礎　A〕

木曜日４時限　**担当者：小澤　賢司**

◆学修到達目標　本授業では，今後の英語学修の土台となる「基礎・基本」をしっかりと学ぶことを目標としています。いかなる学修においても「基礎・基本」はとても重要です。これを疎かにするとその後の‘伸び’はあまり期待できません。
本授業で扱う内容は中学卒業程度の文法事項，及び英文ですが，それらは決して「楽」や「易」とイコールではありません。この点には十分留意して学修に臨んでください。後期に当たる本授業では，英語の「文法」を中心に学修していきます。

◆授業方法　授業計画にある品詞を１つ１つ丁寧に解説し，それらが用いられた英文とともに学修することで適切な理解向上を図ります。なお，受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていきますので，以下の授業計画はあくまで‘目安’とお考えください。

◆準備学修　基本的に「予習」の必要はありません。その代わり，「復習」を‘徹底して’行ってきてください。また，毎授業始めには復習テストを行います。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス 「品詞」と「文法」 ※１回目より内容に入ります（欠席しないように）	９回目　「受動態」
２回目　「現在形」	１０回目　「現在完了」 その１
３回目　「過去形」	１１回目　「現在完了」 その２
４回目　「単純形」（He plays tennis.）vs. 「進行形」（He is playing tennis.）	１２回目　「間接疑問文」
５回目　「命令文」（Change there to the Yamanote Line. の意味）	１３回目　リスニング力向上に向けて
６回目　「疑問詞疑問文」	１４回目　これまでの復習（予備日）
７回目　「目的語と補語（文型）」	１５回目　テスト
８回目　「比較」	

◆教科書　〔当日資料配付〕適宜，プリントを配付します。

◆参考書　なし

◆成績評価基準　授業への取り組み，及びテストにより総合的に評価します。
※毎授業始めに復習テストを行いますので，遅刻をしないよう注意してください。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆近代以降の西洋哲学の歴史　〔西洋思想史Ⅱ〕

木曜日４時限　**担当者：中澤　瞳**

◆学修到達目標　本講義の目標は，近代から現代にかけての西洋における哲学思想の展開を理解することである。

◆授業方法　講義を主体として，資料プリントを読み進めつつ，まとめていく。授業の進行具合によっては，授業計画に記載した内容に変更が生じる場合がある。その際は，随時授業中に指示する。

◆準備学修　準備，復習ともに，哲学史の入門書を読むことは理解を深めるのに役立つ。参考文献は授業ごとに紹介する。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス他	９回目　現象学３
２回目　批判哲学１	10 回目　現象学４
３回目　批判哲学２	11 回目　実存主義哲学１
４回目　理性の危機とニーチェの哲学１	12 回目　実存主義哲学２
５回目　理性の危機とニーチェの哲学２	13 回目　実存主義哲学３
６回目　理性の危機とニーチェの哲学３	14 回目　実存主義哲学４
７回目　現象学１	15 回目　まとめ・筆記試験
８回目　現象学２	

◆教科書　当日資料配付　１回目のガイダンス時に，次週使用する資料プリントを配付。

◆参考書　通材『西洋思想史Ⅱ　P30600』　通信教育教材（教材コード 000134）1,800 円（送料込）

◆成績評価基準　授業への参加，貢献（40%），試験（60%）により総合的に評価する。なお，毎回出席することを前提として評価する。

◆戦後の経済復興からバブル経済崩壊まで　〔日本経済史〕

木曜日４時限　**担当者：飯島　正義**

◆学修到達目標　第２次大戦後の経済復興からバブル経済の崩壊に至る期間の日本経済のあゆみについて理解を深めることができます。

◆授業方法　講義形式。授業は，当日配付するプリントを中心に進めていくが，授業時における理解を確認するために確認プリント等を授業中に行う予定です。

◆準備学修　通信教材で関係する部分を予め読んでおくと理解がさらに深まると思われます。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　敗戦と連合国による占領統治	９回目　高度経済成長の問題点
２回目　非軍事化と民主化	10 回目　ニクソン・ショックとオイル・ショック
３回目　経済復興―傾斜生産方式	11 回目　スタグフレーション
４回目　ドッジ・ライン	12 回目　産業構造の変化
５回目　朝鮮戦争と特需	13 回目　プラザ合意と円高不況
６回目　1950 年代前半の産業政策	14 回目　バブル経済の形成と崩壊
７回目　高度経済成長の要因とメカニズム	15 回目　総まとめと筆記試験
８回目　開放体制への移行	

◆教科書　教科書は使用しません。
当日資料配付　当日授業資料を配付します。

◆参考書　通材『日本経済史　R30500』　通信教育教材（教材コード 000416）3,550 円（送料込）
〈この教材は市販の『日本経済史 1600 － 2000　―歴史に読む現代―』浜野潔，中村宗悦著（慶應義塾大学出版会）と同一です〉
丸沼『概説日本経済史　近現代（第３版）』　三和良一　東京大学出版会　2012 年　2,700 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　平常点（取組み・確認プリント等）：40%，筆記試験：60%

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆現場で必要とされる生徒指導とは？　〔生徒指導・進路指導論〕

木曜日４時限　**担当者：古賀　徹**

◆学修到達目標　この授業では教育実践で求められる「生徒指導」に必要な知識・技能を修得することと，様々な場面指導実演（ロールプレイ）を通して，次の四点を身につけることを目指しています。（1）生徒指導の意義，必要性を理解する。（2）カウンセリング・相談（対応）の方法や，グループワーク等の方法を実践して修得する。（3）様々なデータ（調査資料・統計の数値）を読解し，現象を把握し対策を考えることができる。（4）生徒指導上の問題，学校における問題行動について理解する。

◆授業方法　講義形式に加えて，ロールプレイ，さらに複雑なサイコドラマ，またワークショップ形式での話し合い（学びあい）など，多様な方法（アクティブラーニング）をとりいれます。学校現場では様々な場面・環境に応じた指導法が必要とされています。

◆準備学修　この授業では，生徒指導に関する一般的な知識，教科書に書かれている理論についてももちろん学んでいきますが，ピア・カウンセリング，論理療法のカウンセリングなど，学校現場で実効性があると評価されている最新の指導法を学修していただきます。そのためには積極的な取り組みかた，意欲的に参加していただくことが必要です。学校の周囲の問題もとりあげますので，受講する皆さんも授業以外にも様々な教育問題，教育に関する話題・情報に関心をもち，ニュース等をメモして整理しておくことをおすすめします。また，ボランティア活動など地域活動に参画するなど，様々な体験活動についてもとりあげます。自身の在住する地域の実情について関心をもって調べておくと，スキルアップのためのヒントにつながるかと思います。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目　生徒指導とは何か？	9回目　進路指導の問題　（3）「キャリア教育」
2回目　個人指導と集団指導　（1）対人理解の方法論	10 回目　自律・自立のための指導「生きる力」
3回目　個人指導と集団指導　（2）集団の中での個人	11 回目　全国いじめ実態調査の動向
4回目　個人指導と集団指導　（3）カウンセリング理論	12 回目　場面指導　（1）叱り方・「私語」をなくす
5回目　個人指導と集団指導　（4）論理療法	13 回目　場面指導　（2）障がいを抱える生徒への対応
6回目　個人指導と集団指導　（5）グループワーク	14 回目　家庭との連携・地域社会との連携という課題
7回目　進路指導の問題　（1）「格差」拡大の社会	15 回目　生徒指導・進路指導とは何であったか？
8回目　進路指導の問題　（2）「ニート」問題	

◆教科書　当日資料配付　資料・レジュメを配付する。

◆参考書　授業中に指示する。
当日資料配付　適宜に資料・レジュメを配付する。

◆成績評価基準　この授業の評価は，授業への参加（グループ学習含む），提出物・課題，試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの，課題未提出の場合は評価を行なわない。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆西洋哲学の概観　〔哲学　B〕

木曜日５時限　**担当者：中澤　瞳**

◆学修到達目標　本講義の目標は，古代から近代までの西洋の哲学の歴史を，代表的な哲学者の考え方を通して理解することである。参加者それぞれが自分の考え方を意識しながら，哲学者の考え方に向き合うことができるようになることも目標とする。

◆授業方法　授業は講義形式で行う。資料プリントを読み，解説を行う。資料プリントは，基本的には参加者に読んでいただく（挙手制）。また，複数回の小レポート（授業内で記述し，提出する簡単なレポート）を行う。なお，進行具合によっては，授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は，随時授業中に指示する。

◆準備学修　準備学修，復習ともに，西洋哲学史の概説書や入門書を読むことは授業内容の理解を深めるのに役立つ。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス・17 世紀までの哲学史	９回目　ミル，ベンタム
２回目　カント	10 回目　ミル，ベンタム
３回目　カント	11 回目　パース，ジェイムズ，デューイ
４回目　カント	12 回目　フッサール，ハイデガー
５回目　カント	13 回目　フッサール，ハイデガー
６回目　ニーチェ	14 回目　ボーヴォワール，サルトル，メルロ＝ポンティ
７回目　ニーチェ	15 回目　まとめ・筆記試験
８回目　ミル，ベンタム	

◆教科書　当日資料配付　資料は授業ごとに配付する。

◆参考書　通材『哲学　B10700』 通信教育教材（教材コード 000404）3,350 円（送料込）※学修指導書付き

◆成績評価基準　授業への参加，貢献（30%），小レポート（20%），試験（50%）により総合的に評価する。なお，評価を行う際には，毎回出席していることを前提とする。

◆民法総則（後半）　〔民法Ⅰ〕

木曜日５時限　**オープン受講：不可**　**担当者：根本　晋一**

◆学修到達目標　民法学における民法総則の位置づけ，民法総則の意義と体系，主要な論点を理解することを目標とする。

◆授業方法　１　受講者数が多いので，担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。
２　法改正や新判例の追加等により，シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあり得る。

◆準備学修　前回講義時における板書事項を，しっかりと読み直してくること。なお，本講義は板書事項が多いことを，ご承知おきいただきたい。

◆履修条件　根本担当「民法Ⅰ」後期開講との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　法律行為と意思表示①	９回目　法律行為の附款（条件と期限）・期間①
２回目　法律行為と意思表示②	10 回目　法律行為の附款（条件と期限）・期間②
３回目　法律行為と意思表示③	11 回目　時効①
４回目　法律行為と意思表示④	12 回目　時効②
５回目　法律行為と意思表示⑤	13 回目　時効③
６回目　法律行為と意思表示⑥	14 回目　時効④
７回目　法律行為と意思表示⑦	15 回目　総まとめ
８回目　法律行為と意思表示⑧	

◆教科書　指定しない

◆参考書　授業中，適宜紹介します。

◆成績評価基準　全回出席を原則として，筆記試験または本講義終了後に提出するレポートの評価点 80%，授業態度 20%

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史学の論文を書く　〔西洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

木曜日５時限　**担当者：藤井　信行**

◆学修到達目標　４年間の歴史学の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。授業をとおして卒業論文のテーマ決定・文献目録の作成・研究史の整理・資料の収集・文献の読解などを学び，歴史学の論文を書くことへとつなげます。西洋史で卒業論文を予定している学生は，前・後期と，さらに３・４年次と継続して受講することが望ましい。

◆授業方法　「19 世紀ヨーロッパ国際関係史（1890～1914）」をケーススタディとして，後期は研究史の整理・文献の購読などをゼミナール形式の授業で行います。３年次生は同じステップを各自の論文テーマで行い，４年次生はこうしたステップを各自のテーマでいま一度確認するとともに，２度の報告をとおして論文の完成へとつなげる。

◆準備学修　３年次生はつねに論文のテーマを念頭に置いて，授業に取り組んでください。４年次生は，各自の論文の全体構成・章立て・論証などを考えつつ授業に取り組んでください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　３年次生の卒論テーマ①－参考文献目録	９回目　研究史の整理⑤－各自のテーマで報告
２回目　３年次生の卒論テーマ②－「実証」と「解釈」	10 回目　論文を読む①－共通テーマ
３回目　３年次生の卒論テーマ③－章立て	11 回目　論文を読む②－共通テーマ
４回目　４年次生の卒論最終報告（第１回）	12 回目　論文を読む③－各自のテーマで報告
５回目　研究史の整理①－共通テーマ	13 回目　論文を読む④－各自のテーマで報告
６回目　研究史の整理②－共通テーマ	14 回目　４年次生の卒論最終報告（第２回）
７回目　研究史の整理③－各自のテーマで報告	15 回目　３年次生の卒論テーマ④－史料と資料
８回目　研究史の整理④－各自のテーマで報告	

◆教科書　〔当日資料配付〕当日プリントを配付する。

◆参考書　使用せず。

◆成績評価基準　レポート２回（各 30%×２），報告 30%，平常点 10%

◆開放経済体系，経済政策と外国為替　〔国際経済論〕

木曜日５時限　**担当者：陸　亦群**

◆学修到達目標　国際経済論において，国際収支の基本的な考え方や基礎理論，開放経済体系下の経済政策，ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について学び，グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げることを目標とする。

◆授業方法　本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配付し解説する。

◆準備学修　国際経済論は応用経済学分野の科目であることから，経済学概論，経済原論（経済学原論），経済学の何れかの科目を履修済みの上，本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を予習し，講義終了後に教材内容に突き合わせてノートを整理し復習すること。

◆履修条件　前期のみの受講も可能だが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　オリエンテーション，国際経済論とは	９回目　国際マクロ経済政策（１）
２回目　国際収支表構造と国際収支統計	10 回目　国際マクロ経済政策（２）
３回目　外国為替市場とその役割	11 回目　外国為替相場の決定メカニズム（１）
４回目　対外収支と貯蓄投資バランス	12 回目　外国為替相場の決定メカニズム（２）
５回目　外国貿易乗数と弾力性アプローチ	13 回目　為替相場の変動と市場介入
６回目　財市場の均衡と IS 曲線	14 回目　市場化とグローバリゼーション
７回目　貨幣市場の均衡と LM 曲線	15 回目　講義のまとめ
８回目　IS-LM-BP 分析	

◆教科書　**通材**『国際経済論　R31100』 通信教育教材（教材コード 000281）2,000 円（送料込）

◆参考書　なし

◆成績評価基準　定期試験 80%，講義態度（出席）20%。基礎理論を身に付けているかを判定する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆商業政策が企業活動に与える影響を考える　〔商業政策〕

木曜日５時限　　**担当者：新島　裕基**

◆学修到達目標　商業政策が実施される根拠，目的，体系，および 1990 年代以降の「政策転換」の内容について理解し，商業政策の展開が現実の企業行動や消費者行動にどのように影響しているかを説明することができる。

◆授業方法　講義は一方通行で終わらせず，質疑応答など，できるだけ双方向型・参加型の形式をとります。

◆準備学修　毎回の講義の最後に次回授業内容等について説明するので，事前の準備（予習等）を行ってください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス：流通・商業・マーケティング	９回目　競争政策：独占禁止法②
２回目　流通・商業・マーケティング	10 回目　振興政策：限界から拡充・強化へ
３回目　流通システムと商業政策	11 回目　調整政策：大店法緩和に向けた変遷
４回目　商業政策の基本的枠組み：根拠と目的	12 回目　商業まちづくり政策：政策転換
５回目　商業政策の基本的枠組み：体系	13 回目　商業まちづくり政策：まちづくり３法の制定
６回目　商業政策の基本的枠組み：規制緩和	14 回目　商業まちづくり政策：まちづくり３法の見直し
７回目　商業政策の歴史的変遷	15 回目　テスト
８回目　競争政策：独占禁止法①	

◆教科書　丸沼『流通政策入門［第４版］』　渡辺達朗　中央経済社　2016 年　3,024 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書　なし

◆成績評価基準　テスト…50%，授業内レポート等…25%，授業への貢献度（発言等）…25%

◆哲学・宗教の学習をつくる　〔社会科・公民科教育法Ⅰ〕

木曜日５時限　　**担当者：古賀　徹**

◆学修到達目標　社会科・公民科教育の目的と教育内容について理解を深め，実践的な授業方法を身につけられるようにする。「現代社会」「倫理」「政治･経済」の各分野について必要とされる基礎知識を学び，適する教授方法を考えていく。特に今期は倫理・哲学の課題を中心にして授業づくりをしていきたい。

◆授業方法　教科内容及び授業法の講義を行うが，各自１回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と，その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆準備学修　中学校（社会科）・高等学校の公民科に関する教科書の記述内容について，事前に読んで理解しておくと，実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが，学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　公民科の授業をイメージする	９回目　模擬授業①
２回目　「倫理」－目標，内容，教材研究の視点	10 回目　模擬授業②
３回目　「思考力」「言語活動」を含む授業計画	11 回目　模擬授業③
４回目　教材研究①―哲学の研究	12 回目　模擬授業の評価・講評
５回目　教材研究②―哲学者の研究	13 回目　生徒参画型の授業とは？
６回目　教材研究③―研究成果の報告	14 回目　公民科と倫理，政治経済
７回目　研究成果を反映させる授業づくり	15 回目　公民科教員としての授業力とは何か？
８回目　授業研究…考えさせる授業	

◆教科書　当日資料配付　資料・レジュメを配付する。

◆参考書　授業中に指示する。
学習指導要領（文部科学省）その他
当日資料配付　適宜に資料・レジュメを配付する。

◆成績評価基準　学習指導案を指定した分，作成して提出する。模擬授業を複数回行い，授業づくり（教材研究）への取り組み，グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

【金曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目 科目コード	充当科目 科目名	制限・注意 併用	制限・注意 配当学年	制限・注意 受講条件	オープン講
1時限	AL11	英　語　J	大庭　香江	1		C10100	英　語　Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英　語　Ⅱ				
						C10300	英　語　Ⅲ		2年		
						C10400	英　語　Ⅳ				
	AL12	TOEIC　B	町田　純子	1		C108S0	TOEIC	×	1年		
	AL13	刑事訴訟法	船山　泰範	2		K31700	刑事訴訟法	×	2年		
	AL14	東洋思想史Ⅰ	本間　直人	2		P20300	東洋思想史Ⅰ	×	条件参照	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
2時限	AL21	英　語　K	大庭　香江	1		C10100	英　語　Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英　語　Ⅱ				
						C10300	英　語　Ⅲ		2年		
						C10400	英　語　Ⅳ				
	AL22	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭　克夫	1		E10100	フランス語Ⅰ	×	1年	・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						E10200	フランス語Ⅱ				
	AL23	日本政治史	石川　徳幸	2		L30400	日本政治史	×	2年		×
	AL24	哲学演習Ⅰ・Ⅱ	中澤　瞳	1		P401S0	哲学演習Ⅰ	×	3年	・哲学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ，Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						P402S0	哲学演習Ⅱ				
	AL25	西洋史特講Ⅰ	池本　今日子	2		Q31200	西洋史特講Ⅰ	×	2年		
	AL26	アメリカ経済論	小林　通	2		R312S0	アメリカ経済論	×	2年		

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

【金曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目		制限・注意			オープン講
						科目コード	科目名	併用	配当学年	受講条件	
3時限	AL31	英語 L	中村 則子	1		C10100	英語 Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英語 Ⅱ				
						C10300	英語 Ⅲ		2年		
						C10400	英語 Ⅳ				
	AL32	政治学原論	吉野 篤	2		L20100	政治学原論	×	条件参照	・政治経済学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AL33	哲学基礎講読	石井 友人	2		P20100	哲学基礎講読	×	条件参照	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AL34	市場調査論	最上 健児	2		S317S0	市場調査論	×	2年		
4時限	AL41	社会学	服部 慶亘	2		B11600	社会学	×	1年		
	AL42	英語基礎 B	中村 則子	1		C10600	英語基礎	×	1年	・英文学専攻は申込不可。	
	AL43	国文学概論	山﨑 泉	2		M20200	国文学概論	×	条件参照	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AL44	宗教学概論	合田 秀行	2		P30400	宗教学概論	×	2年		
5時限	AL51	情報概論 B	一島 力男	2		R32300	情報概論	×	2年		

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

講座内容（シラバス）

◆映画の歴史を読む　★★☆〔英語　J〕

金曜日１時限　**担当者：大庭　香江**

◆学修到達目標　本授業では，映画の歴史やエピソードについて書かれた英文を読み，映像作品で，英語音声と英語字幕を組み合わせて見ることで，英文を読む力を伸ばします。

◆授業方法　映画の歴史やエピソードについて書かれたパッセージを読み，実際に作品を視聴して，レビューを簡潔にまとめます。

◆準備学修　パッセージを読み，語彙を調べておきます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目	ガイダンス Unit 1　映画の発明 文法：疑問文	9回目	Unit11　映画監督1 文法：未来形2
2回目	Unit 2　映画館 文法：現在形	10回目	Unit12　映画監督2 文法：未来形3
3回目	Unit 3& 4　サイレント映画，有声映画 文法：過去形	11回目	Unit13　日本映画2
4回目	Unit 5& 6　カラー映画，ドキュメンタリー映画 文法：未来形1	12回目	Unit14　3D
5回目	Unit 7　日本映画1 文法：名詞	13回目	Unit15　まとめ1
6回目	Unit 8　ハリウッド映画 文法：形容詞1	14回目	Unit16　まとめ2
7回目	Unit 9　映画音楽 文法：形容詞2	15回目	試験およびまとめ
8回目	Unit10　ビデオと DVD 文法：形容詞3		

◆教科書　丸沼『Movie Time!』 Eric Bray 著　南雲堂　2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　授業時に，単元ごとに，関連する参考書や資料について御紹介致します。

◆成績評価基準　試験，及び授業への取り組みを総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 550 点レヴェルを目指して TOEIC にチャレンジしましょう。〔TOEIC　B〕

金曜日 1 時限　　**担当者：町田　純子**

◆学修到達目標　新 TOEIC の出題問題の傾向を探り慣れることで，戦略的に又実践的に，リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得します。又同時に最低限の基礎文法知識の確認と定着や，語彙力増強，頻出会話表現を身につけることで，日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップできます。

◆授業方法　前期後期の連続受験が望ましいです。リスニング（Part 1～ Part 4）及びリーディング（Part 5～ Part 7）の練習問題形式のテキストに沿い段階的に基礎文法，速読力，読解力，語彙力強化を図ります。又，音声の基礎知識を整理し，特有の話し言葉に慣れます。毎回単語熟語力確認テストを行い基本語彙力の定着を図ります。ガイダンス時に実力診断テストを行います。（受講人数で変更有り）

◆準備学修　ガイダンスでは，シラバス内容を確認の上授業に臨み，授業計画を確認の上，予習復習をしてください。10 回実施予定の英単熟語確認テストの準備として，初回講義前に購入してテストに備えてください。

◆履修条件　前期使用教科書の後半を使用しますので Unit 1～7までは既に終わらせてあることが前提での授業展開となります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目	授業目標ガイダンスと TOEIC に向けての戦略	9回目	Unit 10　ダブルパッセィジの攻略 語彙テスト7
2回目	レベルチェックテストと解説	10 回目	Unit 11　接続副詞に強くなる 語彙テスト8
3回目	Unit 8　動詞の時制を見極める 語彙テスト1	11 回目	Unit 12　NOT 型設問のコツ 語彙テスト9
4回目	Unit 9　接続詞 v.s. 前置詞 語彙テスト2	12 回目	まとめ 語彙テスト 10
5回目	Handouts 文法 Part5 語彙テスト3	13 回目	TOEIC　模擬テスト
6回目	Handouts リスニング Part 1, 2, 3, 4 の速聴基礎 語彙テスト4	14 回目	TOEIC　模擬テスト
7回目	Handouts 読解 Part 6, 7 の速読攻略 語彙テスト5	15 回目	まとめのテスト（達成度チェックテスト）
8回目	Handouts 読解 Part 6, 7 の速読攻略 語彙テスト6		

◆教科書　丸沼『LEVEL-UP TRAINER for THE TOEIC TEST』（改訂版）　Ayako Yokogawa 他
センゲージラーニング　2,160 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『データベース 4500 基本英単語･熟語（New Edition)』　桐原書店　1,069 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　指定しません

◆成績評価基準　全出席を前提に総合的にだします。単語小テスト 10 回（40%）と期末試験（40%）宿題等の平常点（20%）を含みます。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆市民に役立つ刑事訴訟法　〔刑事訴訟法〕

金曜日１時限　**担当者：船山　泰範**

◆学修到達目標　市民の目で刑事訴訟法を見ることにするが，後期では，応用問題に取り組む。なお，刑事法のまとめを行う。

◆授業方法　講義を中心とするが，質問の時間を設けるので，遠慮なく質問し，できるだけ疑問を解消してほしい。刑務所参観（あるいは更生施設）を組み込むので，必ず参加すること。

◆準備学修　教科書ならびに参考書を予習して臨んでほしい。刑法総論・各論を復習しておいて頂きたい。

◆履修条件　平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（後期）「刑事訴訟法」との積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　刑法に見る刑事訴訟法	９回目　少年法は刑訴法の究極か
２回目　犯罪阻却理論のねらい	10 回目　違法収集証拠の排除法則
３回目　規範としての刑事訴訟法	11 回目　疑わしきは被告人の利益に
４回目　なぜ社会的弱者が起訴されるか	12 回目　死刑存廃論
５回目　冤罪の責任は誰が負う	13 回目　なぜ刑事の模擬裁判でなければならないか
６回目　量刑の判断基準	14 回目　法育をすすめる
７回目　懲役刑は再犯防止に役立っているか	15 回目　刑務所参観（更生施設）・まとめ
８回目　取り返しがつかない刑罰は許されるか	

◆教科書　丸沼『NEXT 教科書シリーズ　刑事訴訟法』　関正晴編　弘文堂　2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　丸沼『刑法を学ぶための道案内』　船山泰範　法学書院　2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　期末試験 80%，平常点 20%

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆中国古代の哲学思想　〔東洋思想史Ⅰ〕

金曜日 1 時限　**担当者：本間　直人**

◆学修到達目標　中国古代の哲学思想を概観します。後期は荀子，老子，荘子の思想を中心に理解を深めます。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超え，時代を超え，現代に生きる我々に，生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに，研究の意義，必要性などについても学びます。（前期のみの受講，後期のみの受講も可能だが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましい）

◆授業方法　中国古代の哲学者・思想家たち，それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら，発表形式で授業を行います。又，レポートのまとめ方についても指導します。授業は漢文の講読を含みますが，漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し，無理のないように進めていきます。したがって，東洋思想に興味を持ちながら，漢文に対する抵抗感から，今まで本格的な学習を思いとどまっていた方の受講も歓迎します。

◆準備学修　授業で取り上げる哲学者・思想家についての参考書は，数多く出版されています。図書館，又は書店で実際に手に取り，気に入った本を読んでみて下さい。すんなりと頭に入る事柄もあれば，すぐには理解できない事柄もあることでしょう。しかしながら，そのことについて，じっくりと時間をかけ，自分の頭で考えることは，これからの学習に特に重要なことなのです。

◆履修条件　平成 28 年度昼間・土曜スクーリング（後期）「東洋思想史Ⅰ」との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目　ガイダンス・荀子の思想について（人物・生涯）	9回目　老子の思想について（＜道＞の体現）
2回目　荀子の思想について（理論的思惟）	10 回目　老子の思想について（＜道＞の展開―市中の隠者―）
3回目　荀子の思想について（定命論）	11 回目　老子の思想について（＜道＞の行為―＜無為＞―）
4回目　荀子の思想について（礼）	12 回目　荘子の思想について（人物・生涯）
5回目　荀子の思想について（定命論的礼理論と宿命論的現象）	13 回目　荘子の思想について（万物斉同）
6回目　荀子の思想について（定命論的礼理論の限界）	14 回目　荘子の思想について（その人となり）
7回目　老子の思想について（＜道＞―真理・力―）	15 回目　学習内容のまとめ
8回目　老子の思想について（＜道＞への道程―修行―）	

◆教科書　通材『東洋思想史Ⅰ　P20300』 通信教育教材（教材コード 000392）1,950 円（送料込）
当日資料配付 当日プリント配付。漢和辞典を用意してください。

◆参考書　指定しない。

◆成績評価基準　授業への取り組み（発表など）・レポート・テストにより総合的に評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆映画「タイタニック」で会話表現を学ぶ　★★☆〔英語　K〕

金曜日２時限　**担当者：大庭　香江**

◆学修到達目標　本授業では，映画「タイタニック」を用いて，リスニング力とスピーキング力の向上を目指します。

◆授業方法　映画「タイタニック」を使用し，リスニングや，会話表現のペアやグループワークを行います。また，映画の背景について書かれた英文を講読します。

◆準備学修　映画の背景について書かれた英文を読み，語彙を調べておきます。
練習問題も事前に行い，疑問点を整理しておくことが望ましいです。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス Unit 1　The Woman in the Picture	９回目　Unit 9　An Honest Thief
２回目　Unit 2　Back to Titanic	10 回目　Unit10　Goodbye, Mother
３回目　Unit 3　Leaving Port	11 回目　Unit11　Get in the Boat
４回目　Unit 4　Don't Do It	12 回目　Unit12　Two Tragic Bullets
５回目　Unit 5　Do You Love Him?	13 回目　Unit13　Promise Me
６回目　Unit 6　I Can't See You	14 回目　Unit14　Rose's Secret
７回目　Unit 7　I'm Flying!	15 回目　試験およびまとめ
８回目　Unit 8　Iceberg Right Ahead!	

◆教科書　丸沼『映画「タイタニック」で学ぶ総合英語』　角山照彦著　成美堂　2,484 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　授業時に，単元ごとに，関連する参考書や資料について御紹介致します。

◆成績評価基準　試験，及び授業への取り組みを総合的に評価します。

◆中学の英語をフランス語に変換します。　〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日２時限　**担当者：大庭　克夫**

◆学修到達目標　英語にすれば中１～中２レベルの内容が，仏語でも言えて・書けて・聴き取れるようにするのが目標です。また 11 月の実用フランス語検定試験５級（意欲のある人なら４級も可能）にもぜひチャレンジしていただきたいと思います。授業でも過去問を使ってそのための演習時間を割く予定です。

◆授業方法　後期は何と言っても不規則動詞の活用（大切なもの 10 数種類）と基本表現（曜日・月・季節・男性国名 / 女性国名など）を身に付けるのがメインです。授業自体は前期同様＜ゼミ形式＞で進めていきます。

◆準備学修　未習外国語の学習はレンガを１段ずつ垂直に積み上げていくのと同じです。２段目のレンガが１段目の上にしか載らないように，仏語もそれまでの内容をきちんと身に付けない限り新しい内容を習得することは不可能です。前週に習った事柄をしっかり覚えてから翌週の授業に臨むこと，これが取りも直さず最大の予習です。

◆履修条件　この授業は当然前期からの継続です。フランス語Ⅰの学力のない初学者の受講は認めません。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　数・曜日・月・季節mの習得１	９回目　実用フランス語検定試験演習２
２回目　数・曜日・月・季節mの習得２	10 回目　不規則動詞の活用と用例４
３回目　＜第２群規則動詞＞の活用と用例	11 回目　不規則動詞の活用と用例５
４回目　不規則動詞の活用と用例１	12 回目　不規則動詞の活用と用例６
５回目　不規則動詞の活用と用例２	13 回目　期末試験範囲まとめとヒヤリング演習
６回目　不規則動詞の活用と用例３	14 回目　後期期末試験
７回目　後期中間試験	15 回目　期末試験の返却と解説，今後の課題
８回目　実用フランス語検定試験演習１	

◆教科書　〔当日資料配付〕 授業に用いるプリントと CD は後期授業開始時にこちらで配付します。
前期同様，授業時には仏和辞典を必ず携行してください。

◆参考書　なし

◆成績評価基準　試験は中間と期末の２回行い，成績はこの試験の結果で判定します。なお試験は全問＜和文仏訳＞と＜ヒヤリング形式＞（＝原文を書き取ったのち和訳）で出題します。安直な和訳・穴埋め・択一などは一切出題しません。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆明治・大正期の日本政治　〔日本政治史〕

金曜日２時限　**オープン受講：不可**　**担当者：石川　徳幸**

◆学修到達目標　本講義では，近代日本において展開された政治を通史の形で学んでいく。歴史の流れを正しく把握するためには，時代ごとに区切って学ぶことは得策ではないが，便宜上，本講義では明治後期から大正期を対象とする。対外戦争に臨んだ歴史的背景や大正政変などの国内政治の過程を理解するとともに，歴史的事象の見方や考え方を身につけてもらいたい。

◆授業方法　基本的には，教科書の章立てに沿った形で講述する。授業内容は，あくまでも初学者を対象とした内容で構成しているが，高校までの歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては，おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては，各自，ノートを必ず持参すること。

◆準備学修　予習として，事前に教科書の該当範囲に目を通しておくこと（毎時，授業の終わりに次回に扱う範囲を告知する）。復習として，受講中にとったメモを整理し，ノートをまとめておくこと。

◆履修条件　平成 29 年度昼間・土曜スクーリング（前期）「日本政治史」を受講していることが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　イントロダクション	９回目　明治の終焉
２回目　憲法制定と諸制度の改革・整備	10 回目　大正政変（第一次護憲運動）
３回目　帝国議会の開設	11 回目　第一次世界大戦
４回目　藩閥勢力と民党の抗争	12 回目　寺内超然内閣と米騒動
５回目　日清戦争	13 回目　政党政治の展開
６回目　政党政治の誕生（隈板内閣）	14 回目　第二次護憲運動
７回目　立憲政友会の誕生と桂内閣	15 回目　総括
８回目　日露戦争	

◆教科書　**通材**『日本政治史　L30400』 通信教育教材（教材コード 000452）3,100 円（送料込）

◆参考書　※参考書は，必要に応じて授業の中で紹介する。

◆成績評価基準　筆記試験の結果をもとに成績評価を行う。なお，全体の３分の１を超える欠席がある場合，評価の対象としない。

◆論文を書く準備　〔哲学演習Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日２時限　**担当者：中澤　瞳**

◆学修到達目標　本演習は，論文を執筆するために必要と考えられる基本的知識を実践を通して習得することを目標とする。

◆授業方法　講義と演習を組み合わせて行う。場合によっては，小グループを組んで作業を行う。口頭発表，および参加者同士による相互評価を行う。なお，進行具合によっては，授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は，随時授業中に指示する。

◆準備学修　卒業論文で自分が扱う予定の主題を念頭において，授業準備，授業参加をすること。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス・論文とはなにか	９回目　要約をする
２回目　問題，主張，論拠，説明を理解する１	10 回目　要約をする
３回目　問題，主張，論拠，説明を理解する２	11 回目　要約をする
４回目　要約の作り方とパラグラフを考える１	12 回目　要約をする
５回目　要約の作り方とパラグラフを考える２	13 回目　発表
６回目　批判的な視点をもつ	14 回目　発表
７回目　要約をする	15 回目　発表
８回目　要約をする	

◆教科書　当日資料配付　資料プリントは授業ごとに配付。

◆参考書　なし

◆成績評価基準　授業，グループワークへの参加度，発表（70%），発表の講評（30%）により総合的に評価する。なお，毎回出席することを前提として評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆ヨーロッパ近世・近代の政治と文化２　〔西洋史特講Ⅰ〕

金曜日２時限　**担当者：池本　今日子**

◆学修到達目標　ヨーロッパ近世以降の政治と文化の大きな流れ，政治と文化の関係について，主にポーランド･ドイツ･ロシアを例に理解し，説明出来る。

◆授業方法　講義を行う。芸術作品や文学作品になるべく触れる。

◆準備学修　ドイツ，ロシアの歴史について入門レベルの知識を得ておくこと。新聞のコラムなどに注意し，現代社会の政治と文化について考え，また，芸術作品や文学作品に触れること。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　導入	９回目　ドイツ 19 世紀
２回目　ポーランド 16 世紀	10 回目　ロシア 16 世紀
３回目　ポーランド 17 世紀	11 回目　ロシア 17 世紀
４回目　ポーランド 18 世紀	12 回目　ロシア 18 世紀
５回目　ポーランド 19 世紀	13 回目　ロシア 19 世紀
６回目　ドイツ 16 世紀	14 回目　まとめ
７回目　ドイツ 17 世紀	15 回目　到達度の確認
８回目　ドイツ 18 世紀	

◆教科書　当日資料配付　プリント

◆参考書　教場で指示する。

◆成績評価基準　試験 90%。平常点 10%。

◆世界，日本とのアメリカ経済の学修　〔アメリカ経済論〕

金曜日２時限　**担当者：小林　通**

◆学修到達目標　本講義の到達目標は，アメリカ経済の動向を時系列的経緯や経済理論との関連によって学修し，そこから現実のアメリカ経済が，世界・日本経済にどのような影響を与えているのかを理解することにあります。具体的には新聞・雑誌に掲載されているアメリカに関する経済記事や経済問題を世界との動向でそれを理解できることにあります。

◆授業方法　授業方法は，講義の内容が一方的にならないように注意し，その理解度を勘案して双方的な関係で受講者の自主性や学習意欲を高めるように工夫します。具体的には受講生の質問を通じてその理解度を測ったり，単元ごとに講義の内容に沿った課題を授業中に出題し，受講生みんなでその問題について回答するように進めていきます。

◆準備学修　準備学修は，以下のような授業計画に沿って講義を進めていきますが，講義の内容や時間の都合によって思ったように実施できないこともあります。そのため受講生は，新聞などをできるだけ毎日読むようにしていただきたいと思います。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　1970 年代のアメリカ経済	９回目　リーマン・ショック
２回目　２度のオイル・ショック	10 回目　サブプライムローン問題
３回目　ニクソン・ショック	11 回目　アメリカ経済不況の影響
４回目　スミソニアン合意	12 回目　北米自由貿易協定
５回目　レーガノミクスの実施	13 回目　TPP とアメリカ経済
６回目　G5 のプラザ合意	14 回目　TPP における米国の役割
７回目　レーガノミクスの明暗	15 回目　今後のアメリカ経済
８回目　グローバル化時代の米国	

◆教科書　使用しない

◆参考書　丸沼『国際政治経済学新論』　小林他共編　時潮社　2013 年　3,024 円（税込）（送料 300 円）
丸沼『現代アメリカ経済』　河村哲二　有斐閣　2008 年　2,484 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　受講生の出席を基準として，単位ごとの終了した後の課題，小テストおよび学期末試験の成績により評価します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆スポーツトピックで楽しく学ぶ易しい英語　★★☆〔英語　L〕

金曜日３時限　**担当者：中村　則子**

◆学修到達目標　2020 年に開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読解し，演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。
最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法　テキストに沿って，英文を読み，演習問題を行うことで，英語の４技能のうち主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し，英文を音読してから，その内容を発表してもらう。進み具合により，シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆準備学修　ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストをできるだけ早く入手し，最初の章に目を通して，判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き，充分に予習しておくこと。また，日ごろから，英語の記事を視聴したりして，スポーツに限らず，メディアから英語で情報を入手する作業をしてほしい。

◆履修条件　英語力が初級レベルであること

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　Unit10 The Cutting Edge
２回目　Unit 7 Helping Your Opponent	10 回目　Unit11 Match-Fixing
３回目　Unit 7 Helping Your Opponent	11 回目　Unit11 Match-Fixing
４回目　Unit 8 Ghost Goals	12 回目　Unit12 Heroes Inspire Heroes
５回目　Unit 8 Ghost Goals	13 回目　Unit12 Heroes Inspire Heroes
６回目　Unit 9 Rituals and Superstitions	14 回目　復習もしくは小テスト
７回目　Unit 9 Rituals and Superstitions	15 回目　試験およびまとめ
８回目　Unit10 The Cutting Edge	

◆教科書　丸沼『Spotlight on Sports』 金星堂　2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　参考書，辞書はガイダンスにて指示

◆成績評価基準　発表を含めた授業への取り組み，試験による総合評価。

◆政治を観る眼を養う　〔政治学原論〕

金曜日３時限　**担当者：吉野　篤**

◆学修到達目標　主として現代の政治過程のさまざまなアクター，中でも政党，選挙制度を中心に取り上げ，政治過程の諸側面について考察することで，政治の現実的な営みを理解すること。併せて 20 世紀の政治学の歩みを振り返ることで，学問としての政治学の概要を理解すること。

◆授業方法　基本的には講義形式で行い，時宜に応じて新聞報道を題材として配付し，現実の政治問題がどのように生起し，どのような解決を迫られているかを考える。

◆準備学修　メディアの政治報道を注意深く観察して，興味を高めること。もちろん，テキストの該当箇所をよく読み，問題点を整理すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　政治過程論の概説，政治学とは何か	９回目　政治過程論の概要
２回目　大衆社会論	10 回目　シカゴ学派の生成と展開
３回目　政党の概念と機能	11 回目　行動論政治学の特質
４回目　政党システムの分析枠組み①	12 回目　政治システム論の概要
５回目　政党システムの分析枠組み②	13 回目　脱行動論革命について
６回目　選挙の意義と機能	14 回目　政治学の新展開①
７回目　選挙制度の諸側面	15 回目　政治学の新展開②・まとめ
８回目　アメリカ政治学の特質	

◆教科書　丸沼『政治学』 山田光矢編著　弘文堂　2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　授業の中で指示する。

◆成績評価基準　基本的には期末試験で評価する。場合によっては出席点を加味する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆『論理学，別名思考の技法』を読む　〔哲学基礎講読〕

金曜日３時限　**担当者：石井　友人**

◆学修到達目標　17 世紀思想の古典であるアルノー, ニコル共著『論理学, 別名思考の技法』の第四部を読んでいきます。私たちにとって，確実に知っていると言える事柄はどのくらいあるのでしょうか。むしろ多くの事柄について，よく知らないままに，何とか折り合いをつけてやっていく，というのが普段の私たちの姿なのではないでしょうか。絶対的な知識を求めたデカルトに対し，アルノーたちは，不確実性に常に付きまとわれる人間的な出来事の論理を探究しました。同書第四部を通して，確実な知識とは何か，不確実な事柄について私たちは何を知りうるのか，という問題について考えていきます。古典を読んでいくための基礎的知識を得る機会にしてもらえればと考えています。

◆授業方法　教科書と配付プリントにより講義形式で行いますが，質疑応答を取り入れ，受講者からの積極的な参加を期待します。哲学書を読むことも小説を読むことも同じで，まずは慣れるということが必要です。そのために，とにかく丁寧に読むということを積み重ねていく授業となります（講読の進度によっては授業計画を変更することもある）。

◆準備学修　教科書所収『論理学，別名思考の技法』第四部第一章を初回の授業の対象とします。この章が，いくつの話題で構成されているのか，段落分けをしておいて下さい（わかりにくい記述は飛ばしてもかまいません）。同書全体については，教科書に付された訳者による解説が参考になるでしょう。なお，アルノーの伝記的事実については，授業では特に言及しないので，教科書に付された評伝をあらかじめ確認しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　学的知識とその限界	９回目　信頼による知識の諸規則 Ⅱ．共通事情と特殊事情
２回目　デカルトによる確実な領域の探究	10 回目　確からしさの根拠
３回目　アルノーによる確実な領域の探究	11 回目　信頼による知識の諸規則 Ⅲ．比例的（確率的）な方法
４回目　アルノーによる不確実な領域の探究	12 回目　未来の事柄についての判断
５回目　信頼による知識とは何か	13 回目　偶然性と必然性
６回目　信頼による知識の諸規則 Ⅰ．内的事情と外的事情	14 回目　同上
７回目　過去の事柄についての判断	15 回目　試験
８回目　奇跡についての判断	

◆教科書　**通材**『哲学基礎講読　P20100』 通信教育教材（教材コード 000042）3,700 円（送料込）
〔当日資料配付〕当日配付プリント

◆参考書　講義の中で紹介します。

◆成績評価基準　試験（リポートに変更の場合あり）（60%），質疑応答等の授業への参加度（40%）により評価。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆分析手法の背景を理解する　〔市場調査論〕

金曜日３時限　**担当者：最上　健児**

◆学修到達目標　分析手法を前提とするデータの形式を理解する。
最小二乗法と非線形最小二乗法の違いを理解する。
二項ロジットモデルとロジスティック回帰分析の違いを理解する。

◆授業方法　各回の講義の前半の時間を使い，その日に使う数学的な質気を確認し，各種の統計モデルを詳細に説明する。

◆準備学修　毎回の授業では一回ごとに完結する話題となるよう配慮しているが，全講義を通じて大きな一つの話題を取り扱っている。欠席した場合などは欠席したときの資料を熟読し，内容を把握しておくことが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　X^n の微分と対数変換	９回目　第一種極値分布
２回目　需要の価格弾力性	10 回目　２項ロジットモデルの確率的部分
３回目　確率の推定方法	11 回目　２項ロジットモデルの確定的部分
４回目　ロジスティック曲線	12 回目　多変数化と選択肢固有の魅力度
５回目　ロジスティック変換による推定	13 回目　多項ロジットモデル
６回目　最尤推定によるタ推定	14 回目　無関係な選択肢からの独立性
７回目　ロジスティック回帰分析の解釈	15 回目　まとめ
８回目　２項ロジットモデルと確率の公理	

◆教科書　インターネットより配信する。
http://www.geocities.jp/mogami_shiryoukan/

◆参考書　丸沼『リテールデータ分析入門』　上田隆穂他　㈱中央経済社発行　3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準　レポートにより評価する。（100%）

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆いかに我々の「満足感」は不完全か？　〔社会学〕

金曜日４時限　**担当者：服部　慶亘**

◆学修到達目標　世の中は「自分の思い通りにいくものではない！」ということを理解しなければ，社会生活を成り立たせることは出来ない。また，自分が正しいと信じたことが正当に評価されないことも多い。すなわち，我々の日常生活には様々な異質性が存在するのである。そこで，前期の講義内容をもとにしつつ，「人間関係」「満足感」をキーワードに，目の前の現実を見つめ直せることを目指すのが，本講義の目的である。

◆授業方法　教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い，受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（ＣＤ，ＤＶＤ，マンガ，その他）を多用する。また，学生に質問を投げかけ，対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって，講義を単に「聴く」のではなく，講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。また，前期の講義内容との関連性も随時紹介する。

◆準備学修　特別な予習は必要としないが，講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で，次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく，日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

◆履修条件　前期から続けての履修が望ましい（後期入学生を除く）

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　講義目標・目的の確認	９回目　満足感とコミュニケーション④　防衛機制
２回目　「満足」とは何か？①　価値判断	10 回目　基本的人間関係①　人間関係の必要性
３回目　「満足」とは何か？②　満足原理	11 回目　基本的人間関係②　友情と恋愛
４回目　「満足」とは何か？③　環境と人間	12 回目　基本的人間関係③　出会い・単純接触
５回目　「満足」とは何か？④　リセット願望	13 回目　基本的人間関係④　ラヴソング分析
６回目　満足感とコミュニケーション①　本質	14 回目　全体の復習
７回目　満足感とコミュニケーション②　構造	15 回目　まとめ
８回目　満足感とコミュニケーション③　機能	

◆教科書　丸沼『人間生活の理論と構造』　夏刈康男（ほか）　学文社　2,700 円（税込）（送料 350 円）
丸沼『補強版ストレス・スパイラル』　服部慶亘　人間の科学社　1,296 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　プリント配付

◆成績評価基準　終講試験（70%），受講態度（20%），レポート類（10%）で評価する。なお，全講義回数の３分の２以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆基礎から始めるやさしい英語　★☆☆〔英語基礎　B〕

金曜日４時限　**担当者：中村　則子**

◆学修到達目標　この科目では，忘れかけている英語の基礎文法を詳しく丁寧に学び直すことで，英文の読解力を身につけていく。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法　テキストに沿って，解説を読み，演習問題を行うことで，英語の文法の基礎を習得する。まず CD で音声を確認し，英文を音読してから，その内容や演習問題の解答を発表してもらう。後期のこの授業は，進み具合により，シラバスの予定を変更する可能性があることをおことわりしておく。

◆準備学修　ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストをできるだけ早く入手し，最初の章に目を通して，判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き，充分に予習しておくこと。また，日ごろから，英語の音楽を聴いたり，洋画を見たりして，英語の世界に親しんでほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　Unit20　不定詞（Ⅱ）
２回目　Unit13　接続詞（Ⅰ）	10 回目　Unit21　It の特別用法
３回目　Unit14　不定詞（Ⅰ）・動名詞（Ⅰ）	11 回目　Unit22　分詞・動名詞（Ⅱ）
４回目　Unit15　受動態	12 回目　Unit23　関係代名詞
５回目　Unit16　完了形	13 回目　Unit24　仮定法
６回目　Unit17　接続詞（Ⅱ）	14 回目　復習もしくは小テスト
７回目　Unit18　５つの基本文型	15 回目　試験およびまとめ
８回目　Unit19　各種疑問文	

◆教科書　丸沼『English　Primer　(Revised Edition)』　南雲堂　2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　参考書，辞書はガイダンスにて指示

◆成績評価基準　発表を含めた授業への取り組み，試験による総合評価。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆近松門左衛門の世話浄瑠璃に親しむ　〔国文学概論〕

金曜日４時限　**担当者：山﨑　泉**

◆学修到達目標　近世を代表する劇作家である近松門左衛門の世話浄瑠璃作品の中から，『心中天の網島』を講読します。日本の古典文学の魅力の一端に触れつつ，古典作品の読解力向上及び大学で国文学を学ぶ上での基本的なスキル習得を目指します。

◆授業方法　主に講義形式で行います。
近松門左衛門が活躍した近世の文学状況及び近松の生涯とその作品について概説した後，彼の晩年の代表的な世話浄瑠璃作品である『心中天の網島』を講読します。

◆準備学修　テキストに一通り目を通しておいて下さい。授業においては原文を中心に読み進めていきます。
講読に際しては，原文の音読を受講生の皆さんにそれぞれ分担して担当して頂く予定ですので，きちんと読めるように事前に準備をして置いて下さい。「国文学概論」テキストをお持ちの方は，浄瑠璃の項目にも目を通しておくとよいでしょう。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス，国文学とは何か	９回目　『心中天の網島』講読⑥
２回目　近世文学について（概説） 人形浄瑠璃の歴史①	10 回目　『心中天の網島』講読⑦
３回目　人形浄瑠璃の歴史② 近松門左衛門　その生涯と作品	11 回目　『心中天の網島』講読⑧
４回目　『心中天の網島』講読①	12 回目　『心中天の網島』講読⑨
５回目　『心中天の網島』講読②	13 回目　文楽『心中天網島』鑑賞
６回目　『心中天の網島』講読③	14 回目　歌舞伎『心中天網島』鑑賞
７回目　『心中天の網島』講読④	15 回目　まとめ
８回目　『心中天の網島』講読⑤	

◆教科書　丸沼『曾根崎心中　冥途の飛脚　心中天の網島　現代語訳付き』　近松門左衛門著・諏訪春雄脚注
角川学芸出版（角川ソフィア文庫）　907 円（税込）（送料 215 円）
当日資料配付　当日，プリントを配付します。

◆参考書　授業時に紹介します。

◆成績評価基準　平常点（20%），試験（80%）。毎回出席することを前提として採点します。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界の多様な宗教を理解する２　〔宗教学概論〕

金曜日４時限　**担当者：合田　秀行**

◆学修到達目標　世界の諸宗教に関する幅広い知識の習得を目的とする。特に後期は，インドの諸宗教，さらに日本人とも関わりの深い仏教や儒教，日本の民族宗教といえる神道を軸として，その歴史的変遷と教義について理解を深める。最後に，現代における新宗教やニューエイジと呼ばれる潮流についても学ぶ。

◆授業方法　指定した教科書に基づいて，講義形式で進めますので，必ず下記のテキストを用意して下さい。第一章後半については，テキストに従って進めていきますが，第三章・第四章の宗教学用語の解説と第五章の基本文献の紹介と，随時，具体的な宗教の概説とを関連づけるなどして並行的に取り上げます。映像資料も活用して理解を深めます。

◆準備学修　予め指定した教科書の範囲に目を通して講義に臨んで下さい。特に第一章「世界の諸宗教」の第６節から第14 節の概説が後期の軸になりますので重点的に予習しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス，宗教学とは何か	９回目　日本の仏教１　南都仏教・平安仏教
２回目　インドの宗教１　ヒンドゥー教	10 回目　日本の仏教２　鎌倉仏教
３回目　インドの宗教２　映像資料鑑賞	11 回目　道教・儒教
４回目　インドの宗教３　ジャイナ教・シク教	12 回目　神道・民俗信仰１
５回目　インドの仏教１	13 回目　神道・民俗信仰２
６回目　インドの仏教２　映像資料鑑賞	14 回目　新宗教・ニューエイジ
７回目　インドの仏教３	15 回目　まとめ
８回目　中国・朝鮮半島の仏教	

◆教科書　丸沼『宗教学入門』　棚次正和・山中弘編著　ミネルヴァ書房　3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書　使用しない。

◆成績評価基準　平常点（30%），試験（70%）　講義に取り組む姿勢と試験とで総合的に評価します。

◆データ処理と分析　〔情報概論　B〕

金曜日５時限　**担当者：一島　力男**

◆学修到達目標　表計算ソフトを利用してデータの集計，統計処理，グラフ化およびデータベース機能の活用ができるようになること。また，表計算ソフトの利用可能実例を理解し，情報分析ツールとして活用できることを目標とする。

◆授業方法　コンピュータ実習室を利用した実習を中心とする。表計算ソフトは Microsoft 社の Excel2013 を利用する。

◆準備学修　Excel2013 の基本（相対参照・絶対参照を用いた数式のコピー，縦棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフの作成）について確認しておくこと。

◆履修条件　Excel2013 の基本操作を理解していること。

◆授業計画〔各 90 分〕

１回目　ガイダンス	９回目　詳細設定を用いたデータの抽出
２回目　表計算ソフトの基本操作	10 回目　ピボットテーブルの利用
３回目　統計的処理１（代表値と散布度）	11 回目　ゴールシークの利用
４回目　統計的処理２（正規分布と偏差値）	12 回目　作業の自動化（記録マクロの作成）
５回目　統計的処理３（ヒストグラム，度数多角形などのグラフ作成）	13 回目　数理計画法（ソールバー機能の利用）
６回目　統計的処理４（相関係数，R-2 乗値，回帰直線，散布図の作成）	14 回目　授業内テスト２
７回目　授業内テスト１	15 回目　まとめ
８回目　並べ替え，フィルター機能およびデータベース関数の利用	

◆教科書　当日資料配付

◆参考書　授業中に指示する。

◆成績評価基準　実習課題（40%），提出課題（30%），授業内テスト（30%）により総合評価する。
※授業に毎回出席することを前提に評価する。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

【土曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師名	単位数	開講	充当科目		制限・注意			オープン受講
						科目コード	科目名	併用	配当学年	受講条件	
1・2時限	AM11	総合科目Ⅰ～Ⅵ	通信教育部専任教員複数名で担当	2		B101S0	総合科目Ⅰ	×	1年	・Ⅰ～Ⅵのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
						B102S0	総合科目Ⅱ				
						B103S0	総合科目Ⅲ				
						B104S0	総合科目Ⅳ				
						B105S0	総合科目Ⅴ				
						B106S0	総合科目Ⅵ				

注　意
　各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合，大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの，受講制限を行います。
　その結果，必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合，受講をお断りする場合があります。あらかじめ，ご了承ください。

◆自主創造の基礎１　〔総合科目Ⅰ～Ⅵ〕

土曜日１・２時限　　**担当者：通信教育部専任教員**

◆学修到達目標　「自主創造の基礎１」では，大学生としての基本的な資質を育成することを教育目標とします。この授業科目は，いわゆる専門教育の前段となる基礎教育ではなく，社会人として学修することの意義やその在り方について授業を通じて理解し，“自主創造型パーソン”の育成のための基礎教育に位置付けられます。具体的には，①学ぶ意味に気付くことができる。②主体的に学ぶ喜びを意識することができる。③積極的に参加する姿勢を持つことができる。④日本大学と通信教育部について説明することができる。ことを目標とします。

◆授業方法　本授業では，講義形式のほか，アクティブ・ラーニングの授業形態を採ります。そのため，双方向かつ対話型で行う「学生参加型」の授業を実践します。また，知識を“覚える”ことのみに終始するのではなく，“自ら考え行動する”ことに主眼を置いているため，基本的には，「個人ワーク」，「グループワーク」，「発表･共有」の繰り返しにより，授業を展開します。
「グループワーク」では，授業当初に指定された学生のグループで作業を行います。チームワークが重要ですので，当初のメンバーを改変しないために，必ず初日から最終日まで参加してください。

◆準備学修　アクティブ・ラーニングの授業形態を採りますので，必ず指示された課題について，必ず予習を行って，授業に臨んでください。

◆履修条件　①授業初日のガイダンスから出席すること。②平成 28 年度及び平成 29 年度「自主創造の基礎Ⅰ」で合格済の学生は受講不可。③受講適正人数を超過した場合，受講を制限する場合があります。

◆授業計画〔各 180 分〕

１回目	【講義】スタートアップ
	【講義・演習】コミュニケーションをはかる
２回目	【講義】大学で学ぶとは ―日本大学―
	【講義】大学で学ぶとは ―通信教育部―
３回目	【講義】大学での学修で必要なこと
	【講義】通信教育部での学修方法
４回目	【講義】図書館を利用する
	【演習】情報の収集と整理
５回目	【講義】論理的文章を書く前提
	【演習】レポートを作成してみる
６回目	【講義】プレゼンテーションの方法
	【グループワーク】プレゼンテーションの実践練習
７回目	【グループワーク】グループワーク ―テーマ決定・討論―
	【グループワーク】グループワーク ―討論の整理―
８回目	【グループワーク】グループワーク ―成果の発表―
	【グループワーク】能力向上をめざして ―自己評価―

※　授業進捗等の都合により，授業順序を一部変更して実施する場合があります。

◆教科書　資料は適宜配付します。

◆参考書　必要に応じて紹介します。

◆成績評価基準　課題設定，問題探求，グループ内における議論，成果のまとめなどを総合的に判断して評価を行います。各回における課題やプロダクトやレポートなどを成績評価対象とします。
※全回出席を前提とします。

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部　24171999　日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

V　受講及び試験

1　講座受講時の注意点

①ポータルサイト及び掲示板で最新情報の確認	登校の際は，通信教育部１号館１階学生ホールにある掲示板で最新情報を確認してから講義に出席してください。 また，「講堂変更」・「休講」等，日々の授業に関する情報についても随時，ポータルサイトや掲示板でお知らせします。
②受講上の注意（出席・欠席・遅刻・授業に関する問い合わせ等）	**【出席について】** **スクーリングは，毎回出席することを原則としています。** **交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。** ※授業を途中から受講することは，担当教員や周りの受講者に対しても迷惑な行為です。時間に余裕を持って行動してください。 ※事務局及び講師室では，遅刻の連絡は受け付けられません。ご自身で先生に連絡してください。 **【欠席について】** **止むを得ぬ事情によりスクーリングを欠席した場合は，次回の出席時に直接，担当教員へ欠席した旨を伝えてください。** ※事務局及び講師室では，欠席の連絡は受け付けられません。ご自身で先生に連絡してください。 **【授業に関する問い合わせについて】** **事務局では授業内容に関する問い合わせは一切受け付けできません。必ず先生に直接質問してください。**
③受講上の注意（休講・補講）	**【休講について】** **スクーリング期間中，担当教員の都合や天候により授業を休講する場合があります。** **①　事前に情報を得ている場合は，ポータルサイト及び掲示板にてお知らせします。** **②　当日，急きょ，担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は，授業講堂において出席を取り，次回担当教員に出席していたことを伝えます。** **（この場合は，掲示板には休講掲示を出しません。）** **③　その他，天候により急きょ，休講となる場合はホームページ，ポータルサイトにてお知らせします。** **【補講について】** **スクーリング期間中に休講した場合，必ず補講を実施します。補講は，下記の①もしくは②の日程で実施します。** **①　補講日程に実施** 12月18日（月），1月15日（月） **②　スクーリング期間中のその他日程**

「スクーリング試験」受験上の注意

1 「学生証」もしくは「領収書（銀行領収印の押印されているもの）」を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合，受験できない。

2 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は，事前に教務課（講師室）に申し出て指示を受けること。

3 携帯電話等は，電源を切り，鞄等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。

4 持ち込みを許可されたもの以外は机上に置かないこと。

5 解答用紙は，１人１枚とし，再交付はしない。

6 解答用紙の下段，太線枠内※印の事項については，必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。

7 試験開始後 20 分以上遅刻した者は受験することができない。

8 途中退場は，試験監督者の指示がある場合に限り，試験開始 30 分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお，解答用紙の持ち帰りは一切認めない。

9 試験場では，試験監督者の指示に従うこと。

10 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は，学則により処分（停学・退学等）される。

※試験中の参照物等の貸し借りは不正行為とみなす。

2 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は，平成 29 年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し，ポータルサイトでお知らせします。ただし，スクーリングの申込を「受講届」にて行った場合には，教務課から，結果通知を郵送します。ポータルサイトから申込みを行った場合には送付されませんので，あらかじめご了承ください。掲載の開始はポータルサイトの「お知らせ」に掲載します。

電話・郵便による問い合わせには一切応じることができません。また，スクーリング結果通知の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延･未着や，その他の事故に対していかなる配慮も行いませんので，スクーリング結果通知を紛失した場合などはポータルサイトで確認，又は「単位照合票」の交付を受け，確認してください。

結果内容に疑義がある場合は，結果通知日から３ヶ月以内に教務課まで問い合わせてください。なお，それ以降の疑義に関しては対応いたしません。

結果発表時期	平成 30 年２月中旬

① 結果の表示

結果は，「合格」，「不合格」，「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし，単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合，シラバスに記載されている開講単位数を修得したことになり，また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

1　履修登録をする

履修登録上の注意事項
「ポータルサイト」と「履修届」の両方で申込みがあった場合は，「ポータルサイト」の内容を有効とします。

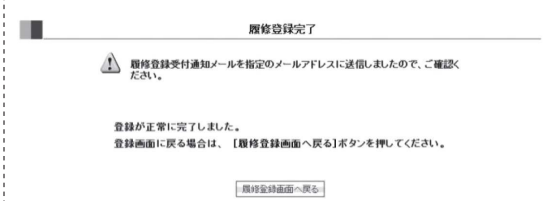
①「ポータルサイト」による申込み

●履修登録の前に

1	履修登録には，ID とパスワードが必要です。 ID ＝学生番号 初期パスワード＝自分の西暦生年月日（半角数字 8 桁）
2	履修登録の受付メールを受信するには，メールアドレスの登録が必要です。 「学生メニュー」の「学生情報照会･修正」より，送付先アドレスを事前に登録してください。

●履修登録方法

1	通信教育部公式ホームページ（URL:http://www.dld.nihon-u.ac.jp）の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し，「履修登録」をクリックしてください。	
3	履修登録科目の一覧から登録したい科目のチェックボックスを選択し，登録確認 ボタンをクリックしてください。 ※一覧には学修が開始できる科目が表示されます。	

4	履修登録する科目を確認し，登録実行 ボタンをクリックしてください。	
5	履修登録が完了すると，登録されているメールアドレスに受付通知メールが配信されます。	

●履修登録確認

1	履修登録方法の１の手順で，ログインしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し,「履修登録確認表」をクリックしてください。	

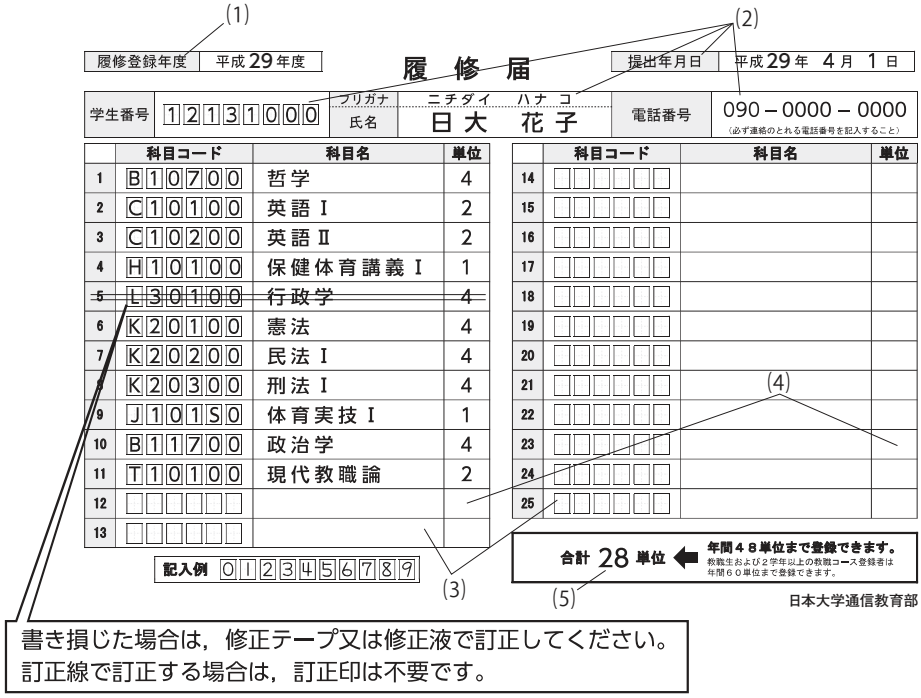
●履修登録の変更・取りやめ

同一履修年度かつまだ，学修を開始していない科目に限り，「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

1	履修登録方法の１・２の手順で，履修登録の画面まで進んでください。	
2	取り消したい科目の前の「消しゴム」部分をクリックし,「取消」に変わったら,登録確認 ボタンをクリックし，履修登録方法の４・５の手順で変更を完了させてください。	

② 「履修届」による申込み

「履修届」による申込みは，以下の要領で本誌巻末の「履修届」を作成し，教務課に提出してください。



⑴ 登録年度

本履修届にて履修登録する場合は，「平成 29 年度」と記入してください。

⑵ 学生番号・氏名・提出年月日・電話番号

電話番号は，記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

⑶ 科目コード・科目名

科目コード及び科目名は，『学修要覧』又は『コース履修の手引』を確認し，科目コード（６ケタ）を記入してください。不備がある場合は受理できませんので注意してください。

⑷ 単位

各科目の所定単位を記入してください。

⑸ 合計単位

必ず合計単位数を記入してください。

【よくある不備】

・科目コード及び科目名の記入漏れ
・科目コードと科目名の不一致
・不配当科目の記入（例：３学年から履修登録できる科目を２学年で「履修届」に記入する。）
学部や入学年度によって名称が異なる科目や登録できない科目があります。
特に教職コースの科目は注意が必要です。
・「卒業論文」，「博物館実習Ⅱ」，「博物館実習Ⅲ」，「教育実習」，「教育実践指導」及び「教育実習事前･事後指導」，「教職実践演習」は登録する必要がありません。
「履修届」とは別の手続きとなります。『学修要覧』及び『コース履修の手引』を確認してください。
・履修登録済みの科目の記入
一度履修登録した科目は在学中有効ですので，再度履修登録することはできません。
もし記入された場合は，『履修登録エラー一覧』に『すでに履修登録済の科目です。』と表記されます。
・スクーリング等で所定単位が４単位の科目で，２単位分修得している科目は登録できません。履修登録済と同様の扱いとなります。
・単位修得済み科目の記入
単位修得済み科目の登録はできません。
もし記入された場合は，『履修登録エラー一覧』に『修得済みのため再履修できません。』と表記されます。
・年間登録単位を超過
年間 48 単位（教職生及び２学年以上の教職コース履修生は 60 単位）まで履修できます。
もし超過して記入された場合は，『履修登録エラー一覧』に『履修制限単位を超えた履修登録はできません。』と表記されます。

③　履修登録上の注意

・「履修届」の不備内容によっては，受理せず返却する場合があります（不受理）。したがって，科目修得試験やスクーリング併用試験方式等の履修登録締切日以前に「履修届」が大学に到着していても，不受理の場合は履修登録にならず，スクーリングの申し込みができません。
・履修登録を行っただけでは，教科書の配本はありません。配本申請又は教材購入を別途行う必要があります。
・履修済みの科目の変更，取消しは同一履修年度かつ学修を行っていない（リポート未提出，スクーリング申込みなし等）場合のみ可能です。追加は上限に達していない場合，Web 履修登録や巻末の「履修届」をコピーして使用してください。
・履修登録を行っただけでは，スクーリングの申込となりません。
『2　講座を申し込む』を必ず行ってください。

2　講座を申し込む

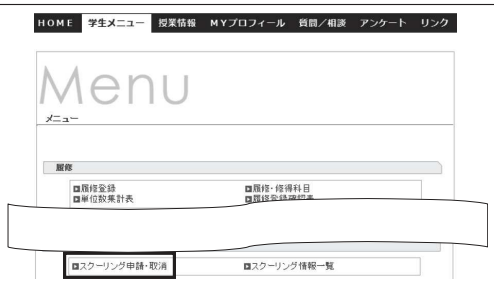
申し込み上の注意事項
「ポータルサイト」と「受講届」の両方で申込みがあった場合は，「ポータルサイト」の内容を有効とします。

①「ポータルサイト」による申込み

●申込みの前に

1	申込みには，ID とパスワードが必要です。 ID ＝学生番号 初期パスワード＝自分の西暦生年月日（半角数字８桁）
2	申込みには，パソコンのメールアドレスの登録が必要です。 登録していない場合は，「ポータルサイト」にある「NU-AppsG（在学生専用メールアカウント)」を参照して登録してください。
3	事前に履修登録が必要です。履修登録を行っていない科目は表示されません。 94 ページ参照

●申込方法

1	通信教育部公式ホームページ（URL:http://www.dld.nihon-u.ac.jp）の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し，「スクーリング申請・取消」をクリックしてください。	

3	「未申請スクーリング一覧」から申請したいスクーリングのチェックボックスを選択し，申請 ボタンをクリックしてください。 **※履修登録を行った科目のみ表示されます。必ず事前に履修登録を行ってください。**	

●受付完了

申請受付が完了すると，登録されているパソコンのメールアドレスに申請受付メールが配信されます。配信されない場合は，「スクーリング･メディア授業申請・取消」内の「申請済みスクーリング一覧」に該当講座があることを確認してください。	

●申込確認

随時，「ポータルサイト」で確認することができます。

1	申込方法の１の手順で，ログインしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し，「スクーリング・メディア授業情報一覧」をクリックしてください。	
3	申込みをしたスクーリング・メディア授業の一覧が表示されますので，内容を確認してください。	

●申込内容の変更・取りやめ

申込期間内に限り，「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

1	申込方法の１～２の手順で，申請中のスクーリングの画面まで進んでください。
2	「申請済みスクーリング一覧」より取消したいスクーリングのチェックボタンを選択し，取消 ボタンをクリックしてください。申込内容を変更する場合は，いったん取消後，再度申請してください。

※申込期限後に，スクーリング申込，変更はできません。

② 「受講届」による申込み（ポータルサイトで申込みを行った場合は不要です）

「受講届」による申込みは，以下の要領で本誌巻末の「受講届」を作成し，教務課に提出してください。それ以外の用紙による申込みは無効です。

（１）記入上の注意

（ア）講座コード

開講講座のコード番号です。記入にあたっては，「開講講座表」の「講座コード」欄を参照してください。

（イ）講座名

開講される講座の名称です。この講座名を「開講講座表」を参照の上，記入してください。間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

（ウ）充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。記入にあたっては，「開講講座表」の「科目コード」欄，及び後掲の「（２）注意事項」を参照してください。

（エ）学生番号・氏名

（２） 注意事項（「総合科目」，「英語」などの外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば，「英語」の講座は，「英語Ⅰ」，「英語Ⅱ」，「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは，各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって，英語をスクーリングで受講する際には，「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか，各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では４桁の講座コードと６桁の充当科目コードの計 10 桁のコードによって，受講講座（科目）を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄，「科目コード」欄に記載されています。

「英語」の場合，「開講講座表」の「科目コード」欄に４つのコードが記載されていますが，各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを，１つ選択してください。

《記入例》（講座「英語 C」において「英語Ⅲ」を選択した場合）

講座コード	開講講座名	担当講師名	充当科目 科目コード	充当科目 科目名
●●●●	英語 B	○○ ○○	C10100	英語 Ⅰ
			C10200	英語 Ⅱ
			C10300	英語 Ⅲ
			C10400	英語 Ⅳ
▲▲▲▲	英語 C	○○ ○○	C10100	英語 Ⅰ
			C10200	英語 Ⅱ
			C10300	英語 Ⅲ
			C10400	英語 Ⅳ

（イ）　（ア）　（エ）　（ウ）

（ア） 希望する講座として「英語 C」を選択。

（イ）「英語 C」を選択したことによって講座コードは「▲▲▲▲」となる。

（ウ） その講座で充当する科目として「英語Ⅲ」を選択。

（エ）「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「C10300」となる。

（オ）「受講届」の記入は，講座コードに「▲▲▲▲」，充当科目コードに「C10300」と記入します。また講座名に「英語 C」と記入します。

※「・・・演習」という講座も同様で，例えば「英語学演習」の場合，「英語学演習Ⅰ」，「英語学演習Ⅱ」及び「英語学演習Ⅲ」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習Ⅰ～Ⅲ」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記入する充当科目コードによって各自が大学に申告してください。

記入上の注意事項

（1） 黒のボールペンを使用し，楷書で正確に記入してください。
（2）「受講届」提出締切後の追加，変更はできません。
（3） 記入誤り，記入漏れによる追加変更は一切いたしません。
（4） 次の場合，大学の判断により事務的な処理にて講座の決定を行いますので，希望講座を受講できない可能性があります。
・乱雑な記入
・記入誤り，記入漏れ
・記入した講座コード，講座名，充当科目コードの不一致

（3）「受講届」を提出する（提出締切日は表紙を参照）

「受講届」の記入が終わったら，申込内容の控えをとり，「受講届」を教務課に提出してください。提出方法は以下の２通りです。

ア 教務課窓口に直接提出

教務課前に設置のポスト（白色）に投函してください。【提出期限は事務取扱時間内】

イ 郵送で提出する

「受講届」を封筒に入れ，切手貼付の上，郵送してください。【提出締切日必着】

郵送提出においての注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については，いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合，受講ができなくなりますので，特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合，大学での受領記録が残りませんので，「スクーリング受講資格審査結果通知書」が届くまで，郵送した際の受領証を必ず保管してください。紛失の場合，郵便追跡確認ができなくなります。

また，リポート等，他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい，事故の原因になります。**「受講届」は単体で送付してください。**

3　受講講座の変更・追加

①　受講講座変更届の作成

用紙で受講講座の変更・追加をする場合は，本誌巻末の「受講講座変更届」を使用し，以下の記入例を参考に作成してください。

※変更・追加のために，複数の「受講届」用紙を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は，正しい申込みが判別不能となり，申込みが「無効」となりますので，決して使用しないでください。

②　記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに変更前の申込講座の「スクーリング名称」，「開講期」，「講座コード」，「講座名」及び「充当科目コード」を明記してください。また，学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

※記入する講座が５講座以上の場合はコピーして使用してください。

③　提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

④　提出締切

「受講届」提出の締切日と同一（10月5日（木））です。別途の日程はありません。

※郵送の場合は受講届の提出と同様に提出締切日までの必着です。

《記入例》

平成 29 年 10 月 5 日

日本大学通信教育部　御中

平成 29 年度スクーリング受講講座変更届

標記のことについて，既に「受講届」にて申し込んだ受講講座を下記のとおり変更いたしたく，本書面をもってお願いいたします。

記

（当初の受講講座）

スクーリング開講期	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜１時限	AH11	政治学	B11700
火曜２時限	AH21	心理学B	B12100
火曜３時限	AH31	英語A	C10100

（変更後の受講講座）

スクーリング開講期	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜１時限	AH11	政治学	B11700
火曜４時限	AH41	哲学A	B10700
火曜５時限	AH51	英語B	C10100

上記のとおり相違ありません。

学生番号	2 2 1 7 3 9 9 9
フリガナ	ニチ　ダイ　　タ　ロウ
氏名	日　大　　太　郎
自宅電話番号	03－5275－8911
緊急時電話番号	

教務課受付印

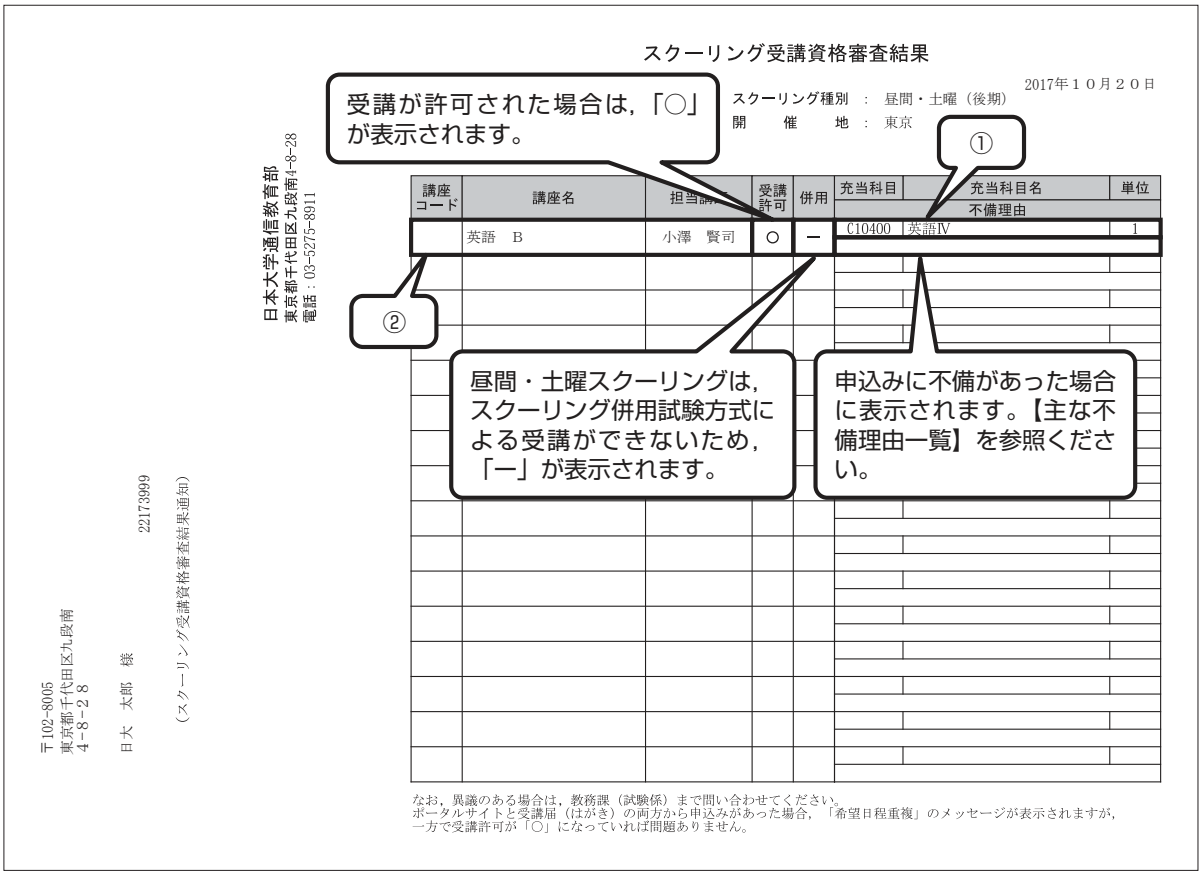
提出締切日：［窓口］10月5日（木）事務取扱時間内厳守
［郵送］10月5日（木）必着

Ⅶ　申込講座の許可と不許可

1　受講許可を確認する

申込内容に基づき大学が受講資格審査を行い，その結果を受講資格審査結果通知により通知します。**ポータルサイトでの申請者には送付されません。ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて同様の通知を PDF ファイルで閲覧できますので，確認してください。**

《受講資格審査結果通知書例》



① **充当科目コードの確認**

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」及び「開講単位数」欄に記載された内容が，申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ…」の区別のあるものや，科目の名称が類似している科目がありますので，十分注意してください。

② **講座コード・講座名・時間割の確認**

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に記載された内容が，申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合があります。

【主な不備理由一覧】

○申請・受付前の履修登録なし

受講届のみ提出している場合に表示されます。**スクーリングの受講はできません。**

○スクーリング受講希望日程重複

ポータルサイトと受講届の両方で申込みを行った場合に表示されます。**スクーリングの受講は可能です。**なお，この不備はスクーリング受講後もポータルサイト上で表示されます。

○リポート＋科目修得試験方式確定

科目修得試験にすでに合格している場合に表示されます。**スクーリングの受講はできません。**

2　講座振り分け及び受講不許可について

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者が定員を超えた場合，以下の①から③のいずれかで対応させていただきます。

① **超過した人数分の学生を他講師担当の同一科目講座へ振り分ける。**

② **新たに他講師担当の同一科目講座を増設し，超過した人数分の学生をその講座へ振り分ける。**

※①及び②の場合，振り分けられた講座を受講することになります。担当講師，授業内容は振り分けられた講座の内容に変更されますのでご注意ください。

③ **超過した人数分の学生を受講不許可にする。**

※希望した講座が受講できないことになります。また，新たに代わりの講座を申し込むこともできません。あらかじめご了承ください。

振り分けられた講座の受講を辞退する場合には，「3　許可講座を辞退する」を参照し，辞退手続を行ってください。なお，①及び②についても受講辞退後，新たに代わりの講座を申し込むことはできません。あらかじめご了承ください。

3　許可講座を辞退する

この手続は，振込用紙を受け取った後，やむを得ない理由等により受講許可講座の全部又は一部の受講ができなくなった場合，その講座の辞退を行う手続です。

ただし，この辞退手続はスクーリング受講料等納入前であることが条件となります。スクーリング受講料等納入後に受講辞退の意思表示があったとしても受講料等は一切返還しません。

また，一部辞退を行わないまま，希望する講座を受講しようとした場合，受講申込講座全ての受講料をお支払いいただくことになります。

講座の辞退を行う場合には以下により手続を行ってください。

①　手続書類

以下の(1)及び(2)を教務課試験係まで提出してください。

（1）「受講申込辞退願」【各種用紙】 （2）　振込用紙 （3）　362 円分郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料）を貼付した，長形３号（A ４判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自己の郵便番号，住所及び氏名を明記）

※(3)は，一部の講座を辞退する場合のみ必要です。

②　手続期限　いかなる場合でも期限後は手続できません。

10 月 27 日（金）《事務取扱時間内必着》

③　提出先　教務課試験係

事務取扱時間内であれば窓口での提出もできます。

※この手続は他の講座への変更・追加申込みではありませんので注意してください。

Ⅷ　受講料等の納入

受講許可の下りた講座に対し，振込用紙を送付します。
申込講座の辞退がない場合，受講料を期限までに納入してください。

1　受講料：1講座 10,000 円×受講講座数
「情報概論」のみ 13,000 円（コンピュータ等実習料を含むため）

2　振込用紙発送予定日：10 月 20 日（金）

3　納入期限：11 月6日（月）　銀行窓口　※当日取扱時間まで

4　納入方法
必ず，大学から送付される振込用紙により銀行窓口から振り込んでください。

注　意　事　項

①　納入に際しての注意事項

（1）　銀行（ゆうちょ銀行を除く）窓口のみの取扱いとなります。会計課窓口及び郵送での納入はできません。

（2）　自動振込機（ATM）及びネットバンキングからの納入は受付けません。
銀行係員が勧めても使用しないでください。

（3）　振込用紙に記載された事項を訂正したものは受け付けできません。

②　その他の注意事項

（1）　発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は，至急会計課に連絡してください。
また，期日までに納入できない事情が発生した場合は，至急教務課に連絡してください。

（2）　領収書（銀行領収印の押印されているもの）は，受講時及び試験時に提出を求められる場合があります。
受講期間中は，学生証と共に常に携帯してください。

（3）　受講料等を納入したのちに受講申込辞退の意思表示があったとしても，受講料等の返還は行いません。

Ⅸ　受講準備

1　使用教材の入手

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学修効果が期待できません。受講許可後，本誌のシラバス（教科書，参考書）で使用教材が，『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上，以下の要領で教材を入手してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材購入方法の見分け方は，後掲の「③教材入手方法の見分け方」を参照してください。

注　意　事　項

すでに所持している『通信教育教材』であっても，教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので，科目名のみによらず，シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し，不一致の場合は，教材を入手してください。

なお，教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

①　使用教材が『通信教育教材』の場合

通材 印が付されている教材は，本誌「各種用紙」の「教材配本申請書」を使用し配本申請または「教材購入願」を使用し購入してください。**既に今回の使用教材を入手している場合は，改めて「教材配本申請書」によって配本申請または「教材購入願」によって購入する必要はありません。**教材の送付先は，すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後，約１週間を要しますので，受講許可を確認した後，速やかに手続きを行ってください。

※本手引掲載の教材価格は平成 29 年度の教材価格です。

なお，『通信教育教材』について不明な点は，研究事務課（電話 03-5275-8890）にお問い合わせください。

②　使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は，一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合，**丸沼** 印のついている本については，丸沼書店で購入できます。

（書店名）（株）丸沼書店
（所在地）〒 101-0061　東京都千代田区三崎町２- 8-12
（電　話）03-3261-4540
（ＦＡＸ）03-3261-0118
（営業時間）９：00 ～ 20：00（日曜日：10：00 ～ 19：00）
（購入方法）　直接店頭（133 ページを参照）で購入のほか以下（１）～（３）の方法で通信販売も可能です。

（１）　代金引換払（手数料 260 円が別途かかります）
本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上，上記あてに郵送又は FAX をしてください。

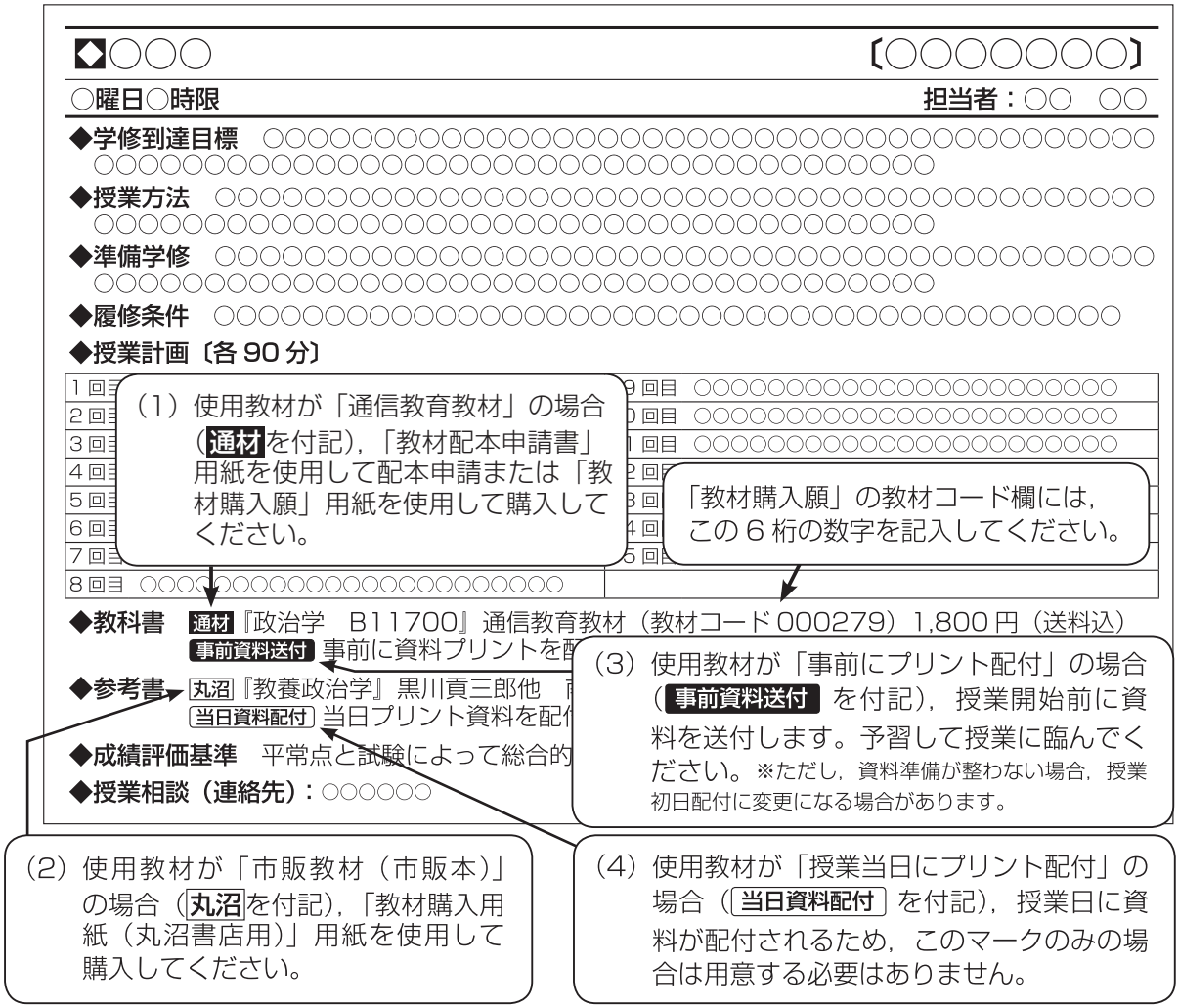
（２）　為替（前納）
本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額分の定額小為替又は普通為替を同封して上記あてに郵送してください。

（３）　現金書留（前納）
本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は，丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わる場合があります。あらかじめご了承ください。

③ 教材入手方法の見分け方



※事前資料送付・当日資料配付については，教務課（電話 03-5275-8911）にお問い合わせください。

④ スクーリング受講に伴う六法の携行及び指定の六法

法律系の科目を受講する場合，特にシラバスに記載がなくとも『六法』は必携となりますので，各自用意の上，授業に臨んでください。

通信教育部指定の六法について

スクーリング試験時に参照が許可される『六法』は，次の９種類に限ります。ただし，担当講師から別途指示がある場合は，この限りではありません。

《試験時に参照が許可される六法》
岩波書店『コンパクト六法』，『セレクト六法』，『基本六法』
有 斐 閣『六法全書』，『ポケット六法』
第一法規『司法試験用六法』，『旧司法試験用六法』，『新司法試験用六法』
三 省 堂『デイリー六法』

注意事項：

（1） 上記指定の『六法』に，書き込み等がある物は，参照物として認められません。したがって，『六法』は学修時に使用するものと試験時に使用するものとで別に用意してください。

（2） 判例・解説つきのもの（『六法』付録の小冊子等を含む）は参照物としては認められません。

2　通学定期券の購入手続

通学定期券は，正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は，以下のとおりです。

学生証裏面シールへの記入	①　「学生番号」，「氏名」，「現住所」を黒のボールペンで記入してください。 ②　「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また，定期券が２枚に分かれる場合は２行に分けて記入してください。
学生課窓口で記入する所定用紙について	①　通学定期乗車券発行控（全員必要）［本誌巻末 131 ページ参照］ ②　通学証明書（都営地下鉄，都電，各路線バス等を利用する場合に通学する場合に必要） ③　滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
対象区間	自宅（又は滞在先）の最寄駅から以下「通信教育部最寄駅」までの最短経路
購入手続き	①　上記「通学定期乗車券発行控」を記入の上，学生証持参で事務取扱時間内に学生課窓口にて**「在籍確認」**印の押印を受けてください。 ②　通学定期券取扱駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し，押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。
その他注意事項	①　通学区間が変更となった場合は，学生課に届け出てください。 ②　年度内に学生証裏面シールの「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は，学生課へ届け出てください。 ③　**「在籍確認」**印は，年度内に限り有効です。

【通信教育部最寄り駅】

鉄道会社	最寄駅（市ヶ谷キャンパス）
ＪＲ東日本	総武線　市ヶ谷駅
都営地下鉄	新宿線　市ヶ谷駅
東京メトロ	有楽町・南北線　市ヶ谷駅

※最短経路とは所要の時間が最短，交通費が最安，乗換が最少である等の合理的な経路のことをいいます。

※途中経路や迂回経路は一切認められません。

注意事項

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると，鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。また，大学自体も通学定期券発行の指定から外され，他の学生に多大な迷惑をかけることになります。不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用の例】

①　現住所及び通学区間を偽ること。	③　他人に譲渡・貸与すること。
②　記名人以外が使用すること。	④　その他，不正に使用すること。

MEMO

X　オープン受講

通信教育部の在学生で既に修得した科目の受講を希望する場合もしくは社会人等（卒業生を含む）で受講を希望する場合，オープン受講の申込をすることで受講することができます。下記，流れに従い，手続きを行ってください。

項　　目	手　続　内　容
・『手引』入手 ・受講科目選択	・『手引』を読み，受講講座を決定する。 ※シラバスにて，「オープン受講：不可」と記載がある場合は，受講することはできません。
⬇	
使用教材の入手	・シラバスを参照し，教材を入手する。
⬇	
授業開始	・１階の掲示板で，講堂表を確認した上で，それぞれの講堂で受講する。 ※成績の評価は行わず，単位は付与しません。
⬇	
受講希望の講座を申し込む	・受講を希望する講座を本誌巻末の「オープン受講届」に記入し，教務課へ提出する。 ・表紙記載の締切日に注意してください。 【申込に必要な書類等】 ①スクーリングオープン受講届（本誌巻末） ②身分証明書コピー（学生証，運転免許証等）
⬇	
受講資格審査	各講座の申込者数等確認し，受講に支障がないか教務課にて資格審査を行います。
⬇	
許可通知書兼納金票の受け取り	・受講許可者に，「受講許可通知書兼納金票」を郵送します。 ・発送予定日から，５日経過しても「受講許可通知書兼納金票」が届かない場合は，教務課に連絡してください。
⬇	
受講料の納入	・納入方法は下記のとおりです。 ①窓口で手続きを行う場合 納金票と共にスクーリング受講料を会計課窓口にて現金で納入してください。 ②郵送で手続きを行う場合 ⑴定額小為替証書または普通為替証書で納入する場合 納金票と共に簡易書留にて教務課宛に郵送してください。その際，返信用封筒（長形３号，住所・氏名を明記の上，82 円切手貼付）を同封してください。 ⑵現金で納入する場合 納金票と共に現金書留便にて会計課宛に郵送してください。その際，返信用封筒（長形３号，住所・氏名を明記の上，82 円切手貼付）を同封してください。 ※受講料未納者は受講できません。
⬇	
手続完了	オープン受講の手続きは完了です。

XI 各種用紙

・履修届

・昼間・土曜スクーリング（後期）受講届

・オープン受講届（在学生用）

・オープン受講届（社会人等（卒業生用））

・スクーリング受講講座変更届

・受講申込辞退願

・教材配本申請書

・教材購入用紙（丸沼書店用）

・教材購入願（通信教育教材用）

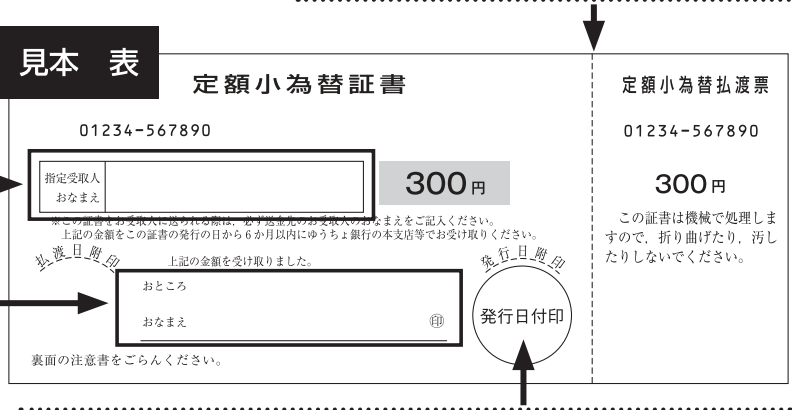
・通学定期乗車券発行控

「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「教材購入願」等の各種手続において，手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には，以下のことに注意してください。

なお，「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は，手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。

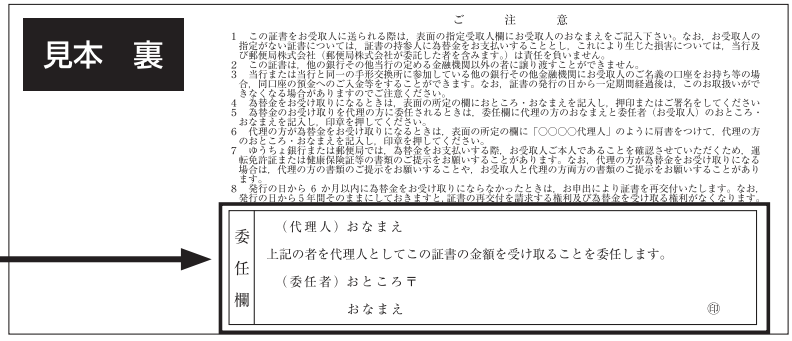
注意事項①
「証書」と「払渡票」は切り離さないでください。



注意事項②
これらの欄には何も記入しないでください。

「普通為替証書」も同様に，何も記入しないでください。

注意事項③
為替の有効期間は発行日から６か月以内ですが，金融機関への手続き等があるため，有効期間が２週間以上残っているものを送付してください。



注意事項④
この欄には何も記入しないでください。

注意事項⑤
右「受領書」は送付せず，各自で保管してください。郵便事故等で「為替」が行方不明になった場合，この「受領書」が必要になりますので，各種手続が完了するまで大切に保管してください。

（お客さま控）

履修登録年度	平成　　年度

履　修　届

提出年月日	平成　　年　　月　　日

学生番号		フリガナ 氏　名		電話番号	―　　― （必ず連絡のとれる電話番号を記入すること）

	科目コード	科　目　名	単位
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

	科目コード	科　目　名	単位
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

記入例　0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

合計　　単位　←

年間 48 単位まで登録できます。
教職生および 2 学年以上の教職コース登録者は
年間 60 単位まで登録できます。

日本大学通信教育部

□ 内をすべて記入してください。

提出年月日	平成　　年　　月　　日

昼間・土曜スクーリング（後期）受講届

学生番号									フリガナ	
									氏　名	

種別コード	A２

	曜日	時限	講座コード				講　座　名	充当科目コード					
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
合計　　講座（14 講座まで登録できます。）													

＜記入例＞

	曜日	時限	講座コード				講　座　名	充当科目コード					
1	火	1	A	H	1	1	政治学	B	1	1	7	0	0

※ 書き損じた場合は修正テープ，修正液で訂正してください。
※ 本票で**他のスクーリングの受講申込**はできません。

事務局使用欄

提出締切日：［窓口］10月５日（木）事務取扱時間内厳守
［郵送］10月５日（木）必着

通信教育部（在学生用）

平成　　年　　月　　日

スクーリングオープン受講届

下記のとおり，スクーリングのオープン受講を希望します。

学部・学科	学部　　学科 専攻　（　　）		
学　　年	年	学生番号	
フ リ ガ ナ			
氏　　名			

【希望スクーリング】

スクーリング種別		開催地	
講　座　名	講座コード	講座名	
	講座コード	講座名	
	講座コード	講座名	
	講座コード	講座名	
	講座コード	講座名	
受講希望理由			

学生証コピー貼付欄

【提出書類】
- ○　スクーリングオープン受講届
- ○　学生証コピー

事務局使用欄

社会人等（卒業生用）

平成　　年　　月　　日

スクーリングオープン受講届

下記のとおり，スクーリングのオープン受講を希望します。

卒業時 学部・学科	学部　　学科 専攻　（　　）	学　外
住所等	〒　　－ Tel：　　－　　－	
フリガナ		
氏　名		

【希望スクーリング】

スクーリング種別			開催地	
講　座　名	講座コード	講座名		
	講座コード	講座名		
	講座コード	講座名		
	講座コード	講座名		
	講座コード	講座名		
受講希望理由				

身分証明書コピー貼付欄

【提出書類】

○　スクーリングオープン受講届

○　身分証明書コピー

事務局使用欄

※　身分証明書として「マイナンバーカード」は，原則として使用できません。不明な点は，確認してください。

平成　　年　　月　　日

日本大学通信教育部　御中

平成 29 年度スクーリング受講講座変更届

標記のことについて，既に「受講届」にて申し込んだ受講講座を下記のとおり変更いたしたく，本書面をもってお願いいたします。

記

（当初の受講講座）

スクーリング開講期	講　座コード	講座名	充当科目コ ー ド

（変更後の受講講座）

スクーリング開講期	講　座コード	講座名	充当科目コ ー ド

上記のとおり相違ありません。

学 生 番 号	
フ リ ガ ナ	
氏　　名	
自宅電話番号	
緊急時電話番号	

教務課受付印

提出締切日：［窓口］10月5日（木）事務取扱時間内厳守
［郵送］10月5日（木）必着

併せて提出するもの
全講座辞退→振込用紙
一部講座辞退→振込用紙
返信用封筒（長形３号，362円切手貼付）

平成　　年　　月　　日

日本大学通信教育部　御中

平成29年度昼間・土曜スクーリング（後期）受講申込辞退願

1　学生番号 ______________________

2　氏　名（フリガナ） ______________________

3　連絡先電話番号 ______ − ______ − ______

4　辞退内容　□　**全講座辞退**
（□にチェック）　⇒　振込用紙記載講座すべてを辞退する場合
□　**一部講座辞退**
⇒　振込用紙記載講座の一部を辞退する場合，辞退講座のみ を以下へ記入

講座コード	講座名	講座コード	講座名

5　辞退理由（詳述）

____

____

※　**提出期限【教務課必着】10／27（金）　※提出期限以降の辞退手続きはできません。**

※　振込用紙と一緒に送付すること。

※　この「辞退願」は「平成29年度昼間・土曜スクーリング（後期）」専用です。他のスクーリングの辞退手続には使用できませんので，各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。

※　一部講座辞退の場合，362円分の郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料を貼付した長形３号（A4判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自分の郵便番号・住所・氏名を明記）を同封すること。

※　辞退手続は１回しかできません。

教務課受付印	会計課受付印

配本申請（無料）

平成　　年　　月　　日

日本大学通信教育部　御中
（提出先：研究事務課）

教　材　配　本　申　請　書

学　生　番　号	氏　　名
連絡先電話番号	－　　－

（太線枠内にボールペンで記入してください）

No	教材コード （科目コードではありません）	教　材　名	配　本 単位数
1	0 0		単位
2	0 0		単位
3	0 0		単位
4	0 0		単位
5	0 0		単位
6	0 0		単位
7	0 0		単位
8	0 0		単位
9	0 0		単位
10	0 0		単位
		合　　計	単位

ポータルサイト「教材発送照会」の「配本申請」から申請できます。
ポータルサイトから申請できない方は，この用紙を使用してください。

※年度内２回まで，計 32 単位分まで教材の申請ができます。
※科目履修生は申請できません。「教材購入願」にて購入してください。
※消えないボールペンを使用し，記入してください。
※書ききれない場合には，用紙をコピーして２枚用いてください。
※「教材コード」は『教材要綱』『各種スクーリングの手引』で確認し，記入してください。「教材コード」と「科目コード」は異なりますので注意してください。
※２冊組教材はセットコードを記入してください。
※スクーリング等で指定する 丸沼 表記の教材は，対象外です。

事務局使用欄

教材入手の手続と注意

―「教材配本申請書」,「教材購入願」―

研究事務課

通信教育教材を入手する場合は，以下のとおり，手続きしてください。

1　教材の入手方法について

通信教育部で扱う教材は,「通信授業」（在宅学修）を目的とした教材です。

一部のスクーリング等で,通信教育教材（ 通材 と表記）を使う場合も,対象となります。

通信教育部で扱う教材の入手方法は，2通りあります。

なお，教材コード・販売価格等は『ポータルサイト』・『スクーリングの手引』に掲載されます。

①「教材配本申請書」による配本（無料）

正科生のみ対象となります。年度内2回まで合計32単位分まで申請できます。

所定の「教材配本申請書」で申請してください。

一度提出した書類の追加・変更はできません。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「配本申請」からも申請できます。

②「教材購入願」による購入（有料）

教材を有料で購入することができます。

科目履修生の教材入手や,「教材配本申請書」の回数・単位数の上限を超えた場合,その他の理由で教材を入手したい場合には，有料で購入することができます。

教材を購入する場合,「教材購入願」に必要事項を記入し，次の手続により購入してください。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「教材購入」からも用紙を作成・出力できます。

(1) 窓口の場合

会計課窓口にある「教材購入願」に必要事項を記入し，現金を添えて会計課窓口で手続をしてください。

(2) 郵送の場合

『スクーリングの手引』巻末の「教材購入願」に必要事項を記入し，費用と併せて会計課に郵送してください(「教材購入願」裏面の注意事項を確認してください)。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「教材購入」からも用紙を作成・出力できます。

2　注意事項

① 教材は「通信教育教材」に限り購入できます。スクーリング等で指定する市販教材（丸沼表記の教材）は，対象外です。

② 手続後の変更・取消し，納入金額の返還はできません。

③ 印刷教材は，大学登録住所あてに送付します。教材が手元に届くまで約1週間を要しますので，余裕をもって手続をしてください。

④ 窓口での教材配本はできません。

丸 沼

教 材 購 入 用 紙（丸沼書店用）

市販教材（市販本）購入用

※丸沼印の教材を郵送にて購入の際は，この用紙で申し込んでください。
詳細は，「使用教材の購入」のページを参照してください。

（送付先）丸沼書店

平成29年度　昼間・土曜スクーリング			
申　込　日	平成 29 年　　月　　日		
科　目　名	書　　名	教材費（税込）	送　　料
小　　計		円	円
合　　計		円	
購入方法 （いずれかに○）	①代金引換　　②定額小為替・普通為替　　③現金書留		

※下記の住所，氏名の欄は返信用に使用しますのではっきり書いてください。

送り先	住　　所	〒　　－
	氏　　名	
	電 話 番 号	（　　）

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。
※不足する場合は複写の上，使用してください

購入方法は裏面を参照してください。

【購入方法】

（1）～（3）の方法で通信販売も可能です。

（1） 代金引換払（手数料 260 円が別途かかります）
本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上，下記宛てに郵送又はFAX をしてください。

（2） 為替（前納）
本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を同封して下記へ郵送してください。

（3） 現金書留（前納）
本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額を同封して下記へ郵送してください。

不明な場合は，丸沼書店に直接問い合わせてください。

※送料について
送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので，郵便為替・現金書留の場合，ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については，返金いたします。また，代金引換払の場合，書籍代＋送料（実費）＋手数料（260 円）を受取時にお支払いください。

（書　店　名）（株）丸沼書店
（所　在　地）〒 101 - 0061
東京都千代田区三崎町 2 - 8 - 12
（電　　話）03 - 3261 - 4540
（F　A　X）03 - 3261 - 0118
（営業時間）9：00 ～ 20：00
（日曜日：10：00 ～ 19：00）

通 材

平成　　年　　月　　日

日本大学通信教育部　御中
（提出先：会計課）

教 材 購 入 願（通信教育教材用）

学　生　番　号	氏名	フリガナ
連絡先電話番号		－ －

（太線枠内にボールペンで記入してください）

	教材コード	科　目　名	金　額	スクーリング種別 講　座　名
1	0 0 0			
2	0 0 0			
3	0 0 0			
4	0 0 0			
5	0 0 0			
6	0 0 0			

合計科目数　　科目　　合計金額　　円

※ボールペンで記入してください。
※「教材コード･科目名･金額」は『ポータルサイト』『スクーリングの手引』で確認し，必ず記入してください。
「教材コード（6桁）」と「科目コード」は異なりますので，注意してください。
※「スクーリング種別・講座名」にはスクーリング・メディア授業において『通信教育教材』を使用する場合にのみ記入してください。
※『スクーリングの手引』における各講座の教科書（参考書）欄で指定されているもの，例えば，「**通材**『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード 000279）」と記載されている教材を購入する場合は「政治学」を科目名として記入してください（受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入）。

会計課領収印

「通信教育教材」の購入について

『通信教育教材』は「配本申請」または「教材購入」で入手できます。
「教材購入」をする場合，「教材購入願」を使用し，以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は，『通信教育教材』のみです。
スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本)』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

1　購入手続

① 窓口手続
「教材購入願」に必要事項を記入し，現金を添えて会計課窓口へ提出してください（なるべく釣り銭のないようにしてください)。

② 郵送手続
現金書留又は為替が利用できます。

(1) 現金書留での購入
「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。**その際，必ず釣り銭のないようにしてください。**
注意：普通郵便の中に現金を封入することは，郵便法によって禁止されています。また，郵便事故による補償もありませんので，必ず現金書留を利用してください。

(2) 為替での購入
「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。
注意：郵便事故防止のため，なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用してください。**為替には何も記入せず送付してください。**

2　注意事項

① 手続後の変更･取り消しはできません。また，返金もいたしませんので注意してください。

② 教材は大学に登録されている住所へ発送し，**窓口ではお渡ししません。**
教材が手元に届くまでに**約１週間**要しますので，特にスクーリング，メディア授業で使用する場合は「受講資格審査結果通知書」を確認した後，速やかに購入手続きをしてください。

通学定期乗車券発行控

平成　　年　　月　　日

学　科		学 年	学 生 番 号
大 学 院			

フリガナ		性 別	年 齢
氏　名		男･女	才

現 住 所	
電　話	（　　）

通学区間	会社線名： 駅～　　駅　　経由 会社線名： 駅～　　駅　　経由

※記入後，学生課に提出すること。

※現住所・通学区間等に変更が生じた場合は学生課に届けること。
※現住所・通学区間等に偽りがあった場合には，学則により懲戒を行う。

日本大学通信教育部長　殿

平成２９年度スクーリング受講に係る通学定期券の使用について

私は，平成２９年度　以下のスクーリングを受講する予定です。
つきましては，当該スクーリングを受講しなくなった場合には，学生課に申し出た上，通学定期券の使用を中止いたします。
なお，万一，不正使用した場合は，学則に基づく処分を受けることを誓約いたします。
また，本件について，大学から呼び出しされた場合は，その指示に従うことを併せて誓約いたします。

受講スクーリング：

学生番号

氏　　名

以　　上

Ⅻ　付　録

校舎案内

市ヶ谷キャンパス　【所在地】〒 102-8005　東京都千代田区九段南 4-8-28

JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅下車　徒歩 3 分
都営地下鉄新宿線，東京メトロ有楽町線・南北線　市ヶ谷駅 A2 出口から　徒歩 2 分

丸沼書店案内図

JR 中央・総武線（各駅停車），都営地下鉄三田線　水道橋駅東口から　徒歩 2 分
都営地下鉄三田線・新宿線，東京メトロ半蔵門線　神保町駅 A4 出口から　徒歩 5 分

MEMO

スクーリング手続　チェックシート

このシートは，受講届の記入からスクーリングを受講するまでの確認用です。

チ　ェ　ッ　ク　項　目	参　　照
◆受講届の記入	
□ 希望する科目の履修登録は済んでいますか	Ⅵ-１　履修登録をする 表紙（③履修登録締切日）
□ 申し込む「受講届」用紙の選択に間違いはありませんか	巻末「受講届」
□ [　　]内の必要事項の記入漏れはありませんか （講座コード・講座名・充当科目コード・学生番号・氏名）	Ⅵ-２　講座を申し込む ◆各スクーリングの開講講座表
□ 講座コード・講座名・充当科目コードは一致していますか	◆各スクーリングの開講講座表
□ 希望科目の受講条件は満たしていますか （配当学年・適用カリキュラム・その他受講条件）	Ⅳ-１「開講講座表」の見方 ◆各スクーリングの開講講座表
□ 申し込む開講曜日，開講時限は間違って記入していませんか	◆各スクーリングの開講講座表
□ 修得済科目を申し込んでいませんか	・単位照合票 ・単位修得状況確認（ポータルサイト）
◆受講届の提出	
□ 提出締切日に間に合いますか （郵送の場合は締切日必着）	表紙（③受講届申込締切日） Ⅵ-２　講座を申し込む
□ 〈推奨〉申込内容の控えはありますか（受講届のコピー） □ 申込完了のメールは届いていますか（ポータルサイトからの申込の場合のみ）	
□ 〈推奨〉特定記録郵便で発送しましたか	Ⅵ-２　講座を申し込む
◆受講料の納入	
□ ポータルサイト「スクーリング・メディア情報一覧」又は，受講資格審査結果通知の内容と振込用紙の内容に間違いはありませんか	Ⅶ-１　受講許可を確認する
□ 受講料の納入期限は厳守していますか	Ⅷ　　受講料等の納入

各種連絡先

○スクーリングの手続等に関する事項
教　務　課　　03-5275-8911

○各種学修相談に関する事項
学修支援ｾﾝﾀｰ　　03-5275-8857

○受講料の振込に関する事項
会　計　課　　03-5275-8925

○通学定期・学割・滞在先届に関する事項
学　生　課　　03-5275-8921

○教材（教科書）に関する事項
研究事務課　　03-5275-8890

DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY
編集兼発行人　関 正晴　〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部